

本書の構成

本書をお読みにする前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章 名称と働き

この章では、サーバ本体、キーボード、マウス、ベースボードの各部の名称と働きについて説明しています。

第 2 章 セキュリティについて

この章では、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るためのセキュリティ設備について説明しています。

第 3 章 基本的な操作

この章では、電源の入れ方や切り方、フロッピーディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作について説明しています。

第 4 章 内蔵オプションの取り付け

この章では、本サーバへの内蔵オプションの取り付け方法について説明しています。

第 5 章 ハードウェアの設定について

この章では、本サーバを動作させる上で必要な環境設定の方法について説明していません。

第 6 章 保守について

この章では、日常のお手入れの方法や、トラブル発生時の解決方法などの保守情報について説明しています。

第 7 章 技術情報

この章では、サーバ本体の仕様および運用上の留意点について説明しています。

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本サーバをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本サーバをお使いください。また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本サーバの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のサーバ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）



当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波ガイドライン適合品




本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
      ↑  ↑
```

- ・ ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- ・ ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- ・ CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」 ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」 ボタン→「プログラム」 →「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
PRIMERGY L100E	サーバ本体/本サーバ
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0	Windows NT Server 4.0

■ サーバのタイプの呼び方

本文中のタイプ名を次のように略して表記します。

タイプ	本文中の表記
OS がインストールされていないタイプ。	HD タイプ
HD タイプと区別するとき、OS がインストールされているタイプの名称。	OS インストールタイプ
Windows 2000 Server インストールおよびレイシステム構成タイプ。特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。	Windows 2000 アレイタイプ
Linux サービスバンドルタイプ。	Linux タイプ
Linux サービスバンドルアレイタイプ。	Linux アレイタイプ

警告ラベル／注意ラベル

本サーバには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。
警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel、Pentium、Celeron は、米国インテル社の商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章 名称と働き

1.1 サーバ本体前面	12
1.2 サーバ本体背面	13
1.3 サーバ本体内部	14
1.4 キーボード／マウス	15
1.4.1 キーボード	15
1.4.2 マウス	16
1.5 ベースボード	17

第 2 章 セキュリティについて

2.1 セキュリティについて	20
2.1.1 ハードウェアのセキュリティ	20
2.1.2 ソフトウェアのセキュリティ	21

第 3 章 基本的な操作

3.1 ラックドアを開ける	26
3.2 電源を入れる	28
3.3 電源を切る	29
3.4 フロッピーディスクのセット／取り出し	31
3.4.1 取り扱い上の注意	31
3.4.2 フロッピーディスクのセットと取り出し	33
3.5 CD-ROMのセット／取り出し	34
3.5.1 取り扱い上の注意	34
3.5.2 CD-ROM のセットと取り出し	35

第 4 章 内蔵オプションの取り付け

4.1 内蔵オプションの種類	38
4.2 トップカバーの取り外し	40
4.3 拡張RAMモジュールの取り付け／取り外し	42
4.3.1 取り付け／取り外し時の手順と注意	42
4.3.2 故障メモリの切り離し機能	44
4.4 内蔵CD-ROMドライブユニットの取り付け	45
4.5 内蔵ハードディスクユニットの取り付け	49
4.6 拡張カードの取り付け	53
4.6.1 拡張カードの種類	53
4.6.2 取り付けの手順と注意	54
4.6.3 SCSI カードの留意事項	58
4.6.4 LAN カード／オンボード LAN の留意事項	60

4.6.5 通信カード V/X	60
4.6.6 ISDN カード	60
4.6.7 RS-232C カード	61
4.6.8 リモートサービスボード	61

第 5 章 ハードウェアの設定について

5.1 セットアップの概要	64
5.2 ハードウェアの設定	65
5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う	66
5.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき	66
5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了	67
5.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作	68
5.3.4 メニューと項目一覧	69
5.3.5 Main メニュー	70
5.3.6 System Information メニュー	72
5.3.7 Product Information メニュー	73
5.3.8 Disk Drives メニュー	74
5.3.9 Onboard Peripherals メニュー	77
5.3.10 Power Management メニュー	79
5.3.11 Boot Options メニュー	81
5.3.12 Date and Time メニュー	82
5.3.13 System Security メニュー	83
5.3.14 IPMI Configuration メニュー	85
5.3.15 Console Redirection メニュー	88
5.3.16 Advanced Options メニュー	89
5.3.17 Load Default Settings メニュー	94
5.3.18 Abort Settings Change メニュー	94
5.4 FastBuild ユーティリティを使う	95
5.4.1 FastBuild ユーティリティの起動と終了	96
5.4.2 FastBuild ユーティリティメニュー画面	97
5.4.3 View Drive Assignments メニュー	98
5.4.4 Define Array メニュー	99
5.4.5 Delete Array メニュー	104
5.4.6 Rebuild Array メニュー	105
5.4.7 Controller Configuration メニュー	107
5.5 BIOS 設定情報の退避/復元	108

第 6 章 保守について

6.1 本サーバの確認	116
6.2 お手入れ	117
6.2.1 サーバ本体のお手入れ	117
6.2.2 キーボードのお手入れ	117
6.2.3 マウスのお手入れ	118

6.2.4	フロッピーディスクドライブのクリーニング	119
6.2.5	各オプション装置について	120
6.3	バックアップ	121
6.3.1	バックアップの必要性	121
6.3.2	バックアップ装置とソフトウェア、およびその運用	121
6.4	トラブルシューティング	123
6.4.1	サーバ本体について	123
6.4.2	ディスプレイについて	124
6.4.3	フロッピーディスクドライブについて	125
6.4.4	内蔵ハードディスクユニットについて	125
6.4.5	CD-ROM ドライブユニット (オプション) について	125
6.4.6	外付け SCSI 装置について	126
6.5	エラーメッセージ	127
6.6	イベントログ	129
6.6.1	イベントログを採取するための設定	129
6.6.2	イベントログの参照	130
6.7	Server Management Tools	131
6.7.1	Server Management Tools の起動と終了	132
6.7.2	イベントログの参照/保存/消去	134
6.7.3	Remote Control Service をご使用になる前に	136
6.8	保守員に連絡するときは	137

第 7 章 技術情報

7.1	仕様	140
7.1.1	本体仕様	140
7.1.2	内蔵ハードディスクユニットの仕様	141
7.2	24時間運用上の留意点	142
7.3	LAN 経由の電源投入/切断時の留意点	143
7.4	リモートコントロール機能について	144
7.4.1	本サーバと管理端末の接続	144
7.4.2	Remote Control ユーティリティの操作	145
7.5	リモートインストールを行う場合の準備	148
7.6	障害連絡シート	150

第 1 章

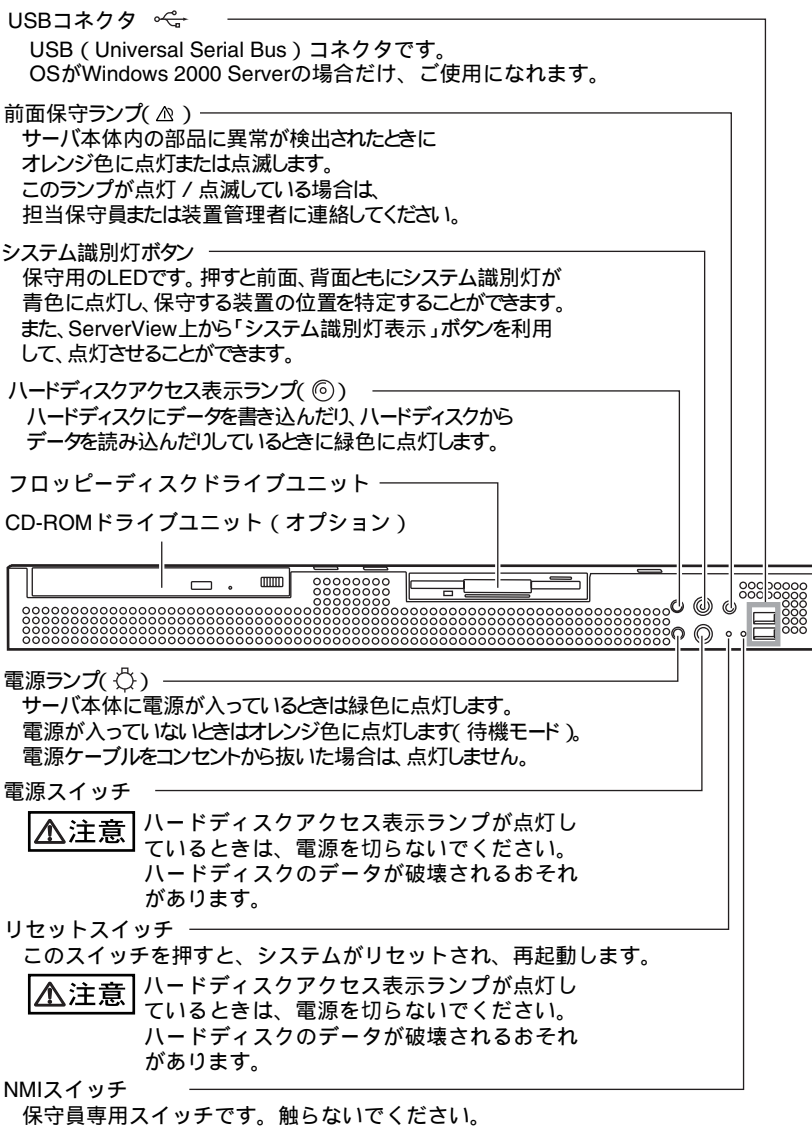
名称と働き

この章では、サーバ本体、キーボード、マウス、ベースボードの各部の名称と働きについて説明しています。

1.1	サーバ本体前面	12
1.2	サーバ本体背面	13
1.3	サーバ本体内部	14
1.4	キーボード／マウス	15
1.5	ベースボード	17


1.1 サーバ本体前面

サーバ本体前面の名称は以下のとおりです。




1.2 サーバ本体背面

サーバ本体背面の名称は以下のとおりです。


シリアルポートコネクタ1 (9ピン) 

モデムなどRS-232C規格の装置のケーブルを接続します。

10/100/1000BASE-Tコネクタ 


非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。
1000Mbpsで使用する場合には、カテゴリ5エンハンスドに適用したケーブルが必要です。2つのLEDの意味は以下のとおりです。


左側	緑色点灯	LINKの確立中
	緑色点滅	データの転送中
右側	オレンジ色点灯	1000Mbpsでコネクション確立
	緑色点灯	100Mbpsでコネクション確立
	消灯	10Mbpsでコネクション確立


10/100BASE-TXコネクタ 


非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。
100Mbpsで使用する場合には、カテゴリ5に適用したケーブルが必要です。2つのLEDの意味は以下のとおりです。

左側 (100Mbps)	緑色点灯	LINKの確立中
	緑色点滅	データの転送中
右側 (10Mbps)	オレンジ色点灯	LINKの確立中
	オレンジ色点滅	データの転送中

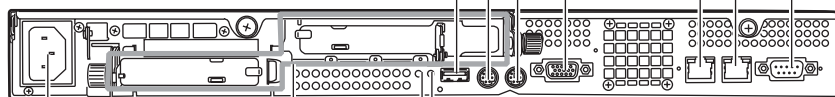
ディスプレイコネクタ (15ピン) 

キーボードコネクタ (6ピン) 

マウスコネクタ (6ピン) 

USBコネクタ 

USB (Universal Serial Bus) コネクタ
です。OSがWindows 2000 Serverの
場合だけ、ご使用になれます。



背面保守ランプ(△)

サーバ本体内の部品に異常が検出されたときにオレンジ色に点灯または点滅します。
このランプが点灯 / 点滅している場合は、担当保守員または装置管理者に連絡してください。

システム識別灯

保守用のLEDです。前面側のシステム識別灯ボタンを押すと、前面、背面ともにシステム識別灯が青色に点灯し、保守する装置の位置を特定することができます。
また、ServerView上から「システム識別灯表示」ボタンを利用して、点灯させることができます。

PCIスロット

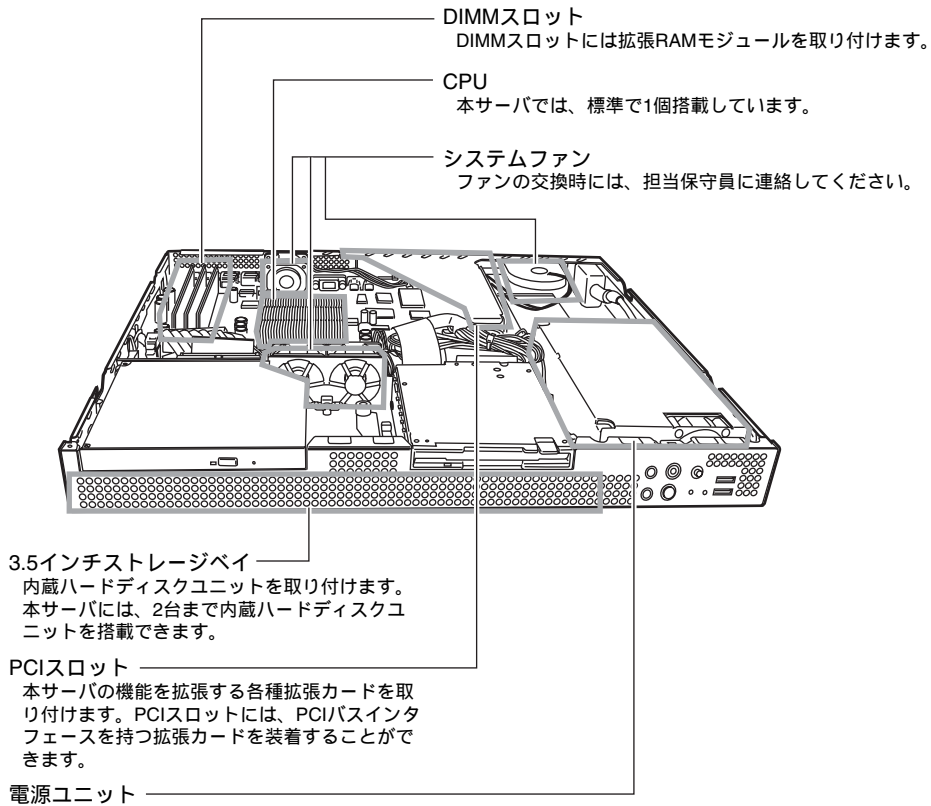
本サーバの機能を拡張する各種拡張カードを取り付けます。PCIスロットには、PCIバスインタフェースを持つ拡張カードを装着できます。

インレット

AC電源ケーブルを接続します。

1.3 サーバ本体内部

サーバ本体内部の名称は以下のとおりです。

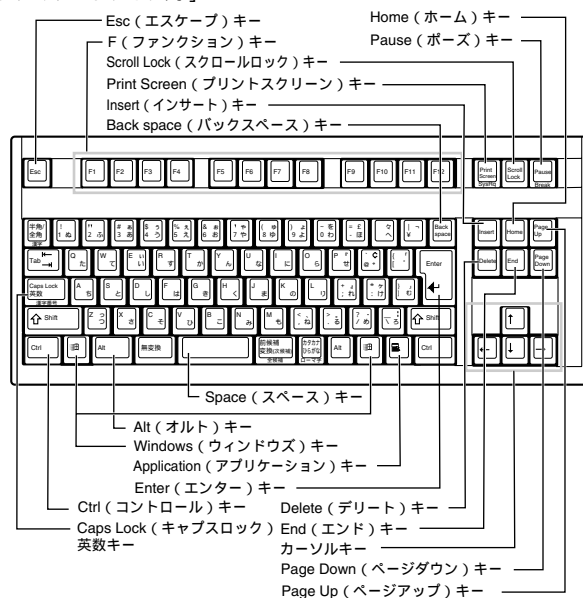


1.4 キーボード/マウス

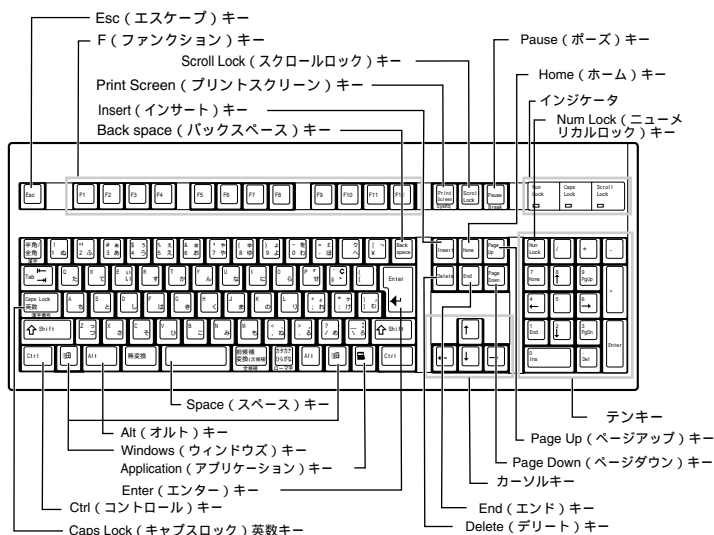
本サーバには、オプションとして次のキーボードとマウスを用意しています。
キーボードの各種機能キーは、アプリケーションによって機能が異なります。

1.4.1 キーボード

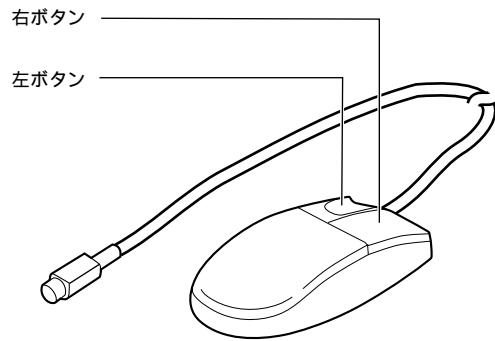
[ラックマウントタイプ用]



[ベディスタルタイプ用]

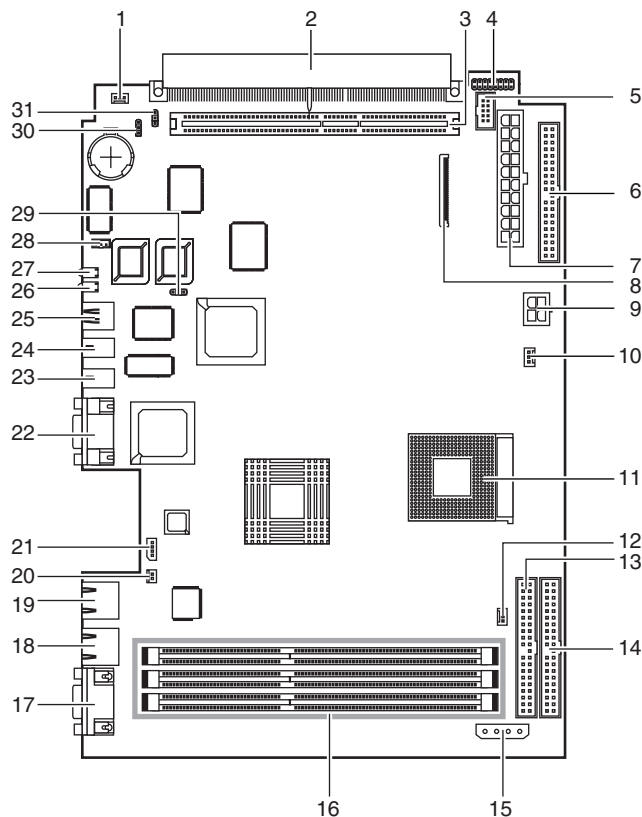


1.4.2 マウス



1.5 ベースボード

ベースボード各部の名称は以下のとおりです。



- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| 1 ファン2コネクタ | 16 DIMMスロット |
| 2 PCI LowProfileカードコネクタ | 17 シリアルポートコネクタ |
| 3 ライザカードコネクタ | 18 LANコネクタB |
| 4 LEDボードケーブルコネクタ | 19 LANコネクタA |
| 5 USBケーブルコネクタ | 20 サーバ制御ボード用電源コネクタ |
| 6 RAIDセカンダリチャンネルコネクタ | 21 サーバ制御コネクタ |
| 7 ATX電源ユニットコネクタ | 22 ディスプレイコネクタ |
| 8 フロッピーディスクドライブコネクタ | 23 キーボードコネクタ |
| 9 電源コネクタ | 24 マウスコネクタ |
| 10 ファン4コネクタ | 25 USBコネクタ |
| 11 CPUソケット | 26 保守ランプ |
| 12 ファン3コネクタ | 27 システム識別灯 |
| 13 IDEプライマリチャンネルコネクタ | 28 ファン1コネクタ |
| 14 RAIDプライマリチャンネルコネクタ | 29 JP3 |
| 15 電源コネクタ
(ハードディスク、CD-ROM用) | 30 JP1 |
| | 31 JP2 |

第2章

セキュリティについて

この章では、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るためのセキュリティ設備について説明しています。

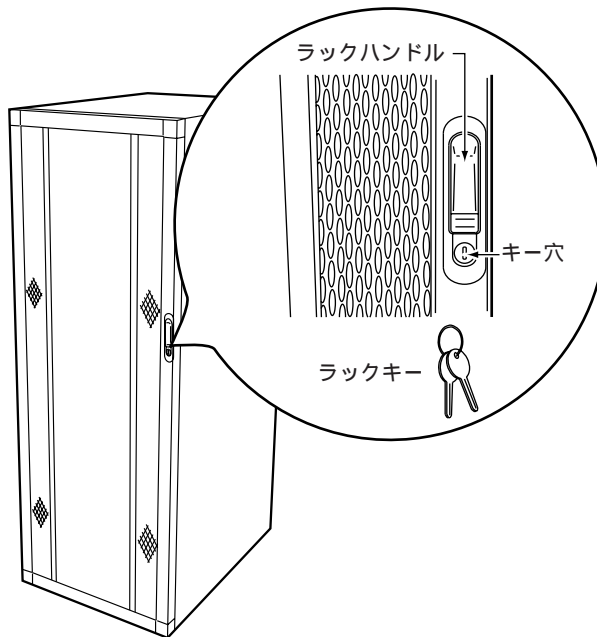
2.1 セキュリティについて	20
----------------------	----

2.1 セキュリティについて

本サーバでは、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るための機械的なセキュリティ設備を用意しています。同時に、BIOS セットアップユーティリティなどによるセキュリティ機能も準備しており、より信頼度の高いデータセキュリティを実現します。

2.1.1 ハードウェアのセキュリティ

ラックドアを施錠すると、ラック内部のハードウェアの盗難を防ぐことができます。ラックドアを閉める場合は、ラックドアを閉じてラックハンドルを戻し、ラックキーを回します。



POINT

- ▶ ラックキーは紛失しないように注意してください。紛失した場合は担当営業員に連絡してください。
- ▶ ラックドアを開ける手順は「ラックドアを開ける」(→ P.26) を参照してください。
- ▶ その他のラックの詳細については、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

2.1.2 ソフトウェアのセキュリティ

本サーバは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本サーバを使えなくなります。パスワードの設定は BIOS セットアップユーティリティで行います。BIOS セットアップユーティリティについては、「5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」(→ P.66)を参照してください。

■ パスワードの種類

本サーバで設定できるパスワードは次の2つです。
入力するパスワードにより、本サーバ操作の権限が区別されます。

- **セットアップ用パスワード (Setup Password)**

特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップは起動できません。「Set Setup Password」で、セットアップ用パスワードを設定すると、「Setup Password Lock」を設定することができます。

「Setup Password Lock」の各項目の意味は、以下のとおりです。

- Standard : Adapter の BIOS は、Lock されません。
- Extended : Adapter の BIOS は、Lock されます。

- **システム用パスワード (System Password)**

特定の人だけが、本サーバを使えるようにするためのパスワードです。「Set System Password」で、システム用パスワードを設定すると、「System Password Mode」を設定することができます。

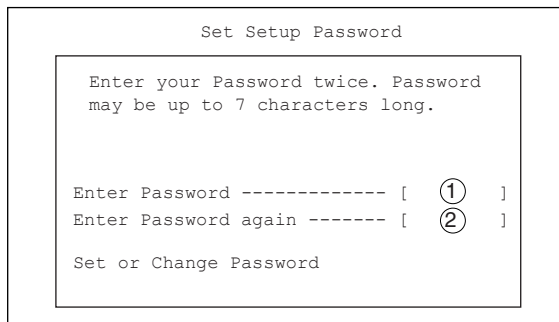
「System Password Mode」の各項目の意味は、以下のとおりです。

- System : 設定したパスワードを入力しないと、一部の BIOS セットアップおよび OS を起動できないようにします。
- Keyboard : OS 稼働中のキーボード/マウスの入力を抑制します。ペディスタルタイプ用のキーボードの場合、インジケータが順に点滅します。

■ パスワードの設定方法

System Password を設定する場合には、同時に Setup Password を設定する必要があります。

- 1** BIOS セットアップユーティリティを起動します。
→「5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了」(P.67)
- 2** Main メニューから【↑】【↓】キーで「System Security」を選択して、【Enter】キーを押します。
System Security メニューが表示されます。
- 3** 【↑】【↓】キーで「Set Setup Password」、または「Set System Password」にカーソルを合わせ、【→】【←】キーを押します。
パスワード入力用の画面が表示されます。



- 4** ①に7桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、ブロックのみが表示されます。
- 5** パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押します。
- 6** ②に手順4で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「Set or Change Password」で再度【Enter】キーを押すと、設定値が「Present」になります。再入力したパスワードが一致しない場合は、再び手順4と同じ画面が表示されず、再度手順4から操作を行ってください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、システムが停止します。その場合は、本サーバの電源をいったん切ってから、再び電源を入れ、そのあと正しいパスワードを再入力してください。
- ▶ パスワードを忘れてしまい、本サーバを起動できなくなった場合は、ベースボード上のジャンパピンの設定によりCMOSをクリアし、パスワードを消去します。CMOSをクリアしたあとは、BIOSの設定を元に戻してください(→「5.2 ハードウェアの設定」(P.65))。
そのあと、ジャンパの設定を戻してから、本ユーティリティでパスワードを設定してください。

■ パスワードの削除／変更方法

Setup Password および System Password の削除や変更は、System Security メニューで行います。

- 1** BIOS セットアップユーティリティを起動します。
→「5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了」(P.67)
- 2** Main メニューから【↑】【↓】キーで「System Security」を選択して、
【Enter】キーを押します。
System Security メニューが表示されます。
- 3** 【↑】【↓】キーで「Set Setup Password」、または「Set System Password」
にカーソルを合わせ、【→】【←】キーを押し、「Not Installed」に設定します。
設定されていたパスワードが消去されます。
- 4** パスワードを変更する場合は、「■ パスワードの設定方法」(→ P.22) の手順 3
～手順 6 の操作を行って、新しいパスワードを入力します。

第 3 章

基本的な操作

3

この章では、電源の入れ方や切り方、フロッピーディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作について説明しています。

3.1 ラックドアを開ける	26
3.2 電源を入れる	28
3.3 電源を切る	29
3.4 フロッピーディスクのセット／取り出し	31
3.5 CD-ROM のセット／取り出し	34

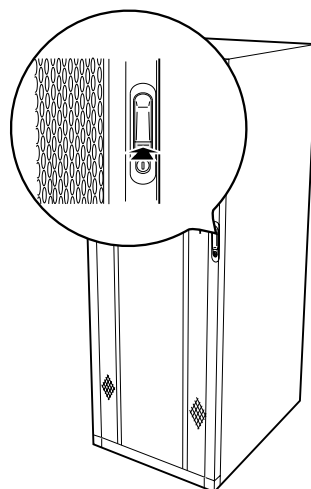
3.1 ラックドアを開ける

ここでは、ラックのフロントドアおよびリアドアを開ける方法について説明します。

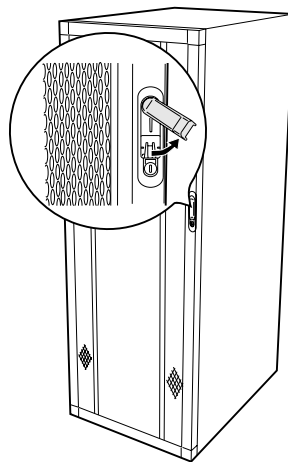
なお、40Uのスリムラックを元に説明しています。その他のラックについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

■ フロントドアの開け方

- 1 ラックキーを回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。ラックハンドルが前に上がります。

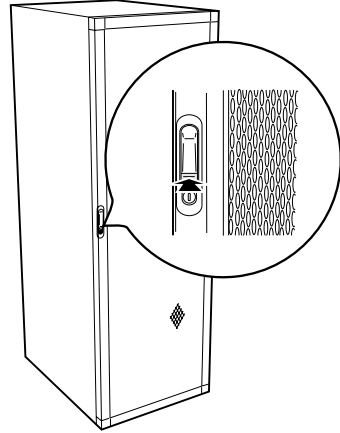


- 2 ラックハンドルを矢印方向に回して、手前に引きます。

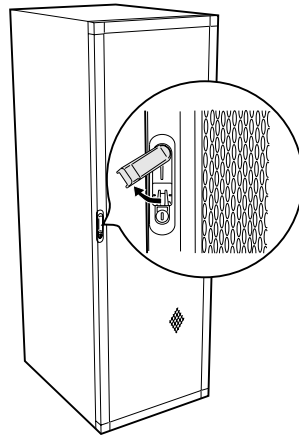


■ リアドアの開け方

- 1 ラックキーを回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。
ラックハンドルが前に上がります。



- 2 ラックハンドルを矢印方向に回して、手前に引きます。



POINT

- ▶ 通常の使用時（媒体の出し入れ、電源の ON/OFF 以外）には、ラックドアを閉めた状態でご使用ください。携帯電話などの外部からの電波を防ぎます。
- ▶ ラックキーは、紛失しないように注意してください。紛失した場合は、担当営業員に連絡してください。

3.2 電源を入れる

⚠ 注意



● 電源を入れたまま、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。サーバ内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。



● サーバ本体環境条件の温度条件（10～35℃）の範囲内で電源を入れてください。サーバ本体の環境条件については『はじめにお読みください』を参照してください。サーバの保証温度範囲内で使用しないと「データの破損」や「動作が不安定になる」などの問題が発生する場合があります。サーバ本体を動作保証温度範囲外で使用した場合に破損や故障が発生しても当社は一切の責任を負いません。



● 本サーバの電源を入れた直後にファンが高速回転しますが、故障ではありません。サーバ本体環境条件の温度条件（10～35℃）の範囲内であれば、しばらくしてから、通常の回転になります。

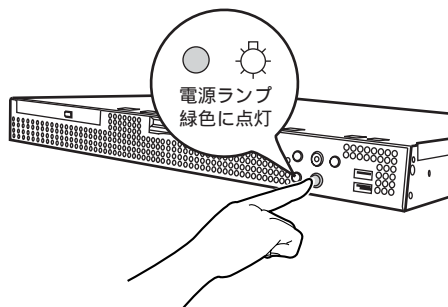


● 電源を切ったあと、すぐに電源を入れる場合は、必ず10秒以上待ってから電源を入れてください。

- 1 ラックドアを開けます。
- 2 フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブなどに媒体がセットされていないことを確認します。
- 3 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。
- 4 サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

サーバ本体の電源ランプが緑色に点灯します。

電源が入ると、本サーバはサーバ本体の装置をチェックする「POST（Power On Self Test：パワーオンセルフテスト）」を行います。POSTの結果、異常があればエラーメッセージが表示されます。
→「6.5 エラーメッセージ」(P.127)



POINT

- ▶ 添付の ServerView を使って、サーバ本体の電源の投入／切断時刻を設定できます。詳細は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ServerView ユーザーズガイド』および Hints.txt を参照してください。

3.3 電源を切る

⚠ 注意



● 以下の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。



● 発煙、発火などの異常が発生した場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災・感電の原因となります。

1 フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体がセットされていないことを確認します。

2 OS を終了します。

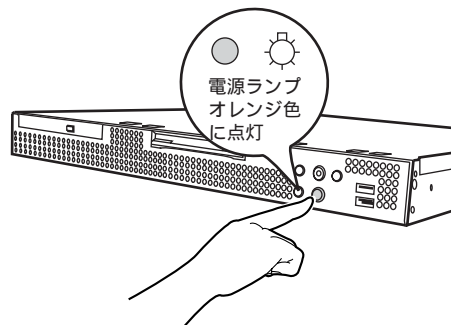
以下の場合、OS 終了後サーバ本体の電源が切れます（手順 3 の操作は必要ありません）。

- ・ OS が Windows 2000 Server の場合
- ・ ServerView がインストールされている場合

その他の場合は、OS を終了し、フロッピーディスクとハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認します。

3 サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

サーバ本体の電源ランプがオレンジ色に点灯します。



4 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。

⚠ 注意



● 電源を切ったあと、すぐに電源を入れる場合は、必ず 10 秒以上待ってから電源を入れてください。



● OS ハングなど、通常の操作で電源を切ることができなくなった場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、強制的に OS の電源を切ることができます。
この場合、「5.3.10 Power Management メニュー」の「System wake-up event」（→ P.79）の電源投入機能（Wake up on LAN など）は、使用できなくなります。この機能を使用するためには、通常の手順で電源を入れたあと、再度通常の手順で電源を切ってください。

 **POINT**

- ▶ 添付の ServerView を使って、サーバ本体の電源の投入／切断時刻を設定できます。
詳細は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ServerView ユーザーズガイド』および Hints.txt を参照してください。

■ **電源操作の注意事項について（OS が Windows 2000 Server の場合）**

電源スイッチの動作モードは、OS の設定により「スタンバイ」、「休止状態」、「電源オフ」の指定ができます（通常は「電源オフ」）。

本サーバでは、スタンバイ／休止状態に相当する機能は、BIOS／ハードウェアの機能としてサポートしていますが、本サーバに搭載される一部のドライバ／ソフトウェアでは、当機能をサポートしていません。このため「スタンバイ」と「休止状態」に相当する機能については、本サーバでは使用できません。

なお、動作モードを「スタンバイ状態」または「休止状態」に設定した場合、システムが不安定になったり、ハードディスクのデータが破壊されたりするおそれがあります。

動作モードの設定については、OS に添付のマニュアルを参照してください。

3.4 フロッピーディスクのセット／取り出し

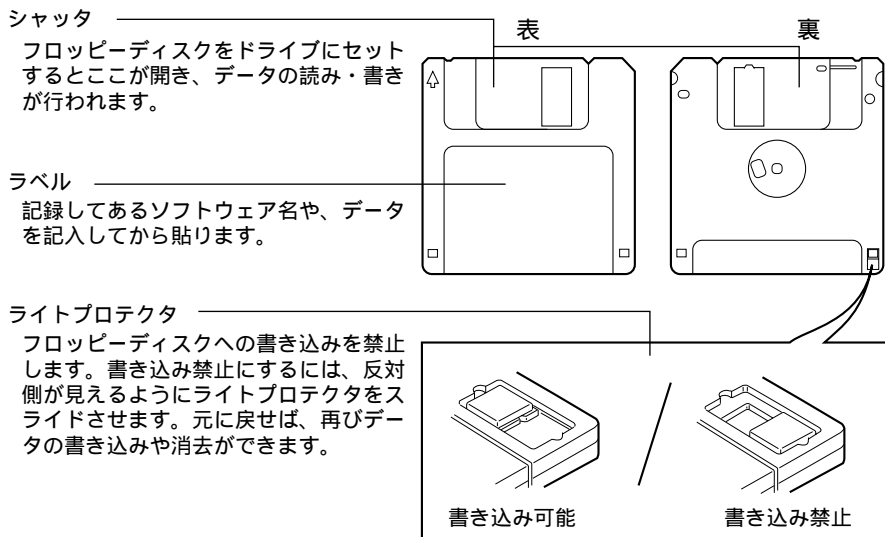
フロッピーディスクのセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

3.4.1 取り扱い上の注意

フロッピーディスクを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

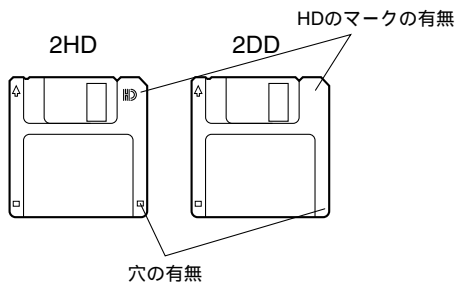
- ・ コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- ・ シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。
- ・ 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- ・ 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- ・ 固い床などに落とさないでください。
- ・ 高温／低温の場所に保管しないでください。
- ・ ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。

■ フロッピーディスクの外観



POINT

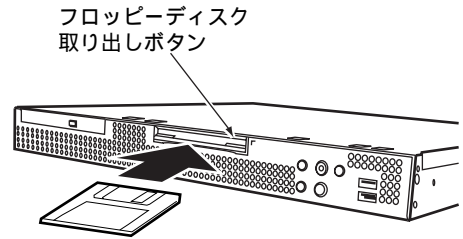
- ▶ フロッピーディスクについて
本サーバでは以下の2種類のフロッピーディスクを使用できます。
 - ・ 2HD (記憶容量 1.44MB)
 - ・ 2DD (記憶容量 720KB)2種類の外見上の違いは、下図のとおりです。



3.4.2 フロッピーディスクのセットと取り出し

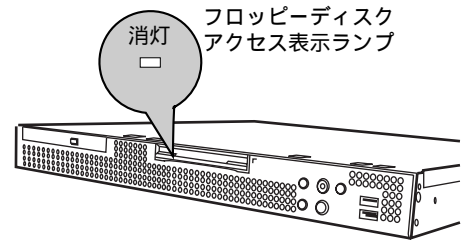
■ フロッピーディスクのセット

- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。
カシャッと音がし、フロッピーディスク取り出しボタンが出てきます。



■ フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。



⚠ 注意



- フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

3.5 CD-ROMのセット／取り出し

CD-ROMのセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。
本サーバではオプションとして、CD-ROMドライブユニットを用意しています。

3.5.1 取り扱い上の注意

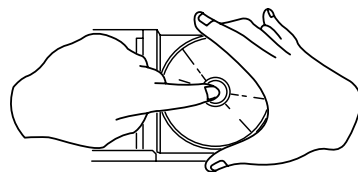
故障などを防ぐため、内蔵CD-ROMドライブユニットやCD-ROMを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

■ 内蔵CD-ROMドライブユニット

- 湿気やほこりなど、浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。
- 衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。
- トレイには規定のCD-ROM以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。
- トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけないでください。
- CD-ROMドライブユニットは絶対に分解しないでください。
- トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いた柔らかい布をご使用ください。
- 長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐためにCD-ROMドライブユニットからCD-ROMを取り出しておいてください。また、CD-ROMドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。

■ CD-ROM

- ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンターホルダーを押さえながら持ち上げてください。



- CD-ROMの縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
- CD-ROMの表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布でCD-ROMの内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- CD-ROMの表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 熱を加えないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- レーベル面にラベルなどを貼り付けしないでください。編芯によって、異常振動が発生する場合があります。

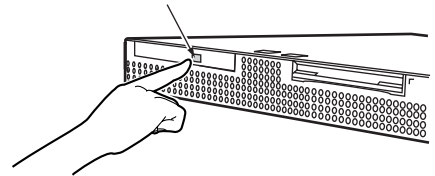
- 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面に水滴がついて、CD-ROMドライブユニットがデータを読み込めないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。
- ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたるところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

3.5.2 CD-ROMのセットと取り出し

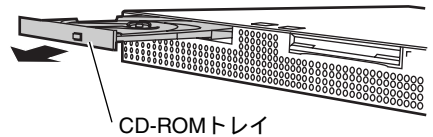
- 1 サーバ本体の電源が入っていることを確認して、CD-ROM取り出しボタン(EJECT)を押します。

CD-ROMトレイが少し出ます。

CD-ROM取り出しボタン

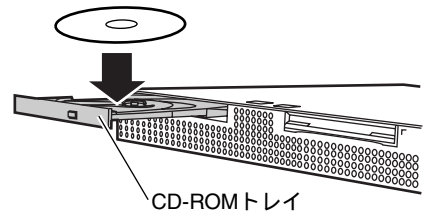


- 2 出てきたCD-ROMトレイを引き出します。



CD-ROMトレイ

- 3 CD-ROMのレーベル面を上にして、トレイ中央に置きます。
CD-ROMトレイの下側を手で支えて、CD-ROMをカチッという音がするまではめ込みます。



CD-ROMトレイ

⚠ 注意

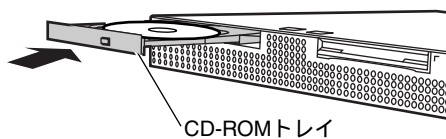


- CD-ROMのセットが不十分なままCD-ROMトレイを閉めると、CD-ROMドライブやCD-ROMが破損するおそれがありますので注意してください。



- CD-ROMセット時には、レンズに触れないよう注意してください。

- 4** CD-ROM トレイを戻します。
CD-ROM トレイがカチッと音がするまで
静かに押し込みます。



取り出しも、上記のように CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押して行います。

POINT

- ▶ 本サーバの内蔵 CD-ROM ドライブユニットでは、下図のマークがついた CD-ROM をご利用になれません。



第 4 章

4

内蔵オプションの取り付け

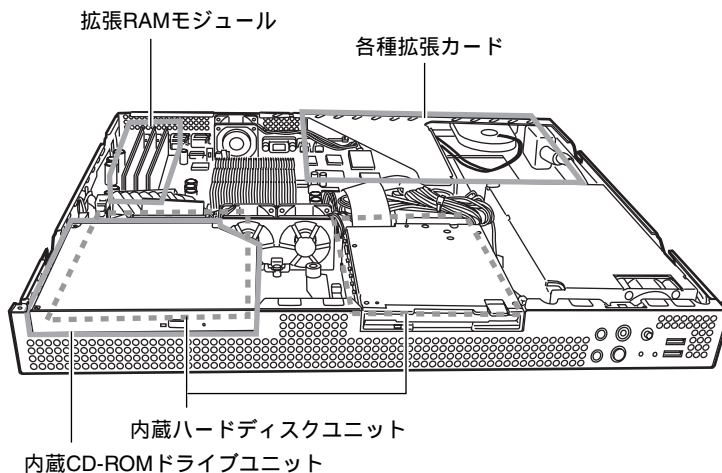
この章では、本サーバへの内蔵オプションの取り付け方法について説明しています。

内蔵オプションの取り付け／取り外しを行う場合は、担当保守員に依頼してください。

4.1 内蔵オプションの種類	38
4.2 トップカバーの取り外し	40
4.3 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し	42
4.4 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付け	45
4.5 内蔵ハードディスクユニットの取り付け	49
4.6 拡張カードの取り付け	53

4.1 内蔵オプションの種類

本サーバには、以下の内蔵オプションを取り付けることができます。



POINT

- ▶ 内蔵オプションの取り付けや取り外し作業で取り外したネジは、必ず同じ装置／場所に取り付けてください。異なる種類のネジを使用すると、装置の故障の原因となります。
- ▶ 本書に記載されている取り付け可能なオプションの種類は予告なく変更される場合があります。あらかじめ、ご了承ください。
- ▶ CPUとメモリ（RAMモジュール）の間には、エアダクトがあります。また、フロッピーディスク／ハードディスクコンボと電源ユニットの間には、フォームがあります。これらは、サーバ内部の空気の流れを整えるものですので、サーバ本体に電源を入れるときは、エアダクトおよびフォームを必ず取り付けてください。

警告



感電

- 内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、サーバ本体および接続している周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から抜いたあとに行ってください。感電の原因となります（→「3.3 電源を切る」(P.29)）。



感電

- 電源ユニットは分解しないでください。感電の原因となります。



禁止

- 弊社の純正品以外のオプションは取り付けしないでください。故障・火災・感電の原因となります。



禁止

- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。

⚠ 注意



● 電源を切った直後は、サーバの内部の装置が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあとしばらく待ってから、作業を始めてください。



● 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。



● 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。



● この章で説明している以外の取り付け方や分解を行った場合は、保証の対象外となります。



● 本サーバ（ペディスタルタイプ）を重ね置きしているときに、オプションの追加などでどれか1台をその場から移動させる場合は、すべてのサーバの電源を一度停止してください。

4.2 トップカバーの取り外し

ここでは、トップカバーの取り外しについて説明します。

⚠ 警告



- 各カバーの取り外し、取り付けを行うときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります（→「3.3 電源を切る」(P.29)）。

⚠ 注意



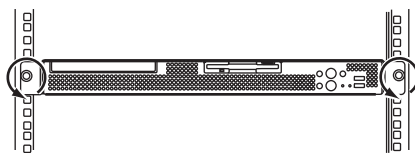
- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。



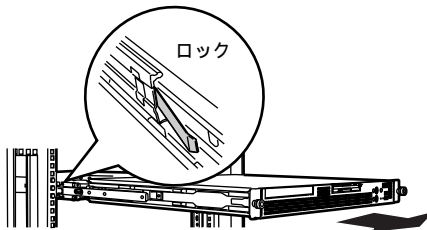
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

■ 取り外し手順

- 1** サーバ本体に接続されているケーブル類（SCSI ケーブル、LAN ケーブルなど）をすべて取り外します。
本サーバをラックへ搭載している場合は手順2へ、ペディスタルとしてご使用の場合は手順4へ進みます。
- 2** サーバ本体とラックを固定している2箇所（ラックマウントタイプのみ）のネジを外します。

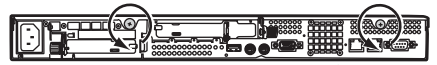


- 3** サーバ本体をスライドさせます（ラックマウントタイプのみ）。
取っ手を持ち、サーバ本体をカチッと音がするまで手前にスライドさせると、両側のレール部でロックがかかります。

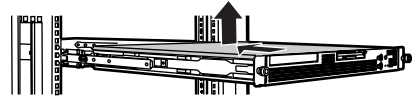


4 サーバ本体のトップカバーを固定しているネジを外します。

ネジはサーバ本体の背面に2箇所あります。



(サーバ本体背面)

5 トップカバーをゆっくりと後方にスライドさせ持ち上げて、サーバ本体から取り外します。**■ 取り付け手順**

トップカバーの取り付けは、取り外し手順と逆の手順で行います。

POINT

- ▶ トップカバーを取り付けるときに、サーバ本体内部に不要な部品や工具を置き忘れないように注意してください。
- ▶ サーバ本体に電源を入れるときは、必ずトップカバーを取り付けた状態で行ってください。

4.3 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し

拡張 RAM モジュールは、ベースボードの DIMM (Dual In-Line Memory Modules) スロットに取り付けます。

⚠ 警告



感電

- 取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります (→「3.3 電源を切る」(P.29))。

⚠ 注意



禁止

- 弊社純正の拡張 RAM モジュール以外は取り付けしないでください。故障の原因となる場合があります。



- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。



- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

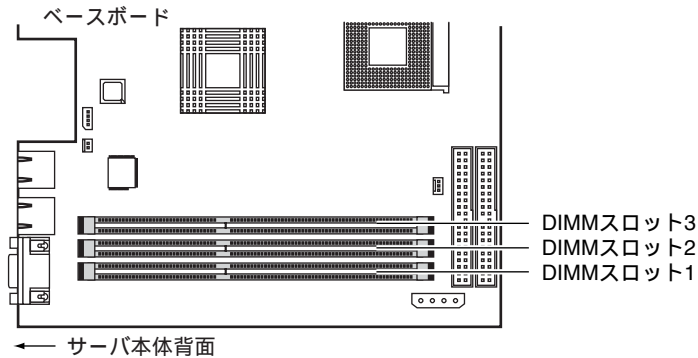
4.3.1 取り付け／取り外し時の手順と注意

■ 取り付ける前に

- ・ 本サーバの拡張 RAM モジュールは、DIMM 1 枚で構成されており、1 枚ずつ増設します。
- ・ 本サーバに使用できる拡張 RAM モジュールは以下の種類があります。

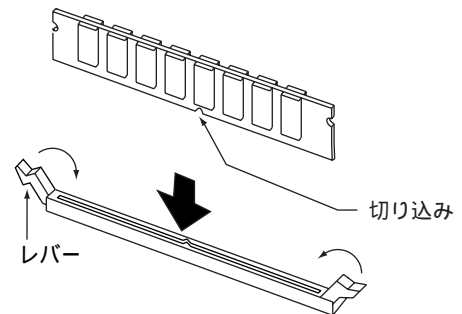
品名 (型名)	備考
拡張 RAM モジュール 256MB (PG-RM25S)	256MB
拡張 RAM モジュール 512MB (PG-RM51S)	512MB
拡張 RAM モジュール 1GB (PG-RM1S)	1GB

- 拡張モジュールは、スロット番号順に搭載してください。



■ 取り付け／取り外し手順

- 1** 電源を切り、トップカバーを取り外します。
→「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)
- 2** サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3** 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外しをします。
 取り付ける場合は、コンタクト部分の切り込みで向きを判断して、DIMM スロットに正しくセットしてください。レバーが閉じます。レバーが完全に閉じない場合は、指で押してください。
 取り外す場合は、メモリの搭載されている両端のレバーを開きます。
- 4** 拡張 RAM モジュールが奥まで完全に挿し込まれたのを確認します。
- 5** トップカバーを取り付けます。
→「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)



4.3.2 故障メモリの切り離し機能

本サーバには、故障メモリ（RAM モジュール）の切り離し機能があります。この機能は、POST（Power On Self Test）実行中に故障（異常）と判断したメモリ（DIMM 1 枚）を切り離して本サーバを起動します。POST 時に画面に表示されるメモリ容量が搭載したメモリ容量より小さくなっている場合は、故障メモリが存在する可能性があります。故障メモリのスロット位置は、POST 時またはシステムイベントログで確認できます。故障メモリが存在する場合はメモリを交換して、本サーバを再起動してください。

■ 故障したメモリの取り外し

故障したメモリは、「4.3.1 取り付け／取り外し時の手順と注意」（→ P.42）に従って新しいメモリに交換します。

POINT

- ▶ メモリの交換後は、必ず BIOS セットアップユーティリティを起動して、「5.3.11 Boot Options メニュー」の「Release All Blocked Memory」（→ P.82）を「Enabled」に設定してください。

4.4 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付け

ここでは、内蔵 CD-ROM ドライブユニット（オプション）の取り付け方を説明します。

本サーバに取り付けられる内蔵 CD-ROM ドライブユニットは、内蔵 CD-ROM ドライブユニット（PG-CD317）です。

⚠ 警告

感電



- 取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります（→「3.3 電源を切る」（P.29））。

⚠ 注意

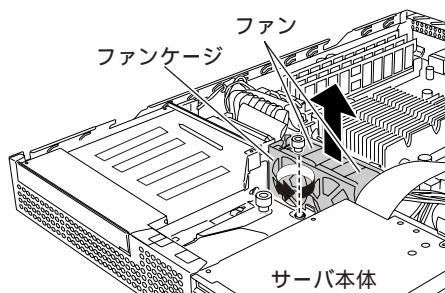
禁止



- 内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けるときは、CD-ROM ドライブユニットの側面を持ってください。
上面に力が加わると、故障の原因になります。
- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。
取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

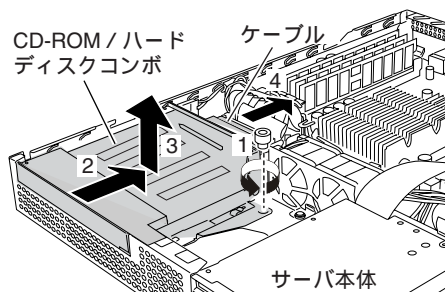
■ 取り付け／取り外し手順

- 1** 電源を切り、トップカバーを取り外します。
→「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)
- 2** サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3** ファン2個とファンケージを取り外します。
 1. ファンのケーブルを取り外します。
 2. 2個のファンを持ち上げて取り外します。
 3. ネジを1本外し、ファンケージを取り外します。



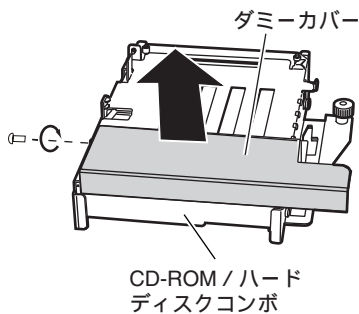
4 CD-ROM / ハードディスクコンボを取り外します。

1. サーバ本体とコンボを固定している1本のネジを取り外します (図中1)。
2. コンボを後方にスライドさせ持ち上げて取り外します (図中2、3)。
3. コンボに接続されているケーブルをすべて取り外します (図中4)。



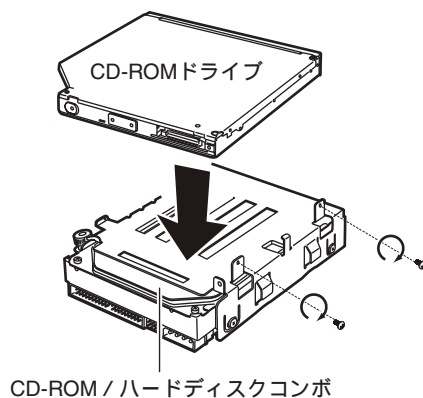
5 ダミーカバーを取り外します。

CD-ROM / ハードディスクコンボとダミーカバーを固定している1本のネジを取り外します。

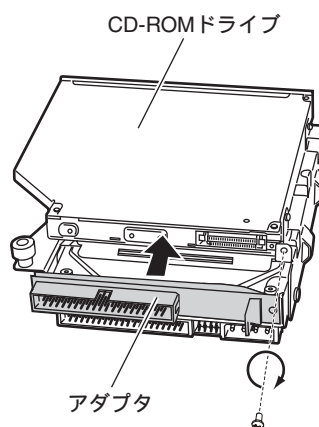


- 6** CD-ROM /ハードディスクコンボに、内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けます。

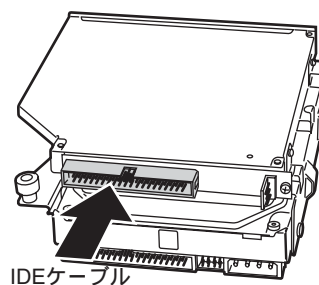
CD-ROM /ハードディスクコンボと内蔵 CD-ROM ドライブユニットを、2本のネジで固定します。



- 7** アダプタを取り付けます。
アダプタを左側のつめに引っ掛けたあと、1本のネジで CD-ROM ドライブユニットに固定します。

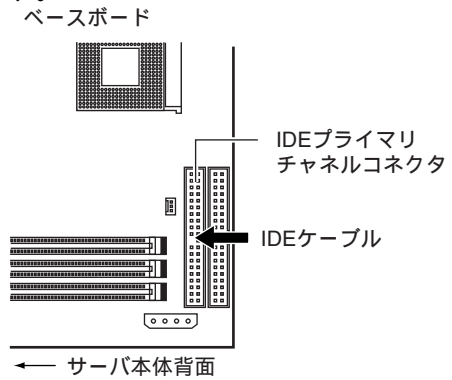


- 8** 内蔵 CD-ROM ドライブユニットに IDE ケーブルを接続します。
IDE ケーブルは、内蔵 CD-ROM ドライブユニットに添付されています。



- 9** CD-ROM /ハードディスクコンボに手順4で取り外したケーブルをすべて接続し、コンボを元に戻します。
- 10** 手順3で取り外したファン2個とファンケースを取り付けます。

11 IDE ケーブルをベースボードに接続します。



12 サーバ本体にトップカバーを取り付け、元の位置に戻します。

→ 「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)

POINT

- ▶ 取り外しは、上記と逆の手順で行います。

4.5 内蔵ハードディスクユニットの取り付け

ここでは、内蔵ハードディスクユニットの接続形態、ジャンプスイッチの設定および取り付け方法について説明します。

⚠ 注意

- ⚠ ● 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。
- ⚠ ● 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。
- ● ハードディスクユニットを乱暴に取り扱くと、内部のデータが破壊されることがあります。万が一の事態に備えて、重要なデータは常にバックアップをとるようにしてください。また、別のハードディスクユニットにバックアップをとるときは、ファイル単位または区画単位でバックアップすることをお勧めします。
- ● 湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。
- ● 衝撃や振動の加わる場所での使用は避けてください。
- ● 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- ● 極端な高温や低温の場所、また温度変化の激しい場所での使用は避けてください。
- ● ハードディスクユニットは絶対に分解しないでください。
- ● 内蔵ハードディスクユニットをぶついたり、金属質のものを接触させたりしないよう十分注意し、取り扱ってください。

本サーバに搭載できる内蔵ハードディスクユニットを以下に示します。

品名	型名	概要
内蔵ハードディスクユニット 80GB	PG-HD8E7F	80GB、7,200rpm、1 インチ E-IDE

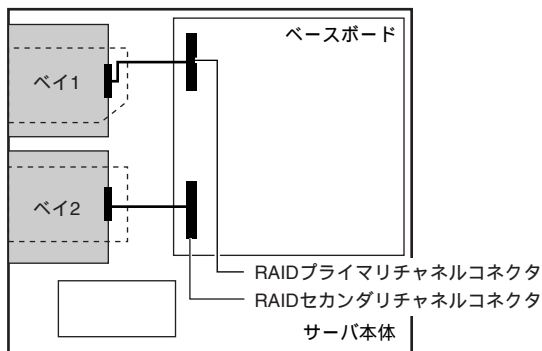
■ オンボード IDE アレイコントローラご使用時の注意事項

Windows 2000 Server または Windows NT Server 4.0 を手動でインストールする場合は、インストールの前にオンボード IDE アレイコントローラ配下にアレイ構成が作成されていることが必要です。ハードディスクユニットを 1 台だけ搭載している場合は、RAID 0 のアレイを構成してください。RAID 1 のアレイを構成する場合は、アレイを構成したあと、必ずハードディスクの初期化を行ってください。ハードディスクの初期化はバックグラウンド処理で行うこともできます。

アレイ構成の作成方法およびハードディスクの初期化については、「5.4 FastBuild ユーティリティを使う」(→ P.95) を参照してください。

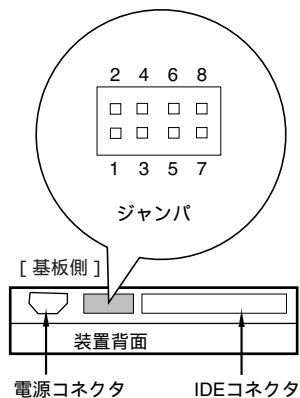
■ ハードディスクの接続形態

以下に、ハードディスクの接続形態を示します。



■ 取り付ける前に

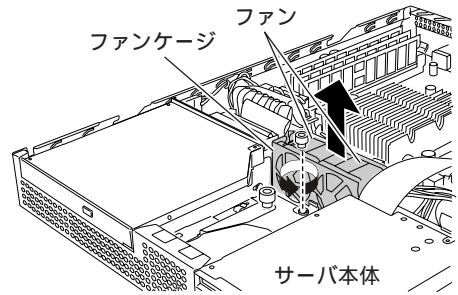
内蔵ハードディスクユニットを取り付ける前に、新しく取り付ける内蔵ハードディスクユニットのマスタ/スレーブの設定が必要です。
 マスタ/スレーブの設定は、取り付けるベイによって、確認および変更する必要があります。
 次の表に示すとおりを設定してください。



ジャンパ設定	設定内容	ご購入時設定
2 4 6 8 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 1 3 5 7	マスタドライブ	基本ディスク設定 ベイ1および ベイ2に搭載する場合 (変更禁止)
2 4 6 8 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 1 3 5 7	スレーブドライブ	設定禁止
2 4 6 8 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 1 3 5 7	ケーブルセレクト	設定禁止

■ 取り付け／取り外し手順

- 1** 電源を切り、トップカバーを取り外します。
→「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)
- 2** サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3** ファン2個とファンケージを取り外します。
 1. ファンのケーブルを取り外します。
 2. 2個のファンを持ち上げて取り外します。
 3. ネジを1本外し、ファンケージを取り外します。



- 4** フロッピーディスク／ハードディスクコンボと電源の間にあるフォームを取り外します。

POINT

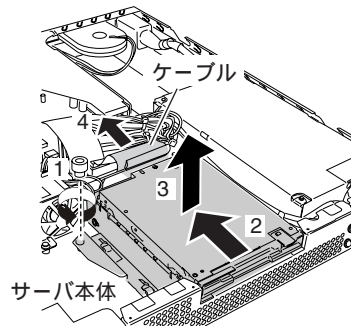
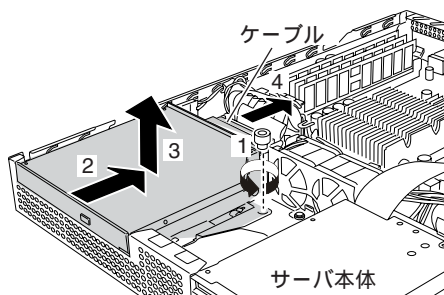
▶ 取り外したフォームは、なくさないでください。

- 5** フロッピーディスク／ハードディスクコンボ、または CD-ROM／ハードディスクコンボを取り外します。

1. サーバ本体とコンボを固定している1本のネジを取り外します(図中1)。
2. コンボを後方にスライドさせ持ち上げて取り外します(図中2、3)。
3. コンボに接続されているケーブルをすべて取り外します(図中4)。

[CD-ROM／ハードディスクコンボ]

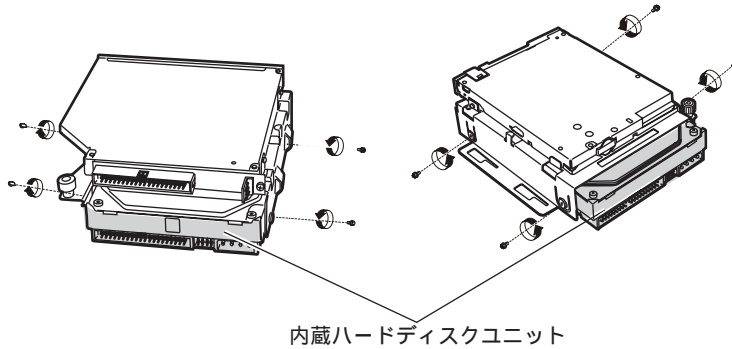
[フロッピーディスク／ハードディスクコンボ]



6 コンボに内蔵ハードディスクユニットが取り付けられている場合、内蔵ハードディスクユニットを取り外します。

コンボと内蔵ハードディスクを固定している4本のネジを取り外し、内蔵ハードディスクを取り外します。

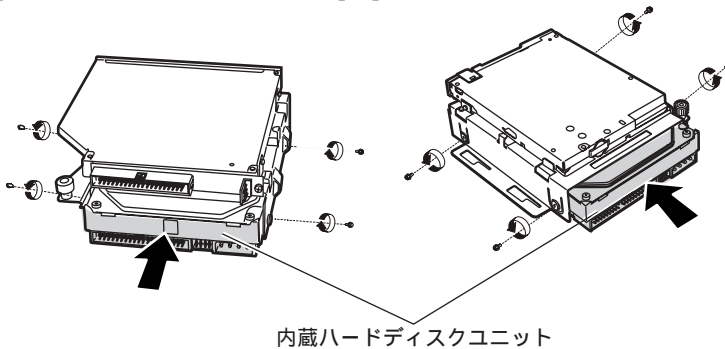
[CD-ROM / ハードディスクコンボ] [フロッピーディスク / ハードディスクコンボ]



7 コンボにハードディスクユニットを取り付けます。

4本のネジを使ってコンボに内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。

[CD-ROM / ハードディスクコンボ] [フロッピーディスク / ハードディスクコンボ]



8 内蔵ハードディスクユニットに IDE ケーブル、電源ケーブルおよび手順5で取り外したケーブルをすべて接続し、コンボを元に戻します。

9 手順4で取り外したフォームを元の位置に戻します。

10 手順3で取り外したファン2個とファンケースを元の位置に戻します。

11 サーバ本体にトップカバーを取り付け、元の位置に戻します。

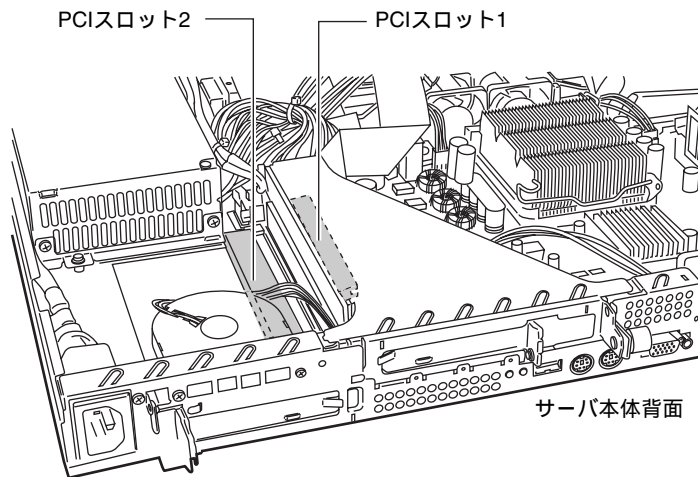
→ 「4.2 トップカバーの取り外し」 (P.40)

4.6 拡張カードの取り付け

ここでは、拡張カードの種類、取り付けの手順、および各拡張カードに関する留意事項について説明します。

4.6.1 拡張カードの種類

本サーバは、PCI スロットを 2 スロット備えており、PCI カードを最大 2 枚搭載できます。



■ 各 PCI スロットの仕様について

- PCI スロット 1 と 2 はともに 64 ビット 33MHz の PCI スロットです。
PCI スロット 2 は LowProfile PCI カード専用です。
- PCI スロットは、PCI ローカルバス仕様（第 2.2 版）に準拠しています。

■ 搭載可能な拡張カードと搭載位置


本サーバに搭載可能な拡張カード、および搭載可能位置を以下に示します。
なお、次の表のとおりには搭載しない場合、拡張カードは正常に動作しません。

搭載可能な搭載カード（型名）	搭載 PCI スロット	備考
LAN カード (PG-1861)	1	100BASE-TX/10BASE-T、Dual Port、IPSec
LAN カード (PG-1871L)	1、2	100BASE-TX/10BASE-T、IPSec、LowProfile
LAN カード (PG-1881L)	1、2	1000BASE-SX、LowProfile
LAN カード (PG-1891L)	1、2	1000BASE-T、LowProfile
リモートサービスボード (PG-RSB101)	1	
SCSI カード (PG-130L)	1、2	外付け SCSI オプション用 (Ultra160 SCSI、LowProfile)
通信カード V/X (PG-1631)	1	
ISDN カード (PG-1651)	1	
RS-232C カード (GP5-162)	1	





4.6.2 取り付けの手順と注意

ここでは、拡張カードの取り付け手順と注意事項について説明します。

⚠ 警告

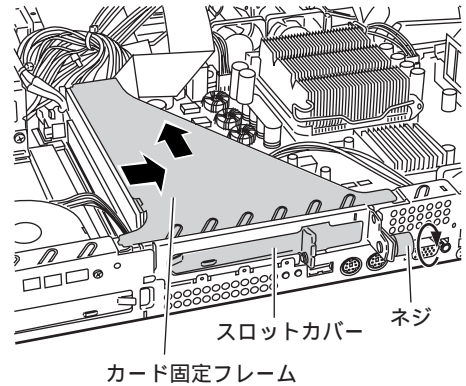
-  ● 取り付けるときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります（→「3.3 電源を切る」(P.29)）。

⚠ 注意

-  ● 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。
-  ● 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。
-  ● 拡張カードは静電気の影響を受けやすいので、伝導パッドなどの上に置くか、取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。
-  ● 本サーバは薄型のため、PCI カードの取り付けが他のサーバと比べて複雑になっています。PCI スロット 2 に拡張カードを取り付ける場合は、十分注意してください。

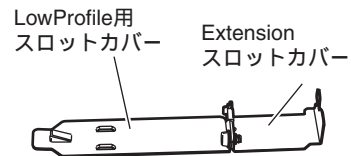
■ 取り付け手順 (PCI スロット 1)

- 1** 電源を切り、トップカバーを取り外します。
→「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)
- 2** サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3** スロットカバーおよびカード固定フレームを取り外します。
ネジをゆるめて、スロットカバーおよびカード固定フレームを取り外します。



POINT

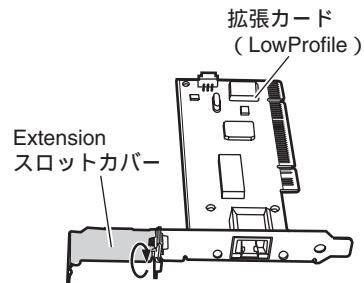
- ▶ PCI スロット 1 のスロットカバーは、LowProfile 用のスロットカバーと Extension スロットカバーで構成されています。



- 4** LowProfile のカードを取り付ける場合は、拡張カードと Extension スロットカバーを固定します。

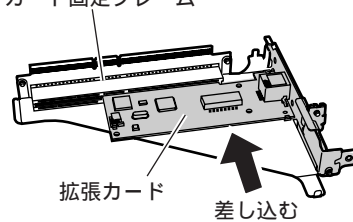
拡張カードと Extension スロットカバーをネジで固定します。

ネジは、Extension スロットカバーに付いているネジを使用してください。



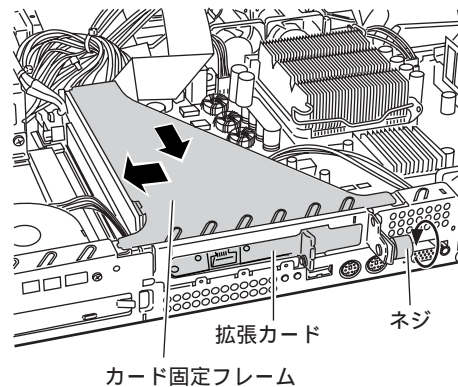
5 拡張カードをカード固定フレームに取り付けます。

拡張カードをカード固定フレームに確実に差し込んで取り付けます。



6 カード固定フレームをコネクタに取り付け、ネジをしめます。

カード固定フレームをコネクタに確実に取り付け、手順3でゆるめたネジをしめて固定します。



7 トップカバーを取り付け、サーバを元の位置に戻します。

システム資源情報を設定/確認します。

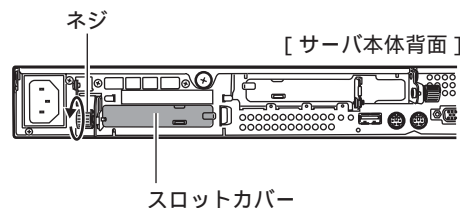
BIOS セットアップユーティリティの「5.3.16 Advanced Options メニュー」の「■ PnP/PCI Options サブメニュー」(→ P.91) で、「PCI IRQ Setting」が「Auto」であることを確認してください。

POINT

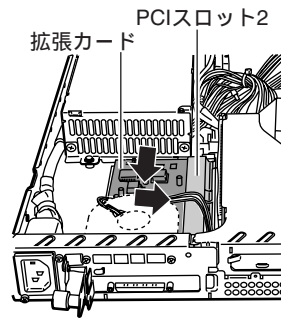
- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
- ▶ 取り外しは、上記と逆の手順で行います。

■ 取り付け手順 (PCI スロット 2)

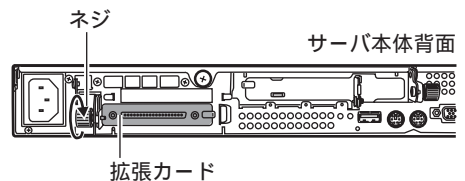
- 1** 電源を切り、トップカバーを取り外します。
→ 「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)
- 2** サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3** スロットカバーを取り外します。
ネジをゆるめて、スロットカバーを取り外します。



- 4** 拡張カードをコネクタに取り付けます。
拡張カードをコネクタにしっかりと取り付けます。



- 5** カードストッパーで固定します。
手順3でゆるめたネジをしめて、拡張カードを固定します。



- 6** トップカバーを取り付け、サーバを元の位置に戻します。

システム資源情報を設定/確認します。

BIOS セットアップユーティリティの「5.3.16 Advanced Options メニュー」の「■ PnP/PCI Options サブメニュー」(→ P.91) で、「PCI IRQ Setting」が「Auto」であることを確認してください。

POINT

- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
- ▶ 取り外しは、上記と逆の手順で行います。

4.6.3 SCSI カードの留意事項

ここでは、SCSI カードに関する留意事項について説明します。なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項をよくお読みください。

本サーバで使用できる SCSI カードを以下に示します。

品名 (型名)	搭載スロット	備考
SCSI カード (PG-130L)	PCI スロット 1、2	Ultra160 SCSI、外付け SCSI オプション用

■ SCSI カードご使用時の注意事項

- SCSI カードには、本サーバがサポートしている外付け SCSI オプションを接続してください。
サポートしていない外付け SCSI オプションの動作は保証しません。
- SCSI カードの BIOS 設定は「Disabled」に設定してください。
SCSI カードの BIOS 設定については、拡張カードに添付の取扱説明書をご覧ください。

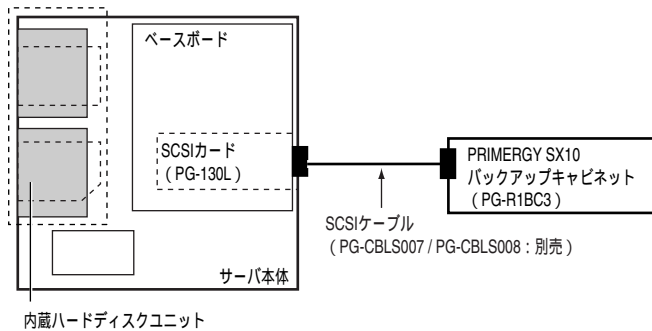
■ SCSI カードを使用した接続形態

SCSI カードを使用して、外付け SCSI オプションを増設するには、次の形態があります。個々に接続条件がありますので、各項目を参照してください。

- バックアップキャビネットを接続する形態
- 外付け SCSI オプションを接続する形態

● バックアップキャビネットを接続する形態

バックアップキャビネットは、以下の図のように接続します。



* バックアップキャビネットは1台のみ接続可能です。

4.6.4 LAN カード／オンボード LAN の留意事項

ここでは、LAN カード／オンボード LAN に関する留意事項について説明します。なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項をよくお読みください。

本サーバで使用できる LAN カードを以下に示します。

品名	型名	備考
LAN カード	PG-1871L	100BASE-TX/10BASE-T 用、IPSec、LowProfile
LAN カード	PG-1881L	1000BASE-SX 用、LowProfile
LAN カード	PG-1891L	1000BASE-T 用、LowProfile
LAN カード	PG-1861	100BASE-TX/10BASE-T 用、Dual Port

LAN カード／オンボード LAN ご使用時の注意事項を以下に示します。

- 他のサーバで使用していた LAN カードは、本サーバに搭載しないでください。

4.6.5 通信カード V/X

本サーバで使用できる通信カード V/X を以下に示します。

なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項を参照してください。

品名	型名	備考
通信カード V/X	PG-1631	PCI バス

4.6.6 ISDN カード

本サーバで使用できる ISDN カードを以下に示します。

なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項を参照してください。

品名	型名	備考
ISDN カード	PG-1651	PCI バス

ISDN カードご使用時の注意事項を以下に示します。

- PG-1651 は終端抵抗を装備しており、DSU から最遠端のローゼットまたはカードのどちらかを有効にする必要があります。

4.6.7 RS-232C カード

本サーバで使用できる RS-232C カードを以下に示します。

なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項を参照してください。

品名	型名	備考
RS-232C カード	GP5-162	PCI バス

RS-232C カードご使用時の注意事項を以下に示します。

- RS-232C カード (GP5-162) を Windows NT Server 4.0 で使用する場合は、Windows NT 4.0 Service Pack を適用したあとに、拡張カードに添付のドライバをインストールしてください。

4.6.8 リモートサービスボード

ここでは、リモートサービスボードに関する留意事項について説明します。なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項をよくお読みください。

本サーバで使用できるリモートサービスボードを以下に示します。

⚠ 注意



- リモートサービスボードの AC アダプタは、リモートサービスボードを本サーバに搭載し、本サーバのトップカバーを閉じるまで絶対に接続しないでください。故障や火災、感電の原因となります。



- リモートサービスボードの交換、またはその他のオプション装置の増設などを行う場合は、作業を開始する前に、必ずリモートサービスボードの AC アダプタの電源ケーブルをコンセントから抜いてください。故障や火災、感電の原因となります。

本サーバで使用できるリモートサービスボードを以下に示します。

品名	型名	備考
リモートサービスボード	PG-RSB101	ボード
リモートサービスボード搭載キット H	PG-RSBOP8	本サーバ搭載用キット (ケーブルを含む)

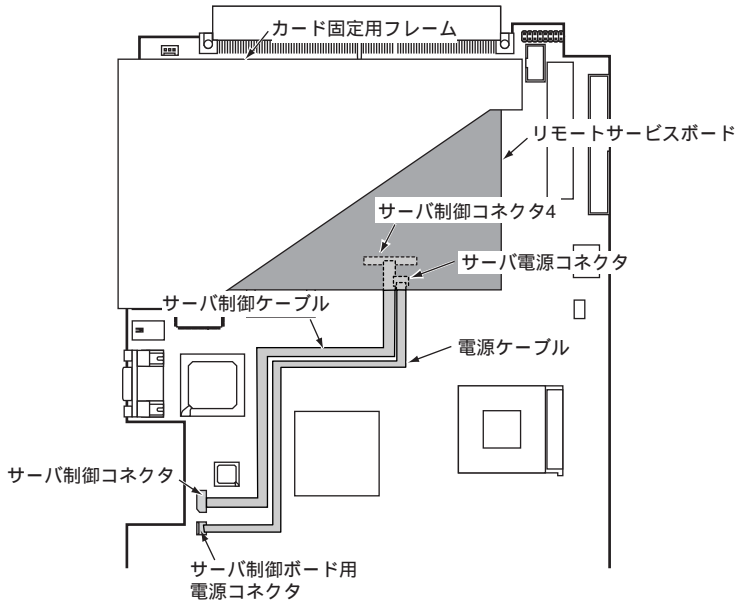
リモートサービスボードの取り付け時の注意事項を次に示します。

■ リモートサービスボード搭載前に

リモートサービスボード搭載時の準備、および取り付け作業については、リモートサービスボード、およびリモートサービスボード搭載キット H に添付の取扱説明書を併せてお読みください。

■ リモートサービスボード制御ケーブルの取り付け位置

リモートサービスボード搭載キット H に添付されているサーバ制御ケーブル、および電源ケーブルを、以下の図に示すサーバ制御コネクタとサーバ制御ボード用電源コネクタに接続します。



■ リモートサービスボード搭載時の留意事項

- リモートサービスボードを本サーバに搭載する場合は、リモートサービスボード搭載キット H が必要です。
- リモートサービスボードを使用するには、ファームウェアのアップデートが必要です。ファームウェアのアップデート方法については、リモートサービスボード搭載キット H に添付の取扱説明書を参照してください。
- リモートサービスボードを使用するには、必ず **ServerView** をインストールしてください。

第 5 章

ハードウェアの設定について

この章では、本サーバを動作させる上で必要な環境設定の方法について説明しています。

5.1	セットアップの概要	64
5.2	ハードウェアの設定	65
5.3	BIOS セットアップユーティリティを使う	66
5.4	FastBuild ユーティリティを使う	95
5.5	BIOS 設定情報の退避／復元	108

5.1 セットアップの概要

本サーバを正常に機能させるためには、以下に示す作業を正しく行う必要があります。

■ ハードウェアの設定

サーバ本体や本体に装着するオプション装置、拡張カードのスイッチやジャンパピンなどの物理的な設定を実施して確認します。このセットアップに誤りがあると、サーバが動作しない、または正しく機能しません。本章では、ベースボードのジャンパピンの設定について説明します。サーバ本体に内蔵するハードディスクドライブ、ドライブユニットおよび拡張カードの設定については、「第4章 内蔵オプションの取り付け」(→ P.37)、および各オプション装置に添付の取扱説明書を参照し、正しく設定してください。

→ 「5.2 ハードウェアの設定」(P.65)

■ BIOS セットアップユーティリティ

BIOS (Basic Input Output System) は、キーボードやディスプレイなどの入出力装置を制御する基本的なソフトウェアです。BIOS セットアップユーティリティは、ハードウェアの設定を行う場合に使用します。本ユーティリティで設定したオプションパラメタは、サーバ本体内の CMOS RAM (以下、CMOS) および NVRAM に書き込まれます。

→ 「5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」(P.66)

■ FastBuild ユーティリティ

本サーバのオンボード IDE アレイコントローラに関する各種設定を行います。アレイシステムを構築する場合に使用します。

→ 「5.4 FastBuild ユーティリティを使う」(P.95)

5.2 ハードウェアの設定

ジャンパピンの設定は以下のとおりです。

■ ジャンパピンの設定手順

- 1** 電源を切り、トップカバーを取り外します。
→「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)
- 2** サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3** ジャンパピンの設定を変更します。
- 4** トップカバーを取り付けます。
→「4.2 トップカバーの取り外し」(P.40)

■ ジャンパピン

ベースボード上のジャンパピン（「1.5 ベースボード」(→ P.17) の 29、30、31) の設定について説明します。

- JP1（「1.5 ベースボード」(→ P.17) の 30)
CMOS をクリアするかどうかを設定します。



ジャンパの設定 (ショートの設定)	説明
1-2 (ご購入時設定値)	CMOS クリアしません。
2-3	CMOS をクリアします。 CMOS をクリアしたあとは、ジャンパの設定を元に戻してください。

- JP2 (変更禁止)（「1.5 ベースボード」(→ P.17) の 31)



ジャンパの設定 (ショートの設定)
1-2 (ご購入時設定値)

- JP3 (変更禁止)（「1.5 ベースボード」(→ P.17) の 29)



ジャンパの設定 (ショートの設定)
1-2 (ご購入時設定値)

5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う

BIOS セットアップユーティリティの概要や始め方について説明します。

5.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき

BIOS セットアップユーティリティとは、メモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。

BIOS セットアップユーティリティによる設定は、以下の場合に行います。

- PCI カードの設定を行う場合
→ 「5.3.16 Advanced Options メニュー」の「■ PnP/PCI Options サブメニュー」(→ P.91)
- パスワードの設定をする場合
→ 「2.1.2 ソフトウェアのセキュリティ」の「■ パスワードの設定方法」(→ P.22)

また、POST 中にエラーメッセージが表示された場合の対処として、BIOS セットアップユーティリティの設定内容を確認する必要があります。

→ 「6.5 エラーメッセージ」(P.127)

重要

- ▶ BIOS セットアップユーティリティで設定した内容は、サーバ本体内部の CMOS RAM (以下、CMOS) および NVRAM に記録されます。この CMOS は、内蔵バッテリーによって情報を保持しています。
セットアップを正しく行っても、POST でセットアップに関するメッセージが表示される場合は、CMOS に設定内容が保存されていないおそれがあります。原因としてバッテリーが消耗していることが考えられますので、担当保守員に連絡してください。
- ▶ 「変更禁止」と書かれた項目は、変更しないでください。
装置が正しく動作しないことがあります。

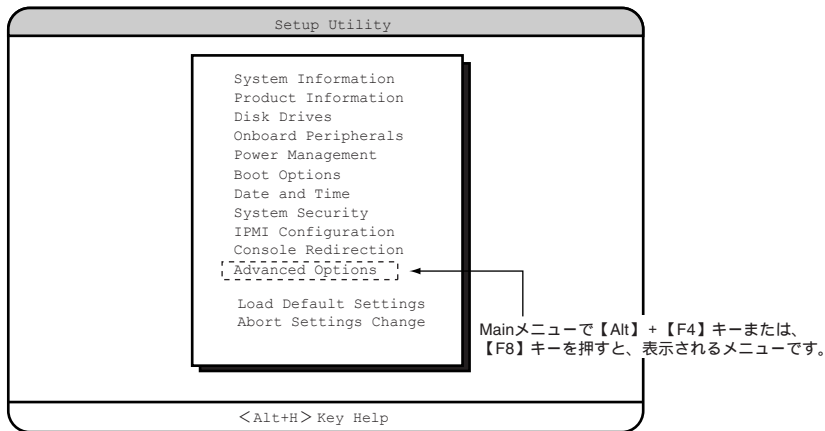
5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了

BIOS セットアップユーティリティの起動方法と終了の方法は、以下のとおりです。

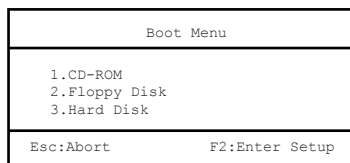
■ BIOS セットアップユーティリティの起動方法

BIOS セットアップユーティリティの起動方法は以下のとおりです。

- 1 サーバ本体の電源を入れます。
- 2 POST のメモリカウント終了後、画面に「Press F2 key to enter Setup, F12:Boot Menu」と表示されたら【F2】キーを押します。
Main メニュー画面が表示されます。



また、POST のメモリカウント終了後、画面に「Press F2 key to enter Setup, F12:Boot Menu」のメッセージが表示されている間に【F12】キーを押すと、Boot Menu 画面が表示されます。



Boot Menu 画面では、次に起動させるディスクの選択ができます。

■ BIOS セットアップユーティリティの終了方法

BIOS セットアップユーティリティの終了方法は、以下のとおりです。

1 Main メニューから【Esc】キーを押します。次のメッセージが表示されます。

- ・設定内容を変更しないで終了した場合

```
Do you really want to exit SETUP?
```

- ・設定内容を変更して終了した場合

```
Setting have been changed.
Do you want to save CMOS settings?
```

2 【→】【←】キーで「Yes」か「No」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

- ・設定内容を変更しないで終了した場合
そのまま終了する場合は、「Yes」を選択します。本サーバが再起動されます。
終了せずに BIOS セットアップユーティリティに戻る場合は、「No」を選択します。
- ・設定内容を変更して終了した場合
設定内容を保存する場合は、「Yes」を選択します。保存しない場合は、「No」を選択します。本サーバが再起動されます。

5.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作

BIOS セットアップユーティリティの設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

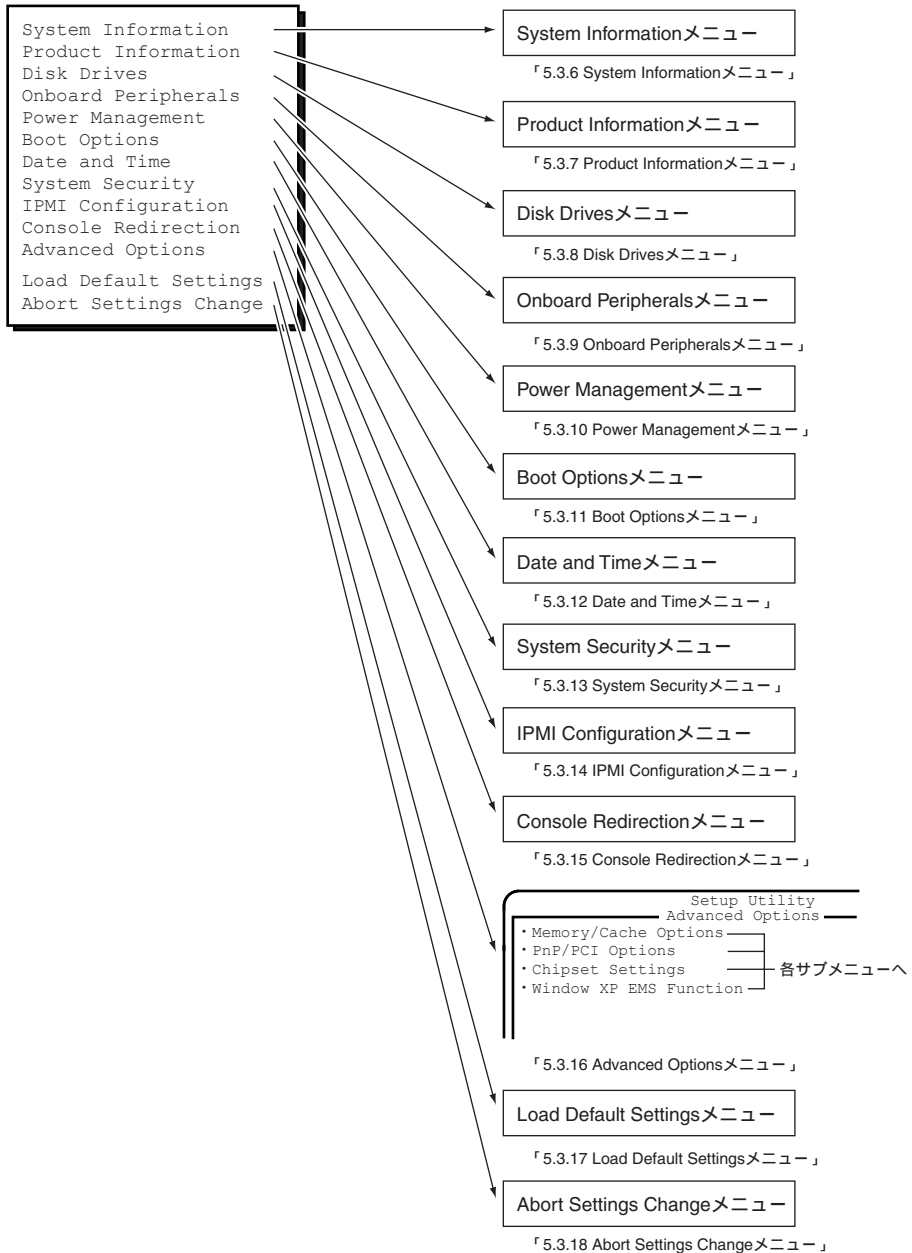
キー	役割
【F1】	ヘルプの表示、非表示を切り替えます。
【Esc】	現在の操作を中止し、前の操作に戻ります。
【Enter】	設定項目を選択します。またはその項目のサブメニューを表示します。サブメニューが表示された状態で【Esc】キーを押すと、メニュー画面に戻ります。
【↑】【↓】	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】【→】	項目の値を変更します。
【PageUp】【PageDown】	次画面または前画面に移ります。
【Home】	メニューの先頭に移動します。
【End】	メニューの最後に移動します。

5.3.4 メニューと項目一覧

BIOS セットアップユーティリティは、13 個のメニューから構成されています。ここでは、メニューと設定項目を一覧で説明します。

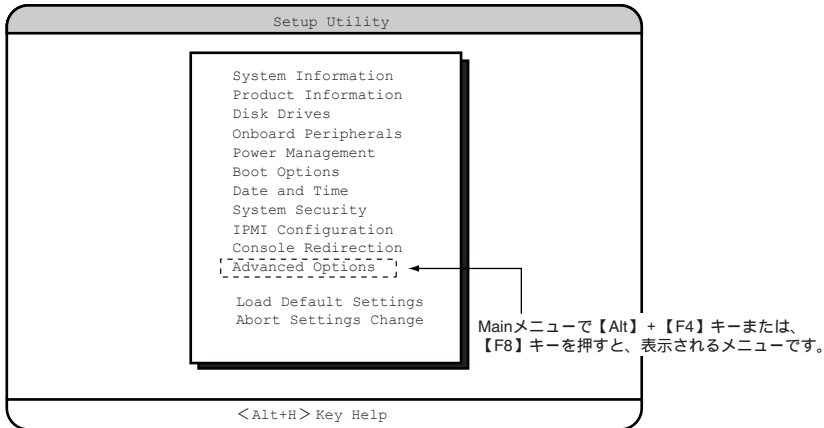
[Mainメニュー]

「5.3.5 Mainメニュー」



5.3.5 Main メニュー

ここでは、Main メニューについて説明します。
 BIOS セットアップユーティリティを起動すると、最初に表示されるメニューです。



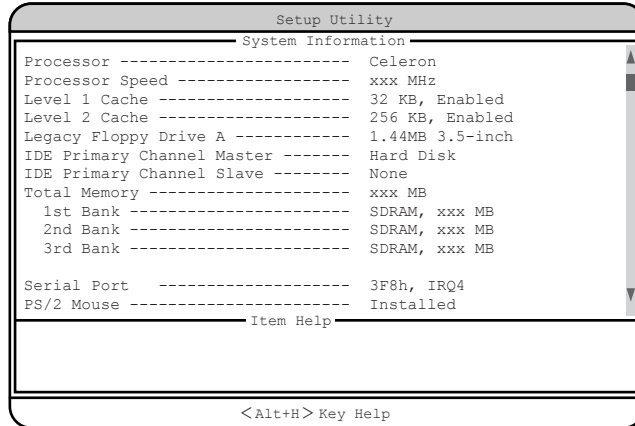
【↑】【↓】キーを押して設定を変更したいメニューにカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、各メニューが表示されます。

項目	内容
System Information	本サーバの現在のハードウェア設定情報を表示します。 → 「5.3.6 System Information メニュー」 (P.72)
Product Information	本サーバの製品情報を表示します。 → 「5.3.7 Product Information メニュー」 (P.73)
Disk Drives	ドライブに関する設定をします。 → 「5.3.8 Disk Drives メニュー」 (P.74)
Onboard Peripherals	ベースボード上の装置の設定を行います。 → 「5.3.9 Onboard Peripherals メニュー」 (P.77)
Power Management	省電力モードに関する設定をします。 → 「5.3.10 Power Management メニュー」 (P.79)
Boot Options	電源を入れるときの設定を行います。 → 「5.3.11 Boot Options メニュー」 (P.81)
Date and Time	日時を設定します。 → 「5.3.12 Date and Time メニュー」 (P.82)
System Security	セキュリティに関する設定をします。 → 「5.3.13 System Security メニュー」 (P.83)
IPMI Configuration	イベントに関する設定をします。 → 「5.3.14 IPMI Configuration メニュー」 (P.85)
Console Redirection	コンソールリダイレクションの設定をします。 → 「5.3.15 Console Redirection メニュー」 (P.88)

項目	内容
Advanced Options	ベースボードに関する各種設定をします。それぞれサブメニューがあります。 →「5.3.16 Advanced Options メニュー」(P.89)
Load Default Settings	通常は選択する必要はありません。本メニューでは、すべての設定値を初期値に戻します。 →「5.3.17 Load Default Settings メニュー」(P.94)
Abort Settings Change	BIOS セットアップユーティリティで設定変更した 値を取り消す場合に選択します。 →「5.3.18 Abort Settings Change メニュー」(P.94)

5.3.6 System Information メニュー

System Information メニューは、本サーバの現在のハードウェア設定情報を表示します。設定を変更することはできません。

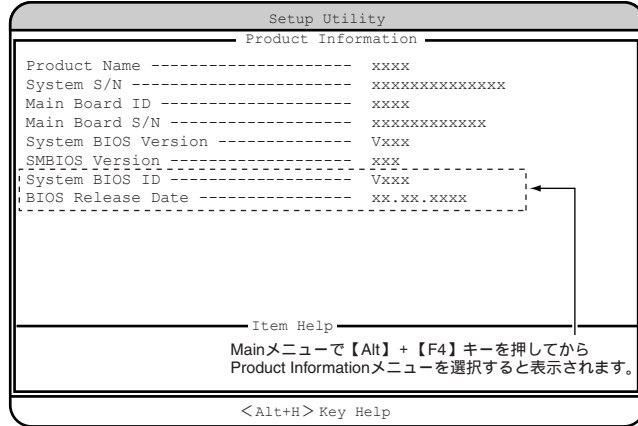


各項目で表示される内容は、以下のとおりです。

項目	内容
Processor	システムに搭載しているプロセッサ名を表示します。
Processor Speed	プロセッサ動作周波数を表示します。
Level 1 Cache	内部キャッシュ (L1) 搭載サイズを表示します。
Level 2 Cache	外部キャッシュ (L2) 搭載サイズを表示します。
Legacy Floppy Drive A	フロッピーディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) を表示します。
IDE Primary Channel Master	プライマリ IDE のマスタに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。
IDE Primary Channel Slave	プライマリ IDE のスレーブに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。
Total Memory	本サーバが利用できるメモリサイズを表示します。
1st Bank / 2nd Bank / 3rd Bank	本サーバが搭載しているメモリ種別と容量を表示します。
Serial Port	シリアルポートの設定情報 (I/O ポートアドレス、IRQ) を表示します。
PS/2 Mouse	マウスの接続状態を表示します。

5.3.7 Product Information メニュー

Product Information メニューは、本サーバの製品情報を表示します。
設定を変更することはできません。

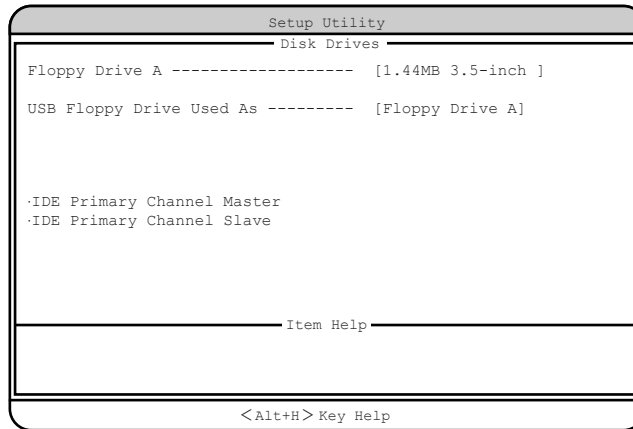


各項目で表示される内容は、以下のとおりです。

項目	内容
Product Name	製品名を表示します。
System S/N	シリアルナンバーを表示します。本サーバでは無効な情報です。
Main Board ID	ベースボードの ID を表示します。
Main Board S/N	ベースボードのシリアルナンバーを表示します。
System BIOS Version	BIOS の版数を表示します。
SMBIOS Version	SMBIOS の版数を表示します。
System BIOS ID	BIOS の版数を表示します。 Main メニューで【Alt】 + 【F4】キーを押すと表示されます。
BIOS Release Date	BIOS のリリース日時を表示します。 Main メニューで【Alt】 + 【F4】キーを押すと表示されます。

5.3.8 Disk Drives メニュー

Disk Drives メニューは、ドライブに関する設定を行います。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

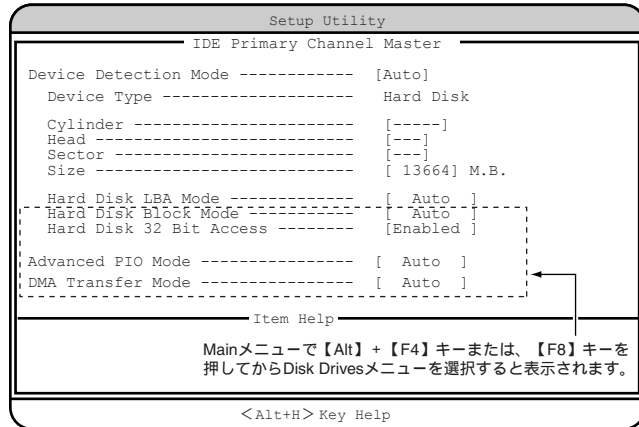
□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

項目	設定値	内容
Floppy Drive A	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> 360KB 5.25-inch <input type="checkbox"/> 1.2MB 5.25-inch <input type="checkbox"/> 720KB 3.5-inch <input checked="" type="checkbox"/> 1.44MB 3.5-inch <input type="checkbox"/> 2.88MB 3.5-inch	フロッピーディスクドライブのタイプ（記録密度とドライブサイズ）を設定します。
USB Floppy Drive Used As	<input checked="" type="checkbox"/> Normal <input type="checkbox"/> Floppy Drive A	USB Floppy Drive を起動ドライブとして使用するかどうかを設定します。 本サーバでは使用できません。
IDE Primary Channel Master	【Press Enter】	IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。 プライマリ IDE コネクタに取り付けたマスタとスレーブのハードディスクなどのタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。 → 「■ IDE Primary Channel Master/IDE Primary Channel Slave サブメニュー」 (P.75)
IDE Primary Channel Slave	【Press Enter】	

■ IDE Primary Channel Master/IDE Primary Channel Slave サブメニュー

IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。

サブメニューを使って、プライマリ IDE コネクタに取り付けたマスタとスレーブのハードディスクなどのタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

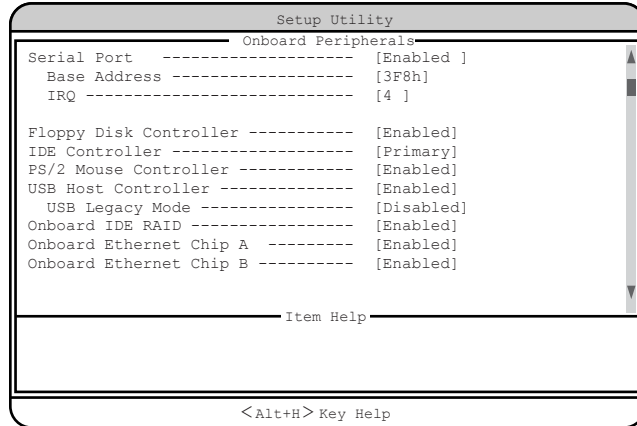
□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Device Detection Mode	<input checked="" type="checkbox"/> Auto <input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> User	IDE ドライブのタイプを設定します。
Device Type	<input type="checkbox"/> Hard Disk <input type="checkbox"/> IDE CD-ROM	IDE ドライブのタイプを表示します。
Cylinder	<input type="checkbox"/> 0 ~ 999 <input type="checkbox"/> ---	IDE ドライブのシリンダ数を表示します。 この項目は IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。
Head	<input type="checkbox"/> 0 ~ 999 <input type="checkbox"/> ---	IDE ドライブのヘッド数を表示します。 この項目は IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。
Sector	<input type="checkbox"/> 0 ~ 999 <input type="checkbox"/> ---	IDE ドライブのセクタ数を表示します。 この項目は IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。
Size	<input type="checkbox"/> 0 ~ 99999 <input type="checkbox"/> ---	IDE ドライブの容量を表示します。 この項目は IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。
Hard Disk LBA Mode	<input checked="" type="checkbox"/> Auto <input type="checkbox"/> Disabled	LBA (Linear Block Addressing) 転送を行うかどうかを設定します。 なお、IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。
Hard Disk Block Mode	<input checked="" type="checkbox"/> Auto <input type="checkbox"/> Disabled	ブロック転送（データを複数セクタ分まとめて転送すること）を行うかどうかを設定します。 このメニューは、Main メニューで 【Alt】 + 【F4】 キーまたは、 【F8】 キーを押すと表示されます。 なお、IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。

項目	設定値	内容
Hard Disk 32 Bit Access	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスできるように設定します。 このメニューは、Main メニューで 【Alt】 + 【F4】 キーまたは、 【F8】 キーを押すと表示されます。 なお、IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。
Advanced PIO Mode	<input checked="" type="checkbox"/> Auto <input type="checkbox"/> Mode0 <input type="checkbox"/> Mode1 <input type="checkbox"/> Mode2 <input type="checkbox"/> Mode3 <input type="checkbox"/> Mode4	PIO (Programmed I/O) モードを設定します。 このメニューは、Main メニューで 【Alt】 + 【F4】 キーまたは、 【F8】 キーを押すと表示されます。
DMA Transfer Mode	<input checked="" type="checkbox"/> Auto <input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> Multiword Mode0 <input type="checkbox"/> Multiword Mode1 <input type="checkbox"/> Multiword Mode2 <input type="checkbox"/> Ultra Mode0 <input type="checkbox"/> Ultra Mode1 <input type="checkbox"/> Ultra Mode2 <input type="checkbox"/> Ultra Mode3 <input type="checkbox"/> Ultra Mode4 <input type="checkbox"/> Ultra Mode5	DMA (Direct Memory Access) 転送モードにするかどうかを設定します。 このメニューは、Main メニューで 【Alt】 + 【F4】 キーまたは、 【F8】 キーを押すと表示されます。

5.3.9 Onboard Peripherals メニュー

Onboard Peripherals メニューは、ベースボード上の装置（シリアルポート、フロッピーディスクコントローラ、IDE コントローラ、マウス、USB、LAN）の設定を行います。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

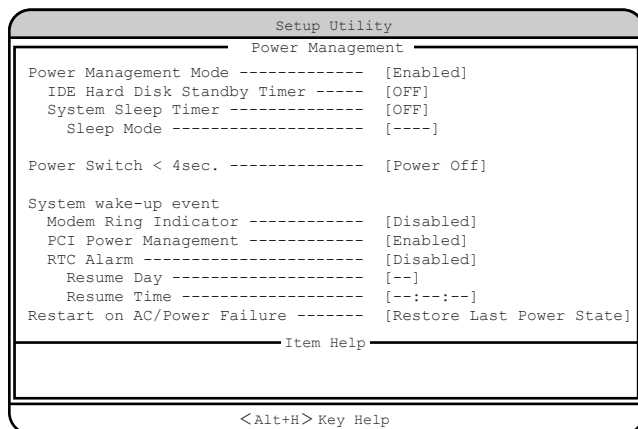
□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

項目	設定値	内容
Serial Port	◎ Enabled □ Disabled	シリアルポートの I/O ポートアドレスと IRQ（割り込みレベル）を設定します。
Base Address	◎ 3F8h □ 2F8h □ 3E8h □ 2E8h	シリアルポートの I/O ポートアドレスを設定します。
IRQ	◎ 4 □ 11	シリアルポートの IRQ を設定します。
Floppy Disk Controller	◎ Enabled □ Disabled	フロッピーディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。
IDE Controller	◎ Primary □ Disabled	IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。
PS/2 Mouse Controller	◎ Enabled □ Disabled	マウスコネクタに接続したマウスを使用するかどうかを設定します。
USB Host Controller	◎ Enabled □ Disabled	USB コントローラを使用するかどうかを設定します。 OS が、Windows 2000 Server の場合は「Enabled」に設定することで使用できます。
USB Legacy Mode	□ Enabled ■ Disabled	USB 対応キーボードを MS-DOS 環境のもとで有効にするかどうかを設定します。 本サーバでは使用できません。

項目	設定値	内容
Onboard IDE RAID	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	オンボードの IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。
Onboard Ethernet Chip A	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	オンボードの LAN1 を有効にするかどうかを設定します。
Onboard Ethernet Chip B	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	オンボードの LAN2 を有効にするかどうかを設定します。

5.3.10 Power Management メニュー

Power Management メニューは、省電力モードに関する設定を行います。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

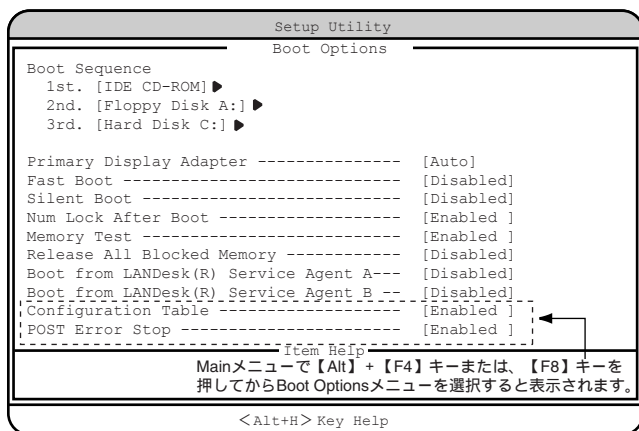
□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

項目	設定値	内容
Power Management Mode	■ Enabled □ Disabled	省電力モードにするかどうかを設定します。
IDE Hard Disk Standby Timer	□ 1 ~ 15 ■ OFF	内蔵ハードディスクを、スタンバイモード（一部の回路を停止させた状態）に移行させるまでの時間を設定します。ハードディスクにアクセスすると、スタンバイモードから通常の状態に数秒で戻ります。
System Sleep Timer	□ 2 ~ 120 ■ OFF	システムをスリープ状態に移行するまでの時間を設定します。
Sleep Mode	□ Standby □ Suspend	システムをスリープ状態に移行するときのモードを設定します。 「System Sleep Timer」が「OFF」の場合は、選択できません。
Power Switch < 4sec.	■ Power Off □ Suspend	電源スイッチによるサスペンド機能を有効にするかどうかを設定します。
System wake-up event	—	電源が切れている状態からの電源投入方法を設定します。
	注意事項 ▶ 本機能を使用した電源投入は、強制的に電源を切った場合には使用できません。 電源を通常手順で入れたあと、再度電源を切ってください。 → 「3.3 電源を切る」(P.29)	
Modem Ring Indicator	□ Enabled ◎ Disabled	モデムを使った電話回線からの着信で、電源が切れている状態から電源を入れるかどうかを設定します。
PCI Power Management	◎ Enabled □ Disabled	Wakeup on LAN 機能を有効にするかどうかを設定します。

項目	設定値	内容
RTC Alarm	<input type="checkbox"/> Time <input type="checkbox"/> Date/Time <input checked="" type="radio"/> Disabled	電源を入れる時間を設定します。
Resume Day	Resume 日付を設定	電源を入れる日付を設定します。「RTC Alarm」で「Date/Time」を設定したときに有効になります。
Resume Time	Resume 時間を設定	電源を入れる時間を設定します。「RTC Alarm」で「Time」または「Date/Time」を設定したときに有効になります。
Restart on AC/Power Failure	<input checked="" type="radio"/> Restore Last Power State <input type="checkbox"/> Always Power On <input type="checkbox"/> Always Power Off	電源供給復電時の設定を行う項目です。 Windows 2000 Server などシャットダウン後に電源が切れる OS にて、UPS のスケジュール運転を行う場合は、指定した時間になってもサーバが自動的に起動しない場合があります。 その場合、本設定項目を「Always Power On」に設定してください。

5.3.11 Boot Options メニュー

Boot Options メニューは、電源を入れるときの設定を行います。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

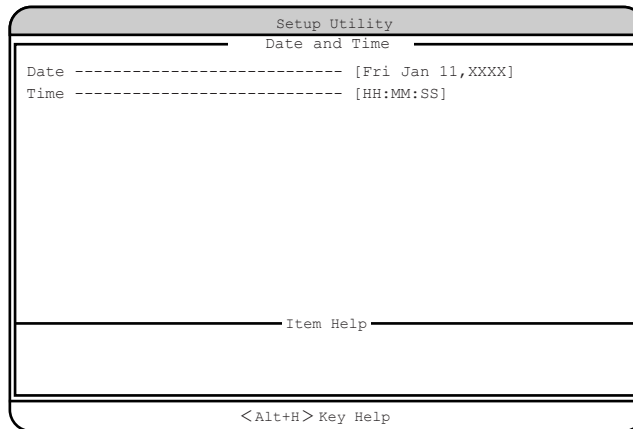
□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

項目	設定値	内容
Boot Sequence	<input type="checkbox"/> IDE CD-ROM <input type="checkbox"/> Floppy Disk A: <input type="checkbox"/> Hard Disk C: <input type="checkbox"/> Intel(R) Boot Agent Version 1.1 <input type="checkbox"/> Intel(R) Boot Agent Version 4.1	<p>どのデバイスから起動するかの順番を 1st. → 2nd. → 3rd. → 4th. → 5th. の順に設定します。</p> <p>各項目は上下矢印キーでカーソルを合わせて、左右矢印キーで設定します。</p> <p>各項目で【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。</p> <p>なお、4th. は、「Boot from LANDesk(R) Service Agent A」および「Onboard Ethernet Chip A」を「Enabled」に設定したとき、5th. は、「Boot from LANDesk(R) Service Agent B」および「Onboard Ethernet Chip B」を「Enabled」に設定したときに設定することができます。</p> <p>注意事項： ▶ 「Hard Disk C:」では設定後に必ず「Set」を選んで【Enter】キーを押してください。</p>
Primary Display Adapter	◎ Auto <input type="checkbox"/> Onboard	拡張カード VGA カードを使用するか、オンボード VGA を使用するかを設定します。
Fast Boot	<input type="checkbox"/> Auto ■ Disabled	POST (Power-On Self Test) を省略して起動するかどうかを設定します。
Silent Boot	<input type="checkbox"/> Enabled ■ Disabled	POST の途中経過を画面に表示するかどうかを設定します。
Num Lock After Boot	◎ Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	起動したあとに、キーボードを Num Lock 状態 (テンキーから数字などを入力できる状態) にするかどうかを設定します。
Memory Test	■ Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	POST で、メモリテストを行うかどうかを設定します。

項目	設定値	内容
Release All Blocked Memory	<input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled	メモリが縮退されている場合、メモリ交換後、本項目を「Enabled」に設定してください。縮退されていたメモリが、システムに組み込まれます。
Boot from LANDesk (R) Service Agent A	<input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled	起動時に、ネットワークドライブから起動するかどうかを設定します
Boot from LANDesk (R) Service Agent B	<input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled	起動時に、ネットワークドライブ 2 から起動するかどうかを設定します。
Configuration Table	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	本サーバの POST 後、構成表を表示するかどうかを設定します。 Main メニューで [Alt] + [F4] キーまたは、 [F8] キーを押すと表示されます。
POST Error Stop	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	POST (Power On Self Test) エラーが検出された場合に、システム起動を中止して、システムを停止するかどうかを設定します。 Main メニューで [Alt] + [F4] キーまたは、 [F8] キーを押すと表示されます。

5.3.12 Date and Time メニュー

Date and Time メニューは、日時の設定を行います。



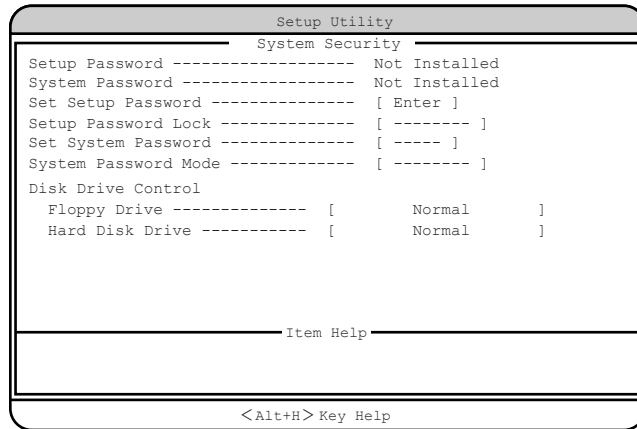
各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

: 設定項目 : ご購入時設定値 : 変更禁止

項目	設定値	内容
Date	—	曜日／月／日／西暦を設定します。
Time	—	時：分：秒を設定します。時間は 24 時間形式で入力します。

5.3.13 System Security メニュー

System Security メニューは、セキュリティに関する設定を行います。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

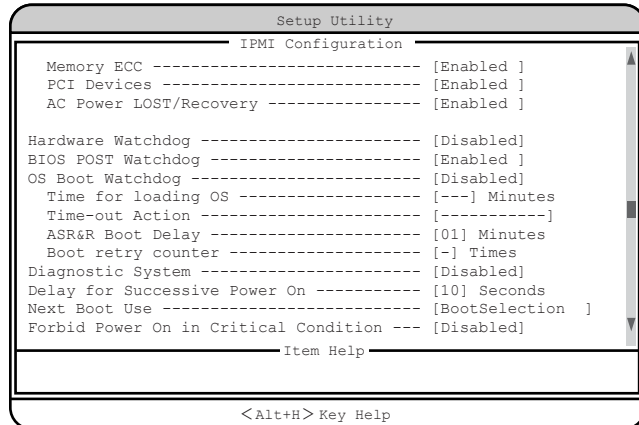
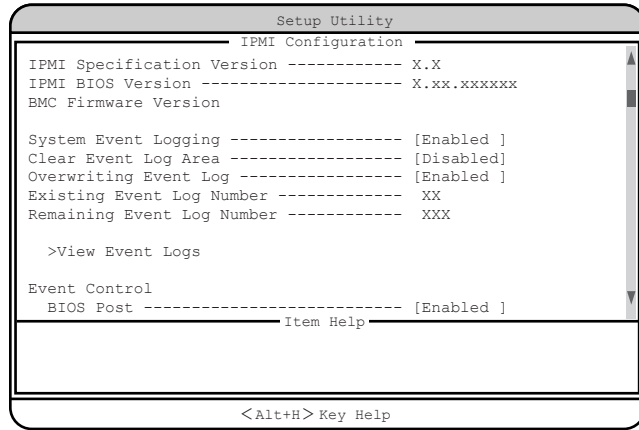
□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

項目	設定値	内容
Setup Password	□ Installed ◎ Not Installed	セットアップ用パスワード (Setup Password) が設定されているかどうかを表示します。パスワードが設定されていない場合は「Not Installed」、パスワードが設定されている場合は「Installed」と表示されます。
System Password	□ Installed ◎ Not Installed	システム用パスワード (System Password) が設定されているかどうかを表示します。パスワードが設定されていない場合は「Not Installed」、パスワードが設定されている場合は「Installed」と表示されます。
Set Setup Password	Setup Password を設定	Setup Password を設定します。Setup Password を設定すると、パスワードを入力しないと BIOS セットアップが起動できないようにします。パスワードの設定/変更/削除については、「■ パスワードの設定方法」(→ P.22) および「■ パスワードの削除/変更方法」(→ P.23) を参照してください。
Setup Password Lock	□ Standard □ Extended	Setup Password で保護される対象範囲を設定します。Setup Password が設定されている必要があります。
Set System Password	System Password を設定	System Password を設定します。System Password によって、システムに対する無許可アクセスを防止できます。System Password を設定するには、Setup Password が設定されている必要があります。パスワードの設定/変更/削除については、「■ パスワードの設定方法」(→ P.22) および「■ パスワードの削除/変更方法」(→ P.23) を参照してください。

項目	設定値	内容
System Password Mode	<input type="checkbox"/> System <input type="checkbox"/> Keyboard	System Password で保護される対象範囲を設定します。 Setup Password と System Password が設定されている必要があります。
Disk Drive Control	—	フロッピーディスク、IDE 規格のハードディスクへの書き込みを禁止します。
Floppy Drive	<input checked="" type="checkbox"/> Normal <input type="checkbox"/> Write Protect All Sectors <input type="checkbox"/> Write Protect Boot Sector	フロッピーディスクへの書き込みを禁止します。
Hard Disk Drive	<input checked="" type="checkbox"/> Normal <input type="checkbox"/> Write Protect All Sectors <input type="checkbox"/> Write Protect Boot Sector	IDE 規格のハードディスクへの書き込みを禁止します。

5.3.14 IPMI Configuration メニュー

IPMI Configuration メニューは、イベントに関する設定を行うメニューです。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

□ : 設定項目 ⊙ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

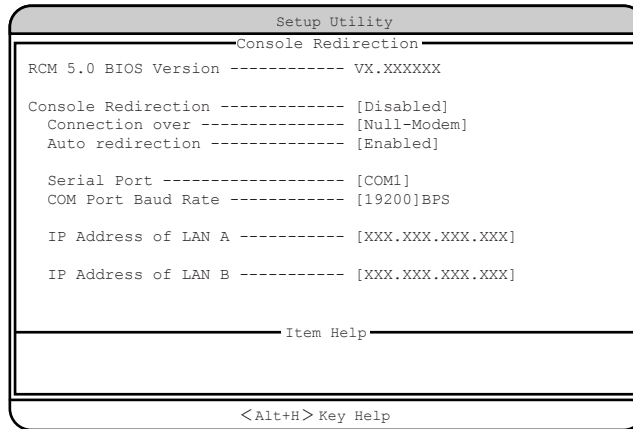
項目	設定値	内容
IPMI Specification Version	—	IPMI Specification のバージョンを表示します。
IPMI BIOS Version	—	IPMI BIOS のバージョンを表示します。
BMC Firmware Version	—	BMC ファームウェアのバージョンを表示します。
System Event Logging	■ Enabled □ Disabled	イベントログ機能を有効にするかどうかを指定します。
Clear Event Log Area	□ Enabled ⊙ Disabled	イベントログの消去を行うかどうかを設定します。
Overwriting Event Log	■ Enabled □ Disabled	イベントログがいっぱいになったときのログ動作を設定します。
Existing Event Log Number	—	格納済みのイベントログ数を表示します。
Remaining Event Log Number	—	残りのイベントログ格納領域を表示します。

項目	設定値	内容
> View Event Logs	—	イベントログビューワを表示します。内容については、「6.7.2 イベントログの参照/保存/消去」(→ P.134) を参照してください。
Event Control	—	監視する項目を設定します。
BIOS POST	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	POST 中に故障 CPU や故障メモリを検出した場合、POST を中断するかどうかを設定します。
Memory ECC	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	ECC メモリの監視を行うかどうかを設定します。
PCI Devices	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	PCI デバイスと PCI バスの監視を行うかどうかを設定します。
AC Power LOST/Recovery	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	電源供給の切断および復電の監視を行うかどうかを設定します。
Hardware Watchdog	<input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="checkbox"/> Disabled	電源を入れたあと、一定時間内に POST が開始されなかった場合に、自動的にシステムを再起動するかどうかを設定します。
BIOS POST Watchdog	<input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	何らかの原因で POST 中にシステムが停止し、一定時間内に POST が終了しなかった場合に、自動的にシステムを再起動するかどうかを設定します。
OS Boot Watchdog	<input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="checkbox"/> Disabled	<p>オペレーティングシステム (OS) に ServerView をインストールしている場合に、「OS ブート監視」機能を有効にするかどうかを設定します。本機能を有効にすると、何らかの原因で OS の起動が停止してしまった場合に、「Time-out Action」項目で設定された動作を行います。</p> <p>注意事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ OS に ServerView をインストールしていない場合は、必ず「Disabled」に設定してください。「Enabled」に設定した場合、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。 ▶ OS に ServerView をインストールしている場合にも、ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する場合は、必ず「OS ブート監視」機能を無効に設定してください。「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。 ▶ 「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。本機能の設定時には『ServerView ユーザーズガイド』を参照し、本機能の仕様と運用方法を十分ご理解の上、正しく設定してください。 <p>補足：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「OS ブート監視」機能に関する設定は ServerView から行うことができます。
Time for loading OS	<input checked="" type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 2 ~ 100	本項目で設定した時間以内に OS の起動が終了しなかった場合、「Time-out Action」項目で設定された動作を行います。分単位で設定します。

項目	設定値	内容
Time-out Action	<input type="checkbox"/> Power Cycle <input checked="" type="radio"/> Reset <input type="checkbox"/> Power Off <input type="checkbox"/> No Action	「Time for loading OS」で設定した時間以内に OS の起動が終了しなかった場合の、本サーバの動作を設定します。
ASR&R Boot Delay	<input checked="" type="radio"/> 01 <input type="checkbox"/> 02 ~ 30	ASR&R (Automatic Server Reconfiguration & Restart) 機能のリポートまでの時間を設定します。
Boot retry counter	<input checked="" type="radio"/> 3 <input type="checkbox"/> 0 ~ 7	オペレーティングシステムの起動を試行できる、最大回数を 0 ~ 7 回の間で指定します。
Diagnostic System	<input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="checkbox"/> Disabled	システムの再起動回数が「Boot Retry Counter」で指定した回数を超えた場合の処理を指定します。
Delay for Successive Power On	<input checked="" type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 0 ~ 9	電源を切ったあと、電源スイッチを無効化する時間を秒単位で設定します。 電源を切ったあと、本項目で設定した時間を経過しなければ再び電源を入れることはできません。
Next Boot Use	<input checked="" type="checkbox"/> BootSelection <input type="checkbox"/> PXE Diagnostic System	本サーバでは、サポートしていない機能です。
Forbid Power On in Critical Condition	<input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled	サーバ本体環境条件の温度条件 (10 ~ 35 °C) の範囲外のときに電源投入を抑制するかどうかを設定します。

5.3.15 Console Redirection メニュー

Console Redirection メニューは、コンソールリダイレクションの設定を行います。



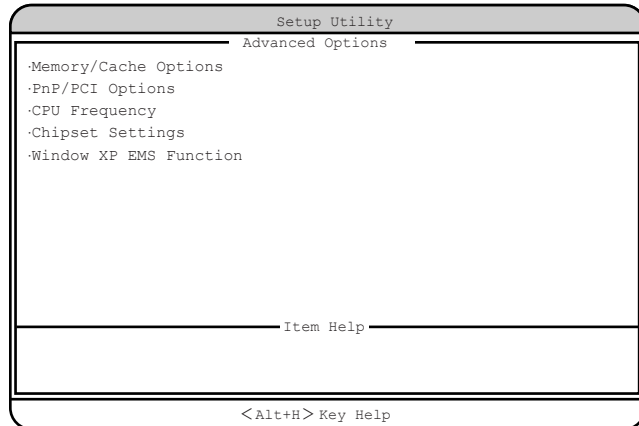
各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
RCM 5.0 BIOS Version	—	RCM 5.0 BIOS のバージョンを表示します。
Console Redirection	<input type="checkbox"/> Enabled ◎ Disabled	コンソールリダイレクションを有効にするかどうかを設定します。
Connection over	◎ Null-Modem <input type="checkbox"/> Ethernet	コンソールリダイレクションに使用するインターフェースを指定します。 この項目は、「Console Redirection」を「Enabled」に設定した場合だけ設定できます。 「Ethernet」に設定した場合は、Remote Control Service を使用して、コンソールリダイレクションを行ってください。
Auto redirection	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled	POST 後に、コンソールリダイレクションを行うかどうかを設定します。
Serial Port	◎ COM1	コンソールリダイレクションに使用するシリアルポートを表示します。
COM Port Baud Rate	◎ 19200	端末と通信する際の通信速度を指定します。 端末とのデータ通信は、設定した通信速度で実行されます。
IP Address of LAN A	—	本サーバでは、LAN A でのコンソールリダイレクションは対応していません。
IP Address of LAN B	—	LAN B の IP アドレスを表示します。 IP アドレスの設定方法については、「6.7.3 Remote Control Service をご使用になる前に」(→ P.136)を参照してください。

5.3.16 Advanced Options メニュー

Advanced Options メニューは、Main メニューで【Alt】 + 【F4】 キーまたは、【F8】 キーを押すと表示され、5つのサブメニュー（【F8】 キーを押したときは、「Chipset Settings」は表示されません）で構成されています。



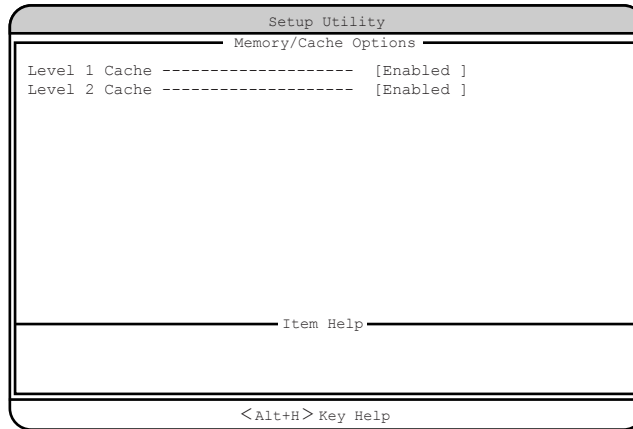
【↑】【↓】 キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせ、【Enter】 キーを押すと、サブメニューが表示されます。

□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

項目	内容
Memory/Cache Options	メモリに関する設定を行います。 → 「■ Memory/Cache Options サブメニュー」 (P.90)
PnP/PCI Options	オンボード上の PCI バスに関する設定を行います。PCI カードの IRQ の共有を設定する場合はこのメニューで設定します。 → 「■ PnP/PCI Options サブメニュー」 (P.91)
CPU Frequency	プロセッサの周波数の表示とタイプの設定を行います。 → 「■ CPU Frequency サブメニュー」 (P.92)
Chipset Settings	ベースボード上のチップセットに関する詳細情報の設定を行います。 → 「■ Chipset Settings サブメニュー」 (P.92)
Window XP EMS Function	Windows XP における EMS 機能についての設定を行います。 → 「■ Window XP EMS Function サブメニュー」 (P.93)

■ Memory/Cache Options サブメニュー

Memory/Cache Options サブメニューは、メモリに関する設定を行います。



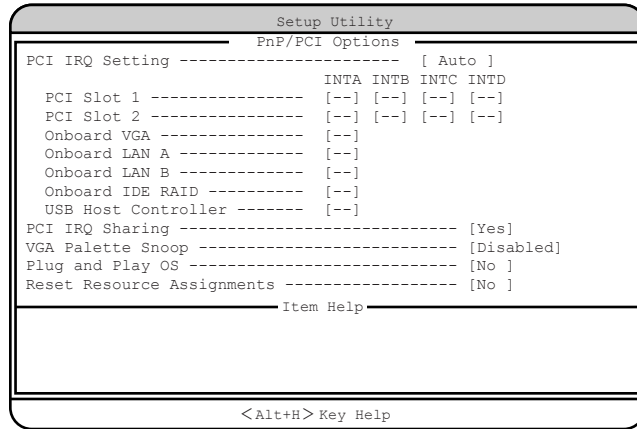
各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Level 1 Cache	■ Enabled □ Disabled	システムの内部キャッシュ (L1) メモリを設定をします。
Level 2 Cache	■ Enabled □ Disabled	システムの内部キャッシュ (L2) メモリを設定をします。

■ PnP/PCI Options サブメニュー

オンボード上の PCI バスに関する設定を行います。PCI カードの割り込みレベル (IRQ) の共有を設定する場合はこのメニューで設定します。



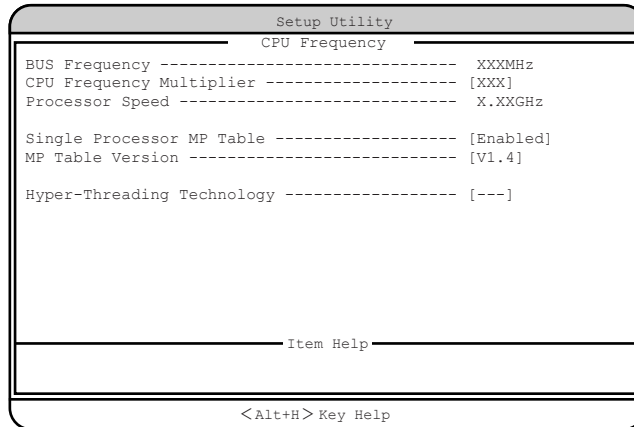
各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

: 設定項目 : ご購入時設定値 : 変更禁止

項目	設定値	内容
PCI IRQ Setting	<input checked="" type="radio"/> Auto <input type="checkbox"/> Manual	オンボード LAN / オンボード IDE アレイコントローラや PCI カードの IRQ を表示します。
PCI Slot 1	<input type="checkbox"/> --	PCI スロット 1、2 に PCI カードを取り付けるときに、個別に IRQ を設定します。
PCI Slot 2	<input type="checkbox"/> --	
Onboard VGA	<input type="checkbox"/> --	サーバ本体の VGA の IRQ を設定します。
Onboard LAN A	<input type="checkbox"/> --	サーバ本体の LAN1、LAN2 の IRQ を設定します。
Onboard LAN B	<input type="checkbox"/> --	
Onboard IDE RAID	<input type="checkbox"/> --	サーバ本体のオンボード IDE アレイコントローラの IRQ を設定します。
USB Host Controller	<input type="checkbox"/> --	サーバ本体の USB コントローラの IRQ を設定します。
PCI IRQ Sharing	<input type="checkbox"/> Yes <input checked="" type="checkbox"/> No	複数の PCI カードで IRQ を共有させるかどうかを設定します。
VGA Palette Snoop	<input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="checkbox"/> Disabled	サーバ本体のビデオコントローラのパレット情報 (画面に表示する色を定義した情報) を、ディスプレイカードなどのビデオコントローラからも参照できるように設定します。
Plug and Play OS	<input type="checkbox"/> Yes <input checked="" type="radio"/> No	システム起動時に、どのデバイスを初期化するかを設定します。
Reset Resource Assignments	<input type="checkbox"/> Yes <input checked="" type="radio"/> No	PCI カードに割り当てたシステム資源をリセットするかどうかを設定します。

■ CPU Frequency サブメニュー

プロセッサの周波数の表示とタイプの設定を行います。



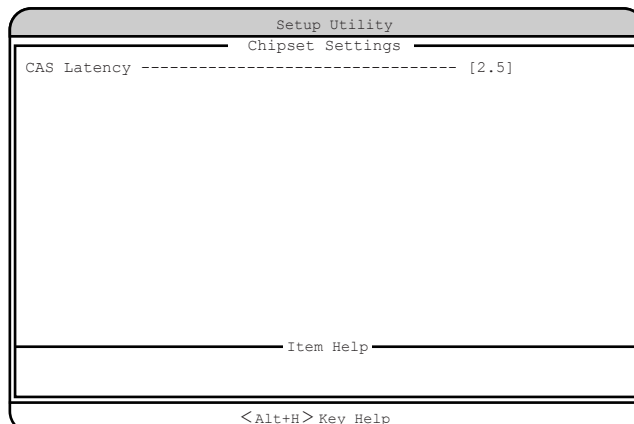
各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
BUS Frequency	—	CPU のバス周波数を表示します。
CPU Frequency Multiplier	—	CPU の倍率を表示します。設定しても変更されません。
Processor Speed	—	CPU の周波数を表示します。
Single Processor MP Table	■ Enabled □ Disabled	プロセッサの MP Table を作成するかどうかを設定します。
MP Table Version	■ V1.4 □ V1.1	使用するマルチプロセッサテーブルのバージョンを設定します。
Hyper-Threading Technology	◎ ---	本サーバでは、サポートしていない機能です。

■ Chipset Settings サブメニュー

ベースボード上のチップセットに関する詳細情報を設定します。



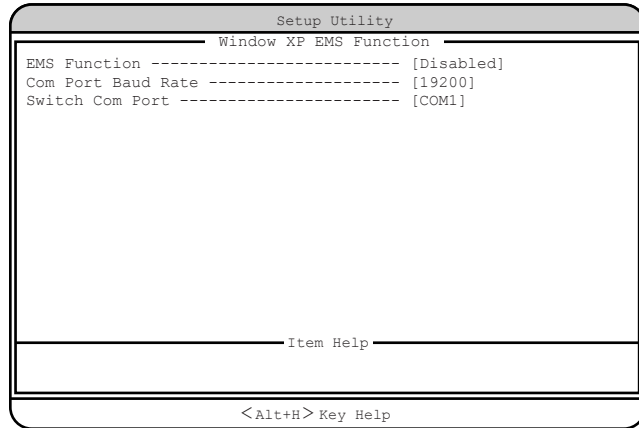
各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
CAS Latency	■ 2.5 □ 2	プロセッサの CAS Latency のクロックを設定します。

■ Window XP EMS Function サブメニュー

Windows XP における EMS 機能の設定を行います。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
EMS Function	□ Enabled ◎ Disabled	COM Port 経由で、電源のオン、オフ、リポートができるようにするかどうかを設定します。
Com Port Baud Rate	■ 19200	EMS 使用時の COM Port の転送レートを設定します。
Switch Com Port	■ COM1	EMS を使用する COM Port を指定します。

5.3.17 Load Default Settings メニュー

Load Default Settings メニューは、通常は選択する必要はありません。本メニューでは、すべての設定値を初期値に戻します。初期値は、ご購入時設定値とは異なります。初期値からご購入時設定値にするには、「5.5 BIOS 設定情報の退避／復元」(→ P.108)を参照して、設定内容を元の状態に戻してください。また、『はじめにお読みください』のコンフィグレーションシートを参照して、設定内容を確認してください。

初期値に戻す場合は、以下の操作を行います。

- 1 Main メニューから、【↑】【↓】キーで「Load Default Settings」を選択して、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to load default Settings?
```

- 2 【→】【←】キーで「Yes」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が初期値に設定され、Main メニューに戻ります。

5.3.18 Abort Settings Change メニュー

Abort Settings Change メニューでは、BIOS セットアップユーティリティで設定変更した値を取り消します。

設定値を取り消す場合は、以下の操作を行います。

- 1 Main メニューから、【↑】【↓】キーで「Abort Settings Change」を選択して、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to abort settings change?
```

- 2 【→】【←】キーで「Yes」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

設定変更が取り消され、Main メニューに戻ります。

5.4 FastBuild ユーティリティを使う

ここでは、FastBuild ユーティリティについて説明します。

FastBuild ユーティリティは、アレイ構成の作成・変更などを行うためのユーティリティです。

FastBuild ユーティリティは、以下の場合に実行します。

- IDE アレイシステムを構築／参照／削除する場合
- 接続されたハードディスクの情報を参照する場合
- 故障したハードディスクを交換後にリビルドを行う場合

重要

- ▶ Windows 2000 ServerまたはWindows NT Server 4.0を手動でインストールする場合およびLinuxをインストールする場合は、インストールの前にオンボード IDE アレイコントローラ配下にアレイ構成が作成されていることが必要です。ハードディスクユニットを1台だけ搭載している場合は、RAID 0のアレイを構成してください。RAID 1のアレイを構成する場合は、アレイを構成したあと、必ずハードディスクの初期化を行ってください。ハードディスクの初期化はバックグラウンド処理で行うこともできます。

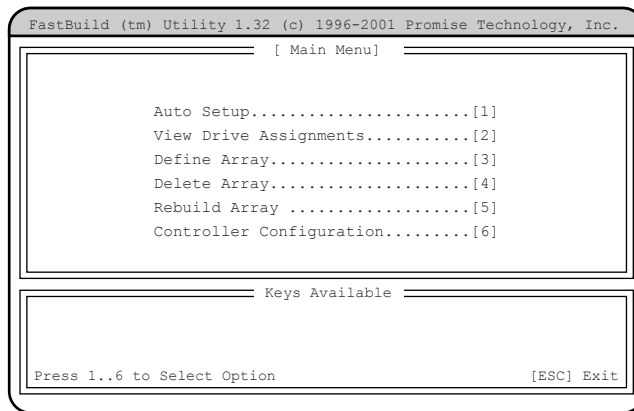
5.4.1 FastBuild ユーティリティの起動と終了

FastBuild ユーティリティの起動と終了の方法は以下のとおりです。

■ FastBuild ユーティリティの起動方法

FastBuild ユーティリティの起動方法は、以下のとおりです。

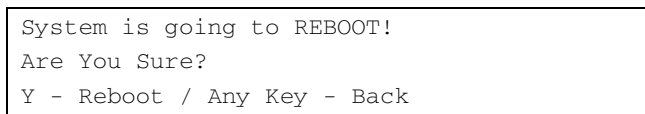
- 1 サーバ本体の電源を入れます。
- 2 サーバ起動時（POST 実行中）に、「Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility…」と表示されている間に【Ctrl】 + 【F】 キーを押します。
FastBuild ユーティリティが起動し、メニュー画面が表示されます。



■ FastBuild ユーティリティの終了方法

FastBuild ユーティリティの終了方法は、以下のとおりです。

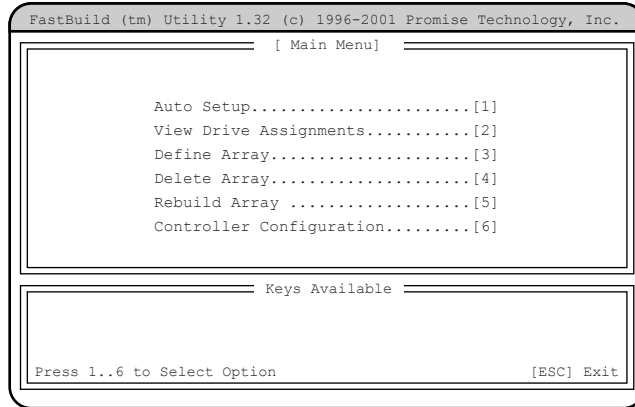
- 1 FastBuild ユーティリティメニュー画面で【Esc】 キーを押します。
次のメッセージが表示されます。



- 2 【Y】 キーを押します。
FastBuild ユーティリティが終了し、システムが再起動します。
なお、【Y】 キー以外のキーを押すと、FastBuild ユーティリティメニュー画面に戻ります。

5.4.2 FastBuild ユーティリティメニュー画面

ここでは、FastBuild ユーティリティメニュー画面について説明します。
FastBuild ユーティリティを起動すると、最初に表示されるメニューです。



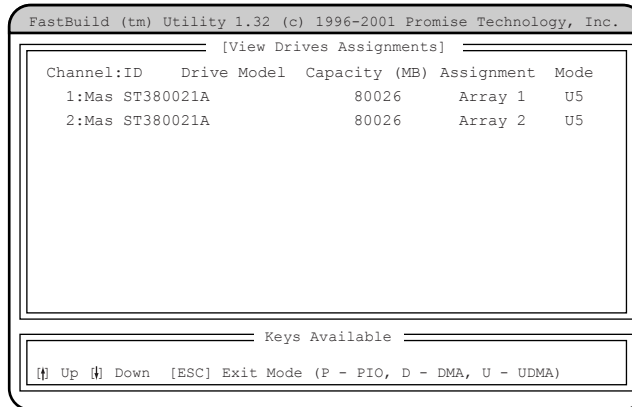
実行したいメニューの番号のキー（【1】～【6】）を押すと、各メニューが表示されます。

項目	実行キー	内容
Auto Setup	【1】	本サーバでは使用しません。
View Drive Assignments	【2】	接続しているハードディスクの情報を表示します。
Define Array	【3】	アレイ構成を作成し、初期化します。
Delete Array	【4】	設定済みのアレイ構成を削除します。
Rebuild Array	【5】	リビルドを行います。
Controller Configuration	【6】	オンボード IDE アレイコントローラ設定の表示／設定を行います。

5.4.3 View Drive Assignments メニュー

接続されているハードディスクの情報を参照する場合に使用します。

FastBuild ユーティリティメニュー画面で **【2】** キーを押すと View Drive Assignments メニュー画面が表示されます。



各項目で表示される内容は、以下のとおりです。

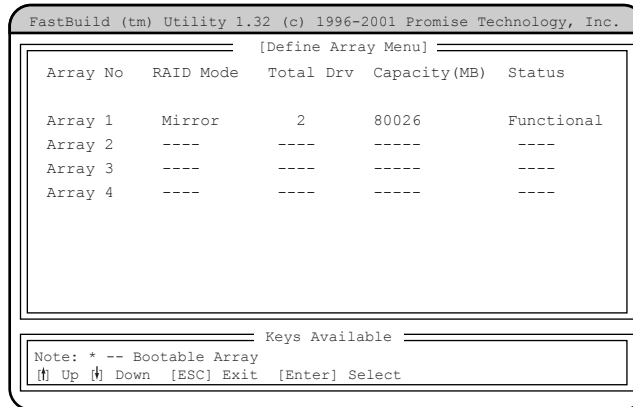
項目	内容
Channel	ドライブが接続されているチャンネル番号が表示されます。
ID	ドライブが「Master」か「Slave」かを表示します。
Drive Model	ドライブの会社名、製品名が表示されます。
Capacity	ドライブの容量 (MB 単位) が表示されます。
Assignment	ドライブが属するアレイ名 (番号) が表示されます。 ドライブがどのアレイにもアサインされていない場合は、「Free」と表示され ます。
Mode	ドライブの転送モードが表示されます。 たとえば、Ultra ATA 100 の場合、「U5」と表示されます。

表示を確認後 **【Esc】** キーを押すと、FastBuild ユーティリティメニュー画面に戻ります。

5.4.4 Define Array メニュー

アレイ構成を設定します。

FastBuild ユーティリティメニュー画面で【3】キーを押すと Define Array メニュー画面が表示されます。



各項目で表示される内容は、以下のとおりです。

項目	内容
Array No	アレイ構成の番号が表示されます。
RAID Mode	RAID モード (Stripe / Mirror) が表示されます。
Total Drv	使用しているディスク数が表示されます。
Capacity (MB)	ドライブの容量 (MB 単位) が表示されます。
Status	<p>アレイ構成の状態が表示されます。 ディスクアレイには、以下の3種類の状態があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Functional ディスクアレイが正常に稼動していることを示します。 • Critical RAID レベル1のディスクアレイが1台のハードディスクの故障により、冗長性のない状態で稼動していることを示します。 この場合、故障したハードディスクをできるだけ早く交換し、「Functional」に修復する作業 (リビルド) を行ってください。 • Offline ディスクアレイが稼動していないことを示します。RAID レベル0のディスクアレイ中の1台のハードディスクが故障した場合、または RAID レベル1のディスクアレイ中の2台のハードディスクが故障した場合に発生します。 この場合、ディスクアレイ中のデータは失われます。

POINT

- ▶ この画面上で、Array を選択して【Space】キーを押すと、ブートを行うハードディスクを変更できます。

■ アレイ構成の表示方法

すでに構築されたディスクアレイがある場合には、【↑】【↓】キーで情報を表示したいディスクアレイにカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと以下の画面が表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility 1.32 (c) 1996-2001 Promise Technology, Inc.
===== [Define Array Menu] =====
Array No  RAID Mode  Total Drv          Status
-----  -
Array 2   Stripe       2                    Functional
-----  -
Stripe Block: 64KB          Gigabyte Boundary:OFF

===== [Drives Assignments] =====
Channel:ID  Drive Model  Capacity (MB)  Assignment
-----  -
1:Mas ST380021A  80026        Y
2:Mas ST380021A  80026        Y

===== Keys Available =====
Note: * -- Bootable Array
[↑] Up [↓] Down [ESC] Exit [Enter] Select
```

各項目で表示される内容は、以下のとおりです。

項目	内容
Channel	ドライブが接続されているチャンネル番号が表示されます。
ID	ドライブが「Master」か「Slave」かを表示します。
Drive Model	ドライブの会社名、製品名が表示されます。
Capacity	ドライブの容量 (MB 単位) が表示されます。
Assignment	ドライブが属するアレイ名 (番号) が表示されます。 ドライブがいずれのアレイにもアサインされていない場合は、「Free」と表示されます。

■ アレイ構成の設定方法

新規にハードディスクを増設した場合は、設定の変更が必要です。

POINT

- ▶ 本サーバでは SPAN はサポートしていません。設定を行わないでください。

● [RAID 0 (ストライピング)] を構築する場合

以下の操作を行います。

- 1 【↑】【↓】キーで構成する「Array No」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

以下の画面が表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility 1.32 (c) 1996-2001 Promise Technology, Inc.
----- [Define Array Menu] -----
Array No  RAID Mode  Total Drv          Status
-----
Array 1   Stripe      0                  Functional
-----
Stripe Block: 64KB                      Gigabyte Boundary:OFF
-----
----- [Drives Assignments] -----
Channel:ID      Drive Model  Capacity (MB)  Assignment
-----
1:Mas ST380021A      80026         N
-----
----- Keys Available -----
Note: * -- Bootable Array
      ↑ Up ↓ Down [ESC] Exit [Enter] Select
```

- 2 「RAID Mode」を「Stripe」に設定します。
「RAID Mode」にカーソルを移動して【Space】キーを押します。
- 3 「Assignment」を「Y」に変更します。
「Assignment」の「N」にカーソルを移動して【Space】キーを押します。

POINT

- ▶ 「Stripe Block」の値は64KBから変更しないでください。
- ▶ 2個のハードディスクを使用したストライピングはサポートしていません。「Assignment」を行うハードディスクは必ず1個に設定してください。

- 4 【Ctrl】+【Y】キーを押して設定を保存します。
以下の画面が表示され、設定が終了します。

```
FastBuild (tm) Utility 1.32 (c) 1996-2001 Promise Technology, Inc.
----- [Define Array Menu] -----
Array No  RAID Mode  Total Drv  Capacity(MB)  Status
-----
*Array 1  Stripe    1          80026         Functional
Array 2   ----     ----       ----         ----
Array 3   ----     ----       ----         ----
Array 4   ----     ----       ----         ----
-----
----- Keys Available -----
Note: * -- Bootable Array
      ↑ Up ↓ Down [ESC] Exit [Enter] Select
```

● [RAID 1 (ミラーリング)] を構築する場合

以下の操作を行います。

- 1 【↑】【↓】キーで「Array 1」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

以下の画面が表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility 1.32 (c) 1996-2001 Promise Technology, Inc.
----- [Define Array Menu] -----
Array No  RAID Mode  Total Drv          Status
-----
Array 2   Stripe      2                  Functional
-----
Stripe Block: 64KB          Gigabyte Boundary:OFF

----- [Drives Assignments] -----
Channel:ID  Drive Model  Capacity (MB)  Assignment
-----
1:Mas ST380021A      80026         Y
2:Mas ST380021A      80026         Y

----- Keys Available -----
Note: * -- Bootable Array
[↑] Up [↓] Down [ESC] Exit [Enter] Select
```

- 2 「RAID Mode」を「Mirror」に設定します。
「RAID Mode」にカーソルを移動して【Space】キーを押します。
- 3 「Gigabyte Boundary」を「OFF」にします。
「Gigabyte Boundary」にカーソルを移動して【Space】キーを押します。
- 4 Channel 1 および Channel 2 の「Assignment」を「Y」に変更します。
「Assignment」の「N」にカーソルを移動して【Space】キーを押します。
- 5 【Ctrl】 + 【Y】キーを押して設定を保存します。
以下のメッセージが表示されたら【Y】キーを押して、データの二重化（ディスクアレイの初期化）を行います。

```
Do you want the disk image to be
Duplicated to another? (Yes/No)
Y - Create and Duplicate
N - Create Only
```

POINT

- ▶ データの二重化（ディスクアレイの初期化）は必ず行ってください。二重化を行わない場合、以下の不具合が起こることがあります。
 - ・ OS 上から認識されない
 - ・ OS が正しく動作しない
 - ・ OS 上で一貫性チェックを実施した場合、エラーとなる場合がある

6 以下の画面が表示されます。

ディスクアレイを構成するドライブの一覧が表示され、どのハードディスクからデータを複写するかどうかのメッセージが表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility 1.32 (c) 1996-2001 Promise Technology, Inc.
----- [Define Array Menu] -----
Array No  RAID Mode  Total Drv          Status
-----
Array 2   Stripe      2                  Functional
-----
Stripe Block: 64KB                      Gigabyte Boundary:OFF
-----
[Drives Assignments]
Channel:ID      Drive Model  Capacity (MB)  Assignment
-----
1:Mas ST380021A      80026         Y
2:Mas ST380021A      80026         Y
-----
[Keys Available]
Note: * -- Bootable Array
      ↑ Up  ↓ Down [ESC] Exit [Enter] Select
```

7 複写元のハードディスクを選択します。

【↑】【↓】キーで、最上段（Channel=1、ID=Master）のハードディスクにカーソルを移動後、【Enter】キーを押してください。

8 二重化処理開始のメッセージが以下のように表示されるので、【Y】キーを押します。

```
Start to duplicate the image....
Do you want to continue? (Yer/No)
Y - Continue, N - Abort
```

以下のメッセージが表示され、二重化が開始されます。

```
Please Wait While Duplicating The Image
.....0% Completed
```

POINT

- ▶ 処理中に【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押すと、サーバ本体を再起動し、OS 起動後にバックグラウンドで処理が行われます。

9 二重化処理が終了すると以下のメッセージが表示されるので、何かキーを押してシステムを再起動してください。

```
Array has been created...
<Press Any Key to Reboot>
```

5.4.5 Delete Array メニュー

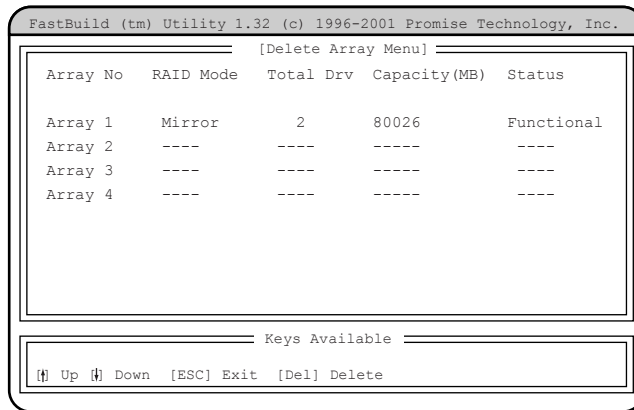
設定済みのアレイ構成を削除します。

重要

- ▶ アレイ構成の削除を行うと、ハードディスク内のデータも消去されます

FastBuild ユーティリティメニュー画面で **【4】** キーを押すと Delete Array メニュー画面が表示されます。

なお、アレイ構成が設定されていない場合は、選択できません。



各項目で表示される内容は、以下のとおりです。

項目	内容
Array No	アレイ構成の番号が表示されます。
RAID Mode	RAID モード (Stripe / Mirror) が表示されます。
Total Dev	使用しているディスク数が表示されます。
Capacity (MB)	ドライブの容量 (MB 単位) が表示されます。
Status	アレイ構成の状態が表示されます。

■ アレイ構成の削除方法

【↑】【↓】 キーで削除ディスクアレイにカーソルを合わせ、**【Delete】** キーを押すと以下のメッセージが表示されます。

```
Are you sure you want to delete this array?
Press Ctrl-Y to Delete, or others to Abort.....
```

【Ctrl】 + 【Y】 キーを押すと、選択したアレイ構成が削除されます。
アレイ構成の削除を中止する場合は、**【Ctrl】 + 【Y】** キー以外を押します。
【Esc】 キーを押すと、FastBuild ユーティリティメニュー画面に戻ります。

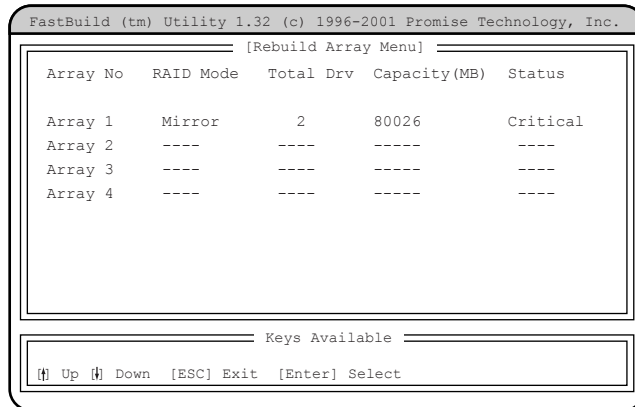
5.4.6 Rebuild Array メニュー

リビルドを行います。

ハードディスクが故障した場合、故障したハードディスクを交換後、リビルドを行う必要があります。

なお、ディスクアレイの修復は、既存のハードディスクから新規のハードディスクにデータを複製する二重化処理によって行われます。

FastBuild ユーティリティメニュー画面で【5】キーを押すと Rebuild Array メニュー画面が表示されます。



各項目で表示される内容は、以下のとおりです。

項目	内容
Array No	アレイ構成の番号が表示されます。
RAID Mode	RAID モード (Strip / Mirror) が表示されます。
Total Dev	使用しているディスク数が表示されます。
Capacity (MB)	ドライブの容量 (MB 単位) が表示されます。
Status	アレイ構成の状態が表示されます。

■ リビルドの方法

- 1 リビルドを行うアレイ構成に【↑】【↓】キーでカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
- 2 リビルド先のハードディスク選択画面が表示されるので、【Enter】キーを押します。
リビルド先ハードディスクへの複製（二重化：リビルド）が開始されます。

POINT

- ▶ 処理中に【Ctl】+【Alt】+【Delete】キーを押すと、サーバ本体を再起動し、OS 起動後にバックグラウンドで処理が行われます。

- 3** 処理が終了すると、以下のメッセージが表示されます。

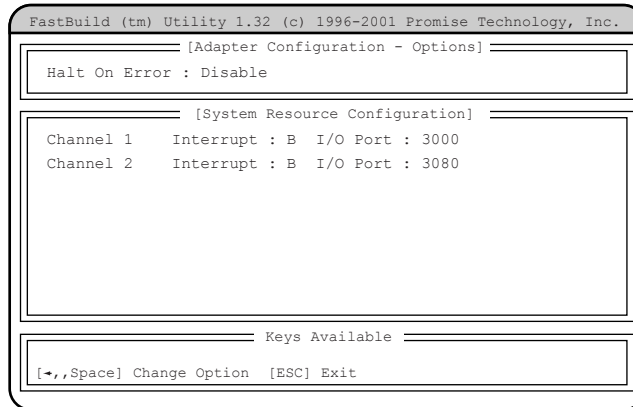
```
Array was recovered.....  
<Press Any Key to REBOOT>
```

- 4** 何かキーを押すと、サーバ本体が再起動します。

5.4.7 Controller Configuration メニュー

オンボード IDE アレイコントローラ設定の表示/設定を行います。

FastBuild ユーティリティメニュー画面で **[6]** キーを押すと Controller Configuration メニュー画面が表示されます。



各メニューの設定値のマークは、次の意味を示します。

□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

項目	設定値	内容
Adapter Configuration - Options	—	
Halt On Error	<input type="checkbox"/> Enable <input checked="" type="checkbox"/> Disable	<ul style="list-style-type: none"> • Enable アレイ構成が Functional 状態でない場合、起動が停止します。 停止した際に [Ctrl] + [F] を押すと、FastBuild ユーティリティが起動します。また、[Esc] キーを押すと起動が再開されます。 • Disable アレイ構成が Functional 状態でない場合、起動時に「Press <Ctrl-F> to enter FastBuild(tm) Utility」と表示され、約 10 秒間停止します。 メッセージ表示中に [Ctrl] + [F] を押すと、FastBuild ユーティリティが起動します。
System Resources Configuration	—	<p>オンボード IDE アレイコントローラのシステムリソース情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Interrupt 各チャンネルに割り当てられた IRQ が表示されます。 • I/O Port 各チャンネルに割り当てられた I/O Port アドレスが表示されます。

5.5 BIOS 設定情報の退避／復元

本サーバには、BIOS セットアップユーティリティによって設定された情報の退避、復元処理を行う Server Management Tools が添付されています。

Server Management Tools を利用すると、本サーバの内蔵バッテリーの消耗などによって消去された設定情報を元の状態に復元できます。

Server Management Tools は、本サーバに添付の「Server Management Tools」ディスクに格納されています。

重要

- ▶ 次のいずれかの操作を行った場合、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。
 - ・本サーバを初めて使用する場合
 - ・BIOS セットアップユーティリティによって情報変更を行った場合
 - ・本サーバのハードウェア構成を変更した場合、具体的には、CPU、メモリ、ベースボードあるいは PCI カードの増減・変更があった場合

ここでは、Server Management Tools を使用するための準備、退避手順、復元手順および注意事項について説明します。

■ Server Management Tools を使用するための準備

Server Management Tools を使用するためには、以下のものを用意してください。

- ・本サーバに添付の ServerStart CD-ROM
- ・本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」
- ・本サーバに添付の「Server Management Tools」ディスク

■ Server Management Tools による BIOS 情報の退避

BIOS 情報の退避手順を以下に示します。

重要

- ▶ ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

- 1 電源を入れ、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----
1.Server Management Tool
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(RAIDUTIL)
4.Basic(Japanese Environment)
5.HDD firmware update
6.System Setup Utility(SSU) for N800
```

POINT

- ▶ 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。作成方法の詳細については、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。

- 2 「1.Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。

- 3 「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の退避を行います。

```
A:\>biossave.bat 【Enter】
```

重要

- ▶ Server Management Tools で既に退避処理を行ったことがある場合は、フロッピーディスク内に「FSCSMCTR.DAT」、「SAVECMOS.BIN」があります。これらのファイルを上書きすると BIOS 情報を復元する場合に正常に終了しない場合があるため、他のフロッピーディスクに移動、ファイル名を変更、または以下のコマンドを入力して削除してください。

```
A:\>deldat 【Enter】
```

- 4 正常に BIOS 情報を退避できた場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
Normal End.
```

- 5 退避情報ファイルが生成されていることを確認してください。

次のコマンドを入力し、以下のファイルが生成されていることを確認してください。

```
A:\>dir 【Enter】
SAVECMOS.BIN
FSCSMCTR.DAT
```

6 BIOS 情報の退避処理完了しました。

以上で、退避処理が完了し、電源を切れる状態になります。

■ Server Management Tools による BIOS 情報の復元

本サーバの内蔵バッテリーの消耗などによって、BIOS セットアップユーティリティで設定した情報が消去された場合、以下の手順で BIOS 情報の復元処理を行ってください。

重要

- ▶ プログラム実行中は電源を切らないでください。
- ▶ ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

1 電源を入れ、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----
1.Server Management Tool
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(RAIDUTIL)
4.Basic(Japanese Environment)
5.HDD firmware update
6.System Setup Utility(SSU) for N800
```

POINT

- ▶ 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。
作成方法の詳細については『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。

2 「1.Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。

DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。

3 「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

BIOS 退避情報ファイルが、フロッピーディスクにあることを確認してください。次のコマンドを入力し、以下のファイルがあることを確認してください。

```
A:\>dir 【Enter】
SAVECMOS.BIN
FSCSMCTR.DAT
```

4 以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の復元を行います。

```
A:\>biosrest.bat
```

5 正常に BIOS 情報を復元できた場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
Normal End.
```

6 BIOS の情報が有効になるのは次回のシステム再起動後です。サーバを再起動してください。

手順 1 と手順 2 を繰り返し、DOS プロンプト画面を表示させます。復元作業は完了し、電源を切れる状態になります。

重要

- ▶ Server Management Tools で BIOS 情報の退避／復元作業を実行中に以下のメッセージが表示されて処理が一時中断する場合があります。

```
Insert disk with \COMMAND.COM in drive A
Press any key to continue . . .
```

この場合は以下のようにしてください。

- ・フロッピーディスクを「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」に交換して何かキーを押します。
- ・以下のメッセージが表示されたら「Server Management Tools」ディスクをもう一度セットし直して何かキーを押します。

```
Insert disk with batch file
Press any key to continue . . .
```

■ 注意事項

- Server Management Tools は、本サーバ専用です。他のサーバでは絶対に使用しないでください。使用した場合、システムが破壊される可能性があります。
- Server Management Tools は、BIOS セットアップユーティリティによって設定される 情報のみを回避/復元します。内蔵 SCSI 装置や増設カードの BIOS 情報については回避復元できません。
- Server Management Tools は、上記方法でサーバを起動した状態で実行してください。他のフロッピーディスクやハードディスクから起動された状態で Server Management Tools を実行しないでください。実行した場合、システムが破壊される可能性があります。
- フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。取り出した場合、フロッピーディスクのデータ破壊だけでなくシステムの状態が不安定となる可能性があります。
- Server Management Tools を実行中に、次に示すエラーメッセージが表示される可能性があります。対処方法に従ってください。なお、次に示すメッセージ以外が表示された場合は担当保守員に連絡してください。

メッセージ	対処
Write protect error writing drive A. Abort, Retry, Fail?	セットされたフロッピーディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクト状態を解除したあと、【R】キーを押してください。
Not ready writing drive A. Abort, Retry, Fail?	フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていない状態です。正しいフロッピーディスク（「Server Management Tools」ディスク）をセットしたあと、【R】キーを押してください。
ERROR:Fail to create data file.	以下の原因が考えられます。フロッピーディスクの状態を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> フロッピーディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクトを解除してから再度実行してください。 フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。 フロッピーディスクの内容が異常です。再度、「Server Management Tools」を作成してください。BIOS 情報の復元中に発生した場合は、BIOS セットアップユーティリティにて情報を設定してください。そのあと、BIOS 情報の退避処理を行ってください。
ERROR:Fail to write 1st CMOS data into data file. XX	
ERROR:Fail to write 2nd CMOS data into data file. XX	
ERROR:Fail to write ESCD data into the data file. XX	
ERROR:Fail to write SEEPROM data into the data file. XX	セットされたフロッピーディスク内に BIOS 情報を復元するためのファイルが存在しません。BIOS 情報を退避したフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。
ERROR:Fail to open data file.	
ERROR:Fail to write 1st CMOS data into sysytem. XX	
ERROR:Fail to write 2nd CMOS data into sysytem file. XX	
ERROR:Fail to write ESCD data into system file. XX	以下の原因が考えられます。フロッピーディスクの状態を再確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。 他のモデルまたはサポートしていない版数の BIOS 情報です。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。 フロッピーディスクの内容が異常です。再度、「Server Management Tools」を作成してください。BIOS 情報の復元中に発生した場合は、BIOS セットアップユーティリティにて情報を設定してください。そのあと、BIOS 情報の退避処理を行ってください。
ERROR:Fail to write SEEPROM data into system. XX	
その他のメッセージ	担当保守員に連絡してください。

第 6 章

保守について

6

この章では、日常のお手入れの方法や、トラブル発生時の解決方法などの保守情報について説明しています。

6.1 本サーバの確認	116
6.2 お手入れ	117
6.3 バックアップ	121
6.4 トラブルシューティング	123
6.5 エラーメッセージ	127
6.6 イベントログ	129
6.7 Server Management Tools	131
6.8 保守員に連絡するときは	137

6.1 本サーバの確認

状態表示ランプやサーバ監視ツールで、サーバ本体の状態を確認してください。

■ 各種ランプの確認

本サーバには、ハードウェアの各種状態を表示するランプ（LED）が付いています。サーバ起動時などに、各種ランプでサーバの状態を確認してください。各状態表示ランプの位置と機能については、「第1章 名称と働き」（→ P.11）を参照してください。

■ サーバ監視ツール（ServerView）

ServerView は、サーバの大切な資源を保護するために、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうか監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバのハードウェアが常時監視下におかれ、万一トラブルの原因となり得る異常が検出された場合には、管理者にリアルタイムに通知されるため早期発見ができます。これにより、サーバ管理者は早期に対応してシステム異常を取り除き、トラブルを未然に防ぐことができます。

ServerView およびその他の高信頼ツールの概要とインストールについては、『ソフトウェアガイド 第1章 概要』および『ソフトウェアガイド 第5章 高信頼ツール』を参照してください。また、ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

6.2 お手入れ

未然にトラブルを防止するためにも、定期的にサーバ本体や各種オプション装置のお手入れを行ってください。

警告



- お手入れをする前に、本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。また、本サーバに接続してある周辺装置も電源を切り、本サーバから取り外してください。感電の原因となります（→「3.3 電源を切る」(P.29)）。

6.2.1 サーバ本体のお手入れ

柔らかい布で乾拭きします。乾拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、サーバ本体に水が入らないようにご注意ください。

6.2.2 キーボードのお手入れ

柔らかい布で乾拭きします。

6.2.3 マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布で乾拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、以下のとおりです。

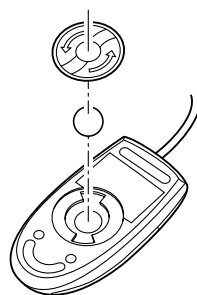
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



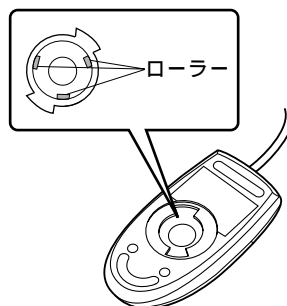
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスを裏返し、ボールを取り出します。そのあと、水洗いします。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



4 ボール、裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

6.2.4 フロッピーディスクドライブのクリーニング

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。以下のクリーニングフロッピーディスクを使い、3カ月に1回程度の割合で清掃してください。

品名	商品番号
クリーニングフロッピーマイクロ	0212116

クリーニング方法は、以下のとおりです。

⚠ 注意



- ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。
ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

1 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----
1.Server Management Tool
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(RAIDUTIL)
4.Basic(Japanese Environment)
5.HDD firmware update
6.System Setup Utility(SSU) for N800
```

POINT

- ▶ 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。作成方法の詳細については、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。
- 2 「4.Basic (Japanese Environment)」を選択し、【Enter】キーを押します。
DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。
 - 3 以下のコマンドを入力し、cldsk.exe を実行します。

```
A:¥>cldsk 0 【Enter】
```

- 4 「クリーニングディスクをドライブ 0 にセットして [Enter] キーを押してください。」と表示されます。
- 5 クリーニングフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
- 6 以下のメッセージが表示されたら、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして【R】キー（再試行）を入力してください。

「ヘッドクリーニングが終了しました。」
エラーです。読み取り中 ドライブA
中止 (A) , 再試行 (R) , 失敗 (F) ?

- 7 DOS プロンプトが表示されたら終了です。
フロッピーディスクを取り出してください。

6.2.5 各オプション装置について

各オプション装置のお手入れについては各オプション装置の取扱説明書を参照してください。

6.3 バックアップ

本サーバは信頼性の高い部品やハードディスクを使用しておりますが、万一の故障に備え、データの定期的なバックアップを必ず実施してください。

6.3.1 バックアップの必要性

サーバのデータがバックアップされていれば、ハードウェアの故障や操作ミスなどによりハードディスクユニット内のデータが破壊された場合でも、バックアップデータからシステムを復旧させることが可能です。バックアップが作成されていないと、お客様の大切なデータが失われてしまいます。システムを安心して運用していただくために、定期的なバックアップを必ず実施してください。

6.3.2 バックアップ装置とソフトウェア、およびその運用

バックアップの運用方法はご使用になるネットワーク OS やアプリケーション、システム運用方法によって異なります。そのため、担当営業員にご相談の上で次のものを準備してバックアップを実施してください。

- バックアップ装置（DDS4 ドライブなど）
- バックアップソフトウェア
（OS 標準提供のバックアップ用ソフトウェア、ARCserve、Changer Option など）
- バックアップの運用方法（スケジュールなど）
バックアップ装置およびソフトウェアは弊社純正品をご使用ください。バックアップ媒体（テープなど）の保管にあたっては保管条件をお守りください。

■ バックアップの運用に関する留意事項

バックアップの運用に関する留意事項を以下に示します。
詳細については各装置の取扱説明書を参照してください。

- **ヘッドクリーニングの実施**

磁気テープ装置では、磁気媒体から染み出る汚れや浮遊塵埃により、ヘッド汚れが発生し、これらの汚れを取り除くためにヘッドクリーニングが必要です。装置がクリーニング要求を表示した場合は、ヘッドクリーニングを実施してください。特に DDS 装置は、定期的なヘッドクリーニングが行われない場合、磁気ヘッドに汚れがこびり付いて通常のヘッドクリーニングでは除去できなくなり、装置が使用不能になる場合があります。また、クリーニング媒体は使用回数に限度がありますので、寿命を管理してください。寿命の過ぎたクリーニング媒体を使用しても、クリーニング効果はありません。特にライブラリ装置での自動バックアップではこの点にご注意ください。

- **媒体の寿命管理**

媒体は消耗品であり、定期的な交換が必要です。

寿命の過ぎた媒体を使い続けるとヘッド汚れを加速するなど、装置に悪影響を与えます。媒体の寿命は、装置の設置環境、動作状態、バックアップソフトウェアの種類、運用条件により大きく変化しますが、早めの交換をお勧めします。

寿命の目安にするため、媒体に使用開始日を表示してください。

- **媒体のローテーション運用**

1巻の媒体でバックアップを繰り返すような運用では、バックアップに失敗した場合、一時的にでもバックアップデータがなくなる状態になります。また、バックアップ中にハードディスクが壊れた場合は、復旧不能な状態になります。

バックアップは数本の媒体をローテーションして運用してください。

- **媒体入れ放し運用の禁止**

媒体は装置内では磁気記録面が露出しており、この状態が長く続くと浮遊塵埃の影響を受けやすくなります。この状態が少なくなるように媒体は使用前にセットし、使用後は取り出して、ケースに入れて保管してください。

また、磁気テープ装置では、媒体が取り出されるときにテープに管理情報の書き込み処理を行うものがあります。装置に媒体を入れたまま電源を切ると、この処理が行われなため、異常媒体が作成される場合があります。

サーバ/装置の電源を切る場合は、装置から媒体を取り出してください。

- **バックアップ終了後のデータの検査**

バックアップソフトウェアには、バックアップ終了後に「データの検査」の実行を指定できるものがあります。この指定を行うと、バックアップ終了後に媒体に書き込んだデータを読み出し、書き込まれたデータの検査が行われますが、媒体の使用回数が増えるため、その媒体をバックアップに使用できる回数は少なくなります。

ハードウェアにより、データの書き込み後の読み取り確認（Read after Write）が行われる装置では、本指定は必要に応じて行ってください。

- **バックアップ終了後の媒体の排出（イジェクト）**

バックアップソフトウェアには、バックアップ終了後に媒体をドライブから排出するように指定できるものがあります。この指定を行うとバックアップ終了後にテープが巻き戻され、媒体がドライブから排出されます。

オートローダ/ライブラリ装置では、必ず本機能の実行を指定してください。サーバ内蔵の装置で本指定を行うと、サーバの構造によっては排出された媒体がドライブを覆う筐体カバーにあたる場合があります。この場合は、ドアを開けておくか媒体の排出は行わないようにしてください。

- **媒体ラベルの種類と貼り付け位置**

媒体に名前などを表示する場合は、媒体に添付されているラベルを使用してください。

また、各装置の媒体にはラベルを貼ることのできる場所が決まっています。

装置故障の原因となりますので、決められた以外の場所にはラベルを貼らないようにしてください。

- **データの保管**

データを長期に保管する場合は、温湿度管理され、磁場の影響の少ない場所に保管してください。

6.4 トラブルシューティング

本サーバを操作してみて、うまく動作しない場合やディスプレイにエラーメッセージが表示される場合、「故障かな？」と思ったときには、以下のことを確認してください。

なお、オプションの装置については、オプション装置に添付の取扱説明書を参照してください。

6.4.1 サーバ本体について

サーバ本体に関するトラブルシューティングを以下に示します。

- **本体の電源が入らない、本体前面の電源ランプがつかない。**
 - －本体の電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。コンセントに接続してください。
 - 『はじめにお読みください』を参照してください。
- **アクセス表示ランプがつかない。**
 - －サーバ本体が故障している可能性があります。担当保守員に連絡してください。
 - 担当保守員に連絡する場合は、「6.8 保守員に連絡するときは」(→ P.137) を参照してから連絡してください。
- **ディスプレイにエラーメッセージが表示された。**
 - －「6.5 エラーメッセージ」(→ P.127) を参照してください。
- **LAN ドライバインストール時にエラーメッセージが表示される、LAN が正常に動作しない。**
 - －LAN 以外の拡張カードを含め、システム資源の競合が起きている可能性があります。いったんすべての LAN ドライバを削除し、システム資源の競合が起きていないことを確認し、システム再起動後に、再度 LAN ドライバをインストールしてください。
 - －「第 5 章 ハードウェアの設定について」(→ P.63) および『ソフトウェアガイド付録 A トラブルシューティング』を参照してください。
- **拡張カードを増設したときに、他の拡張カードまたはオンボードデバイスが認識されない。**
 - －認識されなくなった拡張カードまたはオンボードデバイスのドライバを再度インストールしてください。

6.4.2 ディスプレイについて

ディスプレイに関するトラブルシューティングを以下に示します。

● **ディスプレイの電源が入らない。**

—ディスプレイの電源ケーブルをコンセントに接続してください。

『はじめにお読みください』およびディスプレイの取扱説明書を参照してください。

● **画面に何も表示されない。**

—ディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。接続されていない場合は、サーバ本体の電源を切ってから、ケーブルを正しく接続しなおしてください。

『はじめにお読みください』を参照してください。

—ディスプレイのブライトネスボリュームとコントラストボリュームが正しく調節されているか確認してください。調節されていない場合は、正しく調節してください。

調節方法については、ディスプレイの取扱説明書を参照してください。

—拡張RAMモジュールのシステム領域が異常の可能性があります。担当保守員に連絡してください。

● **入力した文字が表示されない、マウスカーソルが動かない。**

—キーボードおよびマウスが正しく接続されているか確認してください。接続されていない場合は、サーバ本体の電源を切ってからケーブルをサーバ本体に正しく接続してください。

『はじめにお読みください』を参照してください。

● **画面が揺れる。**

—近くにテレビやスピーカなどの強い磁界が発生するものがある場合、それらをディスプレイから離して置いてください。

また、近くで携帯電話の着信を受けると揺れることがあります。ディスプレイの近くで携帯電話を使用しないようにしてください。

6.4.3 フロッピーディスクドライブについて

フロッピーディスクドライブに関するトラブルシューティングを以下に示します。

● **フロッピーディスクの読み書きができない。**

- －ヘッドが汚れている可能性があります。クリーニングフロッピーディスクでクリーニングしてください。
- 「6.2.4 フロッピーディスクドライブのクリーニング」(→ P.119) を参照してください。

● **フロッピーディスクへの書き込みができない。**

- －ヘッドが汚れている可能性があります。クリーニングフロッピーディスクでクリーニングしてください。
- 「6.2.4 フロッピーディスクドライブのクリーニング」(→ P.119) を参照してください。
- －フロッピーディスクが書き込み禁止になっているか確認してください。
- 書き込み禁止になっている場合は、ライトプロテクトを書き込み可能な位置にしてください。

6.4.4 内蔵ハードディスクユニットについて

内蔵ハードディスクユニットに関するトラブルシューティングを以下に示します。

● **ユニットが正常に動作しない。**

- 「4.5 内蔵ハードディスクユニットの取り付け」(→ P.49) を参照してください。
- －内蔵ケーブルが正しく接続されているか確認してください。接続されていない場合は、内蔵ケーブルを正しく接続してください。
- －ジャンパピンが正しく設定されているか確認してください。設定されていない場合は、ジャンパピンを正しく設定しなおしてください。

6.4.5 CD-ROM ドライブユニット (オプション) について

CD-ROM ドライブユニット (オプション) に関するトラブルシューティングを以下に示します。

● **データの読み込みができない。**

- －CD を正しくセットしているか確認してください。セットされていない場合は、CD のレーベル面を正しくセットしてください。
- －CD が汚れている可能性があります。汚れている場合は、乾いた柔らかい布で汚れを落としてください。
- －CD に傷がついていたり、反っていませんか。傷がついていたりする場合は、CD を交換してください。

● **ユニットが正常に動作しない。**

- －内蔵ケーブルが正しく接続されているか確認してください。接続されていない場合は、内蔵ケーブルを正しく接続してください。

6.4.6 外付け SCSI 装置について

外付け SCSI 装置に関するトラブルシューティングを以下に示します。

● **ユニットが正常に動作しない。**

「4.6.3 SCSI カードの留意事項」の「■ SCSI カードを使用した接続形態」(→ P.58)を参照してください。

- －ジャンパピンが正しく設定されているか確認してください。設定されていない場合は、ジャンパピンを正しく設定し直してください。
- －SCSI 規格の装置の場合、SCSI ID および終端抵抗が正しく設定されていますか。設定されていない場合は、SCSI ID および終端抵抗を正しく設定し直してください。

6.5 エラーメッセージ

本サーバによる POST (Power On Self Test : 本サーバ起動時に行われる装置チェック) エラーメッセージについて説明します。

POST 中にエラーが発生した場合、以下のメッセージが表示されます。

メッセージ	内容
CMOS Battery Bad	システムボード上のバッテリーが異常です。 担当保守員に連絡してください。
CMOS Checksum Error	Server Management Tools でシステム情報を復元してください。 →「5.5 BIOS 設定情報の退避/復元」(P.108) そのあともこのメッセージが表示される場合は、バッテリーの交換が必要です。担当保守員に連絡してください。
CPU Clock Mismatch	何らかの理由で CPU クロックが変更されました。 担当保守員に連絡してください。
Diskette drive A Error	BIOS セットアップユーティリティの「5.3.8 Disk Drives メニュー」(→ P.74) で「Floppy Drive A」の設定値を確認します。フロッピーディスクドライブのケーブルが正しく接続されているか確認してください。
Diskette drive B Error	
Diskette Drive Controller Error	BIOS セットアップユーティリティの「5.3.8 Disk Drives メニュー」(→ P.74) で「Floppy Drive A」の設定値を確認します。フロッピーディスクドライブのケーブルが正しく接続されているか確認してください。
Expansion ROM Allocation Fail	拡張カードの設定情報に誤りがあります。
IDE Primary Channel Master Drive Error	BIOS セットアップユーティリティの「5.3.8 Disk Drives メニュー」(→ P.74) で「IDE Primary Channel Master」の設定を確認してください。CD-ROM へのケーブルの接続およびジャンプの設定を確認してください。そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。
Memory Error at : MMM: SSSS: 0000h	RAM モジュールが異常です。RAM モジュールを交換してください。 →「4.3 拡張 RAM モジュールの取り付け/取り外し」(P.42)
NVRAM Checksum Error	Server Management Tools でシステム情報を復元してください。 →「5.5 BIOS 設定情報の退避/復元」(P.108) そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。
Onboard Serial 1 Conflict (s)	BIOS セットアップユーティリティを再実行して、シリアルポートの資源とその他の設定を見直してください。 →「5.3.16 Advanced Options メニュー」(P.89) そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。
On Board xxx... Conflict (s)	システム資源 (IRQ、DMA チャンネル、I/O ポートアドレス) が競合しています。 BIOS セットアップユーティリティを再実行し、システム資源の設定を見直してください。 →「5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」(P.66) そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。

メッセージ	内容
PCI Device Error	PCI デバイス（オンボード、拡張カード）が異常です。拡張カードが正しく搭載されているか確認してください。そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。
PS/2 Keyboard Interface Error	キーボードが異常です。キーボードまたはマウスを交換してください。交換後もメッセージが表示される場合は、ベースボードの交換が必要です。担当保守員に連絡してください。
PS/2 Keyboard Locked	キーボードが正しく接続されているかどうか確認してください。そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。
PS/2 Keyboard Error or Keyboard Not Connected	
PS/2 Pointing Device Error	マウスが正しく接続されているか確認してください。
PS/2 Pointing Device Interface Error	マウスが正しく接続されているか確認してください。そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。
PS/2 Pointing Device IRQ Conflict	マウスと拡張カードの間で、IRQ が競合しています。 BIOS セットアップユーティリティを再実行して、システム資源の設定を見直してください。 →「5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」(P.66) そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。
System Management Memory Bad	RAM モジュールが異常です。担当保守員に連絡してください。
System Resource Conflict	BIOS セットアップユーティリティを再実行し、「5.3.16 Advanced Options メニュー」の「■ PnP/PCI Options サブメニュー」(→ P.91) で「Reset Resource Assignments」を「Yes」に設定します。 そのあともこのメッセージが表示される場合は、担当保守員に連絡してください。

6.6 イベントログ

ここでは、以下について説明します。

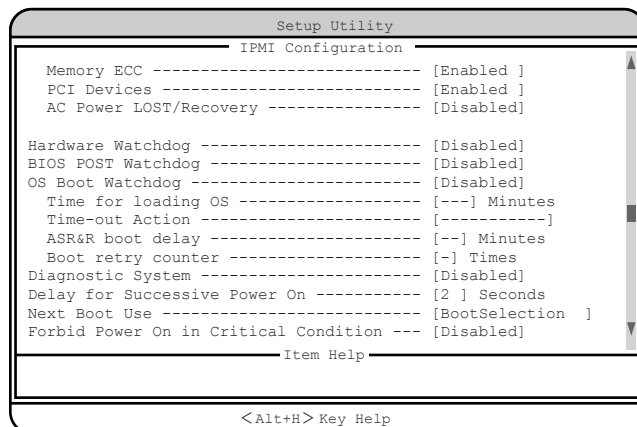
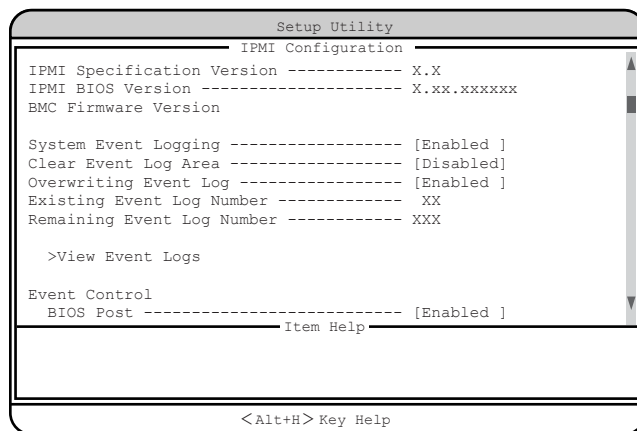
- ・ イベントログを採取するための設定
- ・ イベントログの参照

なお、イベントログが発生した場合は、「6.7 Server Management Tools」(→ P.131) でログを保存し、担当営業員に連絡してください。

6.6.1 イベントログを採取するための設定

イベントログを採取するための設定は、BIOS セットアップユーティリティの IPMI Configuration メニューで行います。

以下に、IPMI Configuration メニューを示します。



- イベントログを採取するための設定は、「System Event Logging」を「Enabled」に設定し、同時に「Event Control」の各項目を「Enabled」に設定しておきます。
- 「>View Event Logs」を選択すると、イベントログが表示されます。
- 「Clear Event Log Area」を「Enabled」に設定すると、イベントログを消去できます。なお、イベントログが消去されるのは、次の再起動時です。
- イベントログエリアがいっぱいになったとき、および未参照のイベントログがある場合は、POST 中にメッセージが表示されます。メッセージの詳細については、「6.5 エラーメッセージ」(→ P.127)を参照してください。

各設定項目の詳細は、「5.3.14 IPMI Configuration メニュー」(→ P.85)を参照してください。

6.6.2 イベントログの参照

IPMI Configuration メニューから「>View Event Logs」を選択すると、イベントログを参照できます。

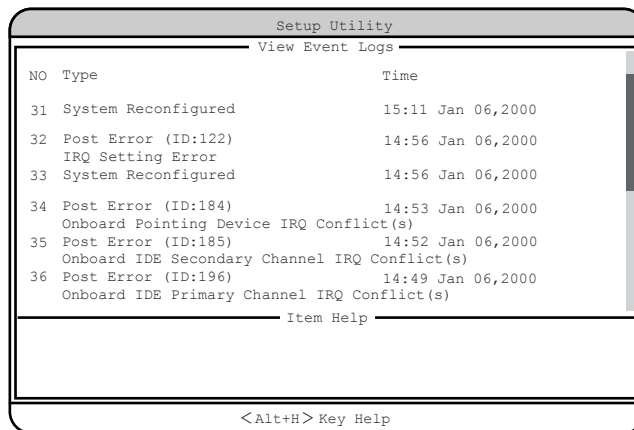
イベントログは、イベントログ参照メニューで参照します。

イベントログ参照メニューには、以下のものが表示されます。

- イベントログの通し番号
- イベントログのタイプ
- イベントログの検出時刻

なお、イベントログの表示順序と時刻情報が前後する場合や、同一要因に対するイベントログが2回記録されることがあります。

以下に、イベントログ参照メニューを示します。



NO	Type	Time
31	System Reconfigured	15:11 Jan 06,2000
32	Post Error (ID:122) IRQ Setting Error	14:56 Jan 06,2000
33	System Reconfigured	14:56 Jan 06,2000
34	Post Error (ID:184) Onboard Pointing Device IRQ Conflict(s)	14:53 Jan 06,2000
35	Post Error (ID:185) Onboard IDE Secondary Channel IRQ Conflict(s)	14:52 Jan 06,2000
36	Post Error (ID:196) Onboard IDE Primary Channel IRQ Conflict(s)	14:49 Jan 06,2000

Item Help

<Alt+H> Key Help

6.7 Server Management Tools

ここでは、Server Management Tools の使用方法について説明します。

Server Management Tools は、BMC (Baseboard Management Controller : ベースボード上で温度や電圧などのセンサ等を管理しているマイクロコントローラ) に保存されているイベントログに対して、次のことができます。

- イベントログの表示
- ログの保存
- ログの消去
- Remote Control Service 用の設定

なお、イベントログが発生した場合は、Server Management Tools でログを保存し、担当保守員に連絡してください。

■ 注意事項

- Server Management Tools は、本サーバ専用です。他システムでは絶対に使用しないでください。使用した場合、システムを破壊する可能性があります。
- Server Management Tools は、下記方法で、サーバを起動した状態で実行してください。他のフロッピーディスクやハードディスクから起動された状態で本ツールを実行しないでください。実行した場合、システムを破壊する可能性があります。
- フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないように注意してください。取り出した場合、フロッピーディスクのデータが破壊される可能性があります。

6.7.1 Server Management Tools の起動と終了

■ Server Management Tools の起動

Server Management Tools の起動方法は、以下のとおりです。

⚠ 注意



- ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

1 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----

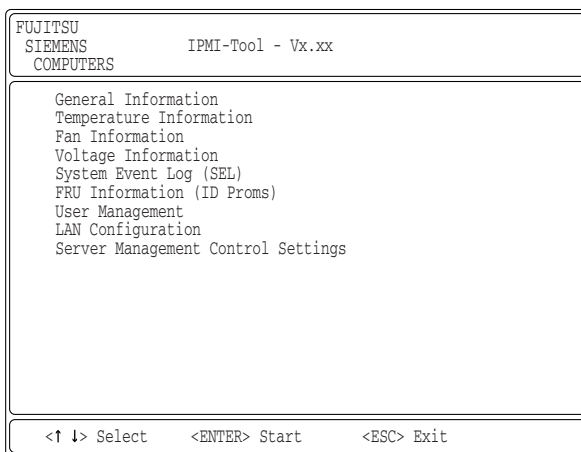
1.Server Management Tool
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(RAIDUTIL)
4.Basic(Japanese Environment)
5.HDD firmware update
6.System Setup Utility(SSU) for N800
```

🔍 POINT

- ▶ 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。
作成方法については、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。
- 2 「1.Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。
DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。
- 3 本サーバに添付の「Server Management Tools V1.0L10」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
以下のコマンドを入力します。

```
A:¥>ipmiview 【Enter】
```

4 Server Management Tool のメニュー画面が表示されます。



5 【↑】【↓】キーで項目を選択して【Enter】キーを押すと、各項目の画面が表示されます。

⚠ 注意



- Server Management Tool では、以下の項目だけ使用できます。

- ・System Event Log (SEL)
- ・User Management
- ・LAN Configuration

Server Management Tool のメニュー画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
【↑】【↓】	メニュー項目を選択します。
【Enter】	選択した項目を実行します。
【Esc】	Server Management Tool を終了します。

■ Server Management Tool の終了

- 1 Server Management Tool のメニュー画面で【Esc】キーを1回押します。
- 2 以下の DOS プロンプトが表示され、電源を切れる状態になります。

```
A:¥>
```

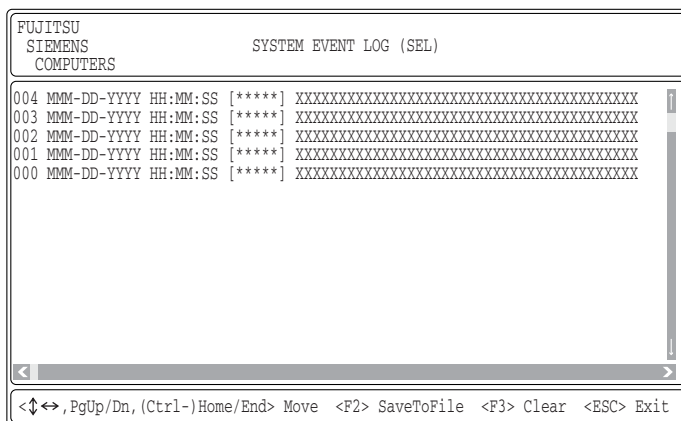
6.7.2 イベントログの参照／保存／消去

イベントログの参照／保存／消去は、SYSTEM EVENT LOG (SEL) 画面で行います。

■ SYSTEM EVENT LOG (SEL) 画面の起動

以下に SYSTEM EVENT LOG (SEL) 画面の起動方法を示します。

- 1 Server Management Tool を起動します。
- 2 「System Event Log (SEL)」を選択し、【Enter】キーを押します。
SYSTEM EVENT LOG (SEL) 画面が表示されます。



SYSTEM EVENT LOG (SEL) 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
【↑】、【↓】、【←】、【→】、【PageUp】、【PageDown】、【Ctrl】 + 【Home】、【Ctrl】 + 【End】	画面をスクロールします。
【Esc】	SYSTEM EVENT LOG (SEL) 画面を終了し、Server Management Tool のメニュー画面に戻ります。
【F2】	ログを保存します。
【F3】	ログを消去します。

■ ログの保存

- 1 SYSTEM EVENT LOG (SEL) 画面で、【F2】キーを押します。
- 2 ログを保存するファイルのファイル名を入力し、【Enter】キーを押します。
- 3 フロッピーディスクに、手順2で指定したファイル名でログが保存されます。

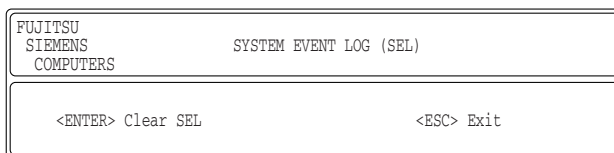
■ ログの消去

イベントログがいっぱいになると、古いログから順番に新しいログで上書きされるため、定期的に Server Management Tool を起動してイベントログを確認し、必要に応じてログを保存／消去してください。

以下にイベントログの消去方法を示します。

1 SYSTEM EVENT LOG (SEL) 画面で、【F3】キーを押します。

以下の画面が表示されます。



2 【Enter】キーを押します。

イベントログが消去されます。

6.7.3 Remote Control Service をご使用になる前に

Remote Control Service をご使用になる前に、以下の操作を行ってください。

- 1 Server Management Tool を起動します。
- 2 「User Management」 を選択し、【Enter】 キーを押します。
USER MANAGEMENT 画面が選択されます。

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS	USER MANAGEMENT
<pre> ID --- USER NAME --- 1 2 USER2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 </pre>	
<p><ENTER> ConfigureUser <ESC> Exit</p>	

- 3 USER MANAGEMENT 画面で ID2 以降にユーザ名とパスワードを設定します。
USER MANAGEMENT 画面で ID を選択して、【Enter】 キーを押して設定します。
- 4 Server Management Tool のメニュー画面に戻ります。
USER MANAGEMENT 画面上で 【Esc】 キーを押して戻ります。
- 5 「LAN Configuration」 を選択して 【Enter】 キーを押します。
LAN CONFIGURATION 画面が表示されます。
「1. LAN Channel」 を選択し、【Enter】 キーを押して、本体 LAN B 側の IP Address および MAC Address を設定してください。

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS	LAN CONFIGURATION
<pre> 1. LAN Channel </pre>	
<p><ENTER> GeneralSettings <F2> SNMP-PET-Destinations <ESC> Exit</p>	

6.8 保守員に連絡するときは

どうしても故障の原因がわからないときや、元の状態に戻せないときは、お買い上げの販売店または担当保守員に連絡してください。連絡の際は、事前に次のことを確認して、保守員に伝えられるようにしておいてください。

『はじめにお読みください』のコンフィグレーションシートおよび「7.6 障害連絡シート」(→ P.150) に必要事項を記入しておく、便利です。

- サーバ本体のモデル名と型名 (サーバ本体底面のラベルに表示されています。)
- サーバ本体のセットアップ情報 (取り付けてある内蔵オプションの種類や設定など)
- コンフィグレーション設定情報 (BIOS セットアップユーティリティ、FastBuild ユーティリティでの設定値)
- 使用している OS
- LAN/WAN システム構成
- 現象 (何をしているときに何が起きたか、画面にどのようなメッセージが表示されたか。)
- 発生日時
- サーバ本体設置環境
- 各種ランプの状態

第7章

技術情報

7

この章では、サーバ本体の仕様および運用上の留意点について説明しています。

7.1 仕様	140
7.2 24時間運用上の留意点	142
7.3 LAN経由の電源投入／切断時の留意点	143
7.4 リモートコントロール機能について	144
7.5 リモートインストールを行う場合の準備	148
7.6 障害連絡シート	150

7.1 仕様

ここでは、本サーバの本体仕様および内蔵ハードディスクユニットの仕様を説明します。

7.1.1 本体仕様

本サーバの仕様は、次のとおりです。

他の周辺装置の仕様については、各装置に添付の取扱説明書をご覧ください。

タイプ		HD タイプ	Windows 2000 アレイタイプ	Linux アレイタイプ	Linux タイプ
型名		PGL1BC1R	PGL1BCRJK	PGL1BCRJG2	PGL1BCRJG
CPU	周波数/ キャッシュ	インテル® Celeron® プロセッサ 1.7GHz / 128KB (基本 CPU 変換機構を使用した場合：インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.4BGHz / 512KB)			
	マルチ数	1 (最大 1)			
メモリ	標準	256MB (256MB DIMM × 1 枚)			
	増設単位	256MB / 512MB / 1GB			
	最大容量	3GB (3 スロット 1GB DIMM × 3 枚)			
ビデオ RAM 容量		8MB			
グラフィックス		VGA チップ：ATI RAGE XL 648 × 480、800 × 600、1024 × 768、1280 × 1024、1600 × 1200 表示色：解像度、OS などによって異なる			
内蔵 CD-ROM ベイ		1 ベイ (オプション) 種類：24 倍速 CD-ROM ユニット (IDE)			
内蔵 3.5 インチハードディスクベイ		2 ベイ			
標準	標準	80.0GB × 1	80.0GB × 2 (IDE)		80.0GB × 1 (IDE)
	増設単位	80GB (7200rpm、IDE)	増設不可 (全ベイ標準搭載済み)		80GB (7200rpm、IDE)
	内蔵最大	80.0GB × 2 = 160.0GB			
拡張スロット		PCI × 2 (64bit/33MHz) 1 スロットは Low-Profile PCI カード専用 (*1)			
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ (2 モード 1.44MB / 720KB) 標準搭載			
ネットワーク		LAN (100BASE-TX / 10BASE-T)、LAN (1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T) (ベースボード標準搭載)			
インタフェース		シリアル × 1、キーボード、マウス、モニタ、USB × 3			
キーボード/マウス		オプション			
外形寸法 (単位：mm)		横幅 430 × 奥行き 420 (突起物含む) × 高さ 43 (占有ユニット 1U)			
質量		最大 9.0kg			
内蔵時計精度		誤差 2 ~ 3 分/月			
消費電力		最大 203W / (最大 731kJ/h)			
電源		AC100V (50/60Hz) / 二極接地型			
電源ユニット		標準で 1 台、最大 1 台 (冗長電源なし)			
ファン		5 個 (Housing ファン × 2、CPU 用ファン × 2、電源用ファン × 1：冗長ファンなし)			
エネルギー消費効率 (*2)		インテル® Celeron® プロセッサ 1.7GHz：K 区分、0.016 (インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.4BGHz：K 区分、0.012)			

*1) Extension スロットカバーを取り付けることにより、LowProfile PCI カードを Standard PCI スロットに取り付けることができます。

*2) エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

本サーバの仕様は、改善のため予告なしに変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

7.1.2 内蔵ハードディスクユニットの仕様

内蔵ハードディスクユニットの仕様を次に示します。

型名	PG-HD8E7F
インタフェース	E-IDE
記憶媒体	3.5 インチハードディスク
記憶容量 (注 1)	80.0GB
最大データ転送速度	100MB/s (Ultra ATA 100)
平均回転待ち時間	4.17ms
回転数	7200rpm
外形寸法 (WxDxH)	101.8 × 147.0 × 26.1 (mm)
質量	0.54kg

注 1 : 記憶容量は、フォーマット時、1GB=1000³ byte 換算です。

7.2 24時間運用上の留意点

■ 無人運転について

装置として不慮の事故に対する安全性を高める必要から、オフィス内に適切な防災対策（耐震対策、煙探知器、温度センサーなど）が施され、かつ防災管理者（警備員、管理人など）が建物内に待機していることが必要です。

■ 誤切断防止

誤って電源を切らないように、専用の電源（分電盤など）を準備することを推奨します。

7.3 LAN 経由の電源投入／切断時の留意点

本サーバでは、WOL (Wakeup On LAN) 機能によってクライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源を投入／切断することができます。

POINT

- ▶ サーバ本体の電源ケーブルを抜いた場合や、停電などで電源が切れた場合は、本サーバを再起動してください。再起動しない場合、WOL 機能が動作しません。
- ▶ WOL 機能は、クライアントから最初に認識される LAN コントローラが WOL 機能に対応している場合にご使用になれます。本サーバでは、オンボード LAN 1 が WOL 機能に対応しています。

■ PCI Power Management 設定の確認

BIOS セットアップユーティリティを起動し、Power Management メニューの「PCI Power Management」項目を「Enabled」に設定してください。

詳細は、「5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」の「PCI Power Management」(→ P.79) を参照してください。

■ 電源投入／切断指示

Windows NT Server 4.0 をお使いの場合、「Power Management for Windows V1.1」により、LAN 経由での電源投入／切断指示ができます。本ソフトウェアは、サーバ／クライアントでそれぞれ必要となります。詳細は「Power Management for Windows V1.1」が格納されている ServerStart CD-ROM の中のオンラインマニュアル (Readme ファイル) を参照してください。

■ 電源投入／切断時の注意事項

LAN 経由で電源制御を行う場合は、必ず ServerView をインストールしてください。

ServerView がインストールされていない場合は、OS のシャットダウン完了後、自動的に電源が切れません。

7.4 リモートコントロール機能について

本サーバのシリアルポート とパーソナルコンピュータ（管理端末）をクロスケーブルで接続し、管理端末 から RS-232C 経由で、本サーバの電源切断／電源投入／リセットを行うことができます。

リモートコントロール機能を利用するには、以下の操作を行います。

- ・ 本サーバと管理端末の接続
- ・ Remote Control Setup ユーティリティを使用した本サーバ側の設定

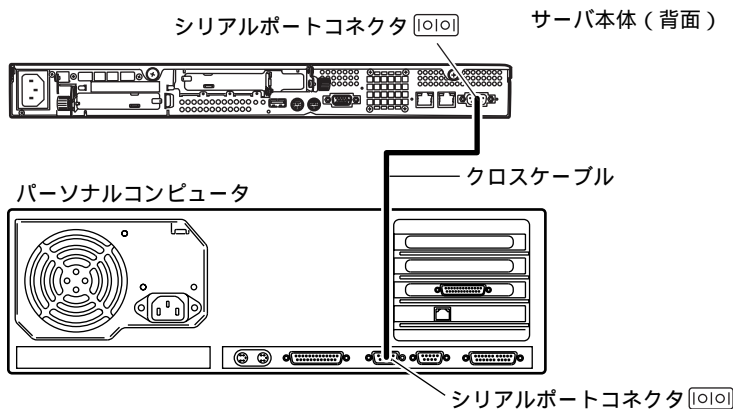
⚠ 注意



- RS-232C 経由でのリセット機能を使用する場合には、パーソナルコンピュータ上のターミナルソフトと Remote Control ユーティリティの通信速度および Flow 制御方法を同じ設定にする必要があります。
BIOS Console Redirection と併用する場合には、BIOS Console Redirection も同じ設定にする必要があります。

7.4.1 本サーバと管理端末の接続

本サーバと管理端末は、クロスケーブルで接続します。



⚠ 注意



- BIOS セットアップユーティリティを、以下のように設定する必要があります。
 - ・「5.3.15 Console Redirection メニュー」の「Console Redirection」（→ P.88）を「Null-Modem」に設定
 - ・「5.3.16 Advanced Options メニュー」の「■ Window XP EMS Function サブメニュー」（→ P.93）を設定

7.4.2 Remote Control ユーティリティの操作

リモートコントロール機能を利用するには、Remote Control ユーティリティを使用して本サーバの通信速度やパスワードなどを設定する必要があります。

■ 接続

- 1 RS-232C クロスケーブルで、シリアルポートコネクタと管理端末とを接続します。
- 2 ターミナルソフトを使用して、コネクションを張ります。

⚠ 注意



- Windows 2000 のハイパーターミナルでは接続できません。

■ サーバ本体の操作

以下の操作は、管理端末上のターミナルソフトで行います。

- 1 【Ctrl】 + 【¥】 キーを押します。
以下のメッセージが表示されます。

```
PRIMERGY SERVER Remote Control Feature
2002(c) FUJITSU / FUJITSU SIEMENS COMPUTERS All Right Reserved
Password:
```

- 2 パスワードを入力します。
ご購入時の状態ではパスワードは設定されていません。パスワードが設定されていない場合は、パスワードを入力せずに【Enter】キーを押します。
メニューが表示されます。

🔍 POINT

- ▶ パスワードを忘れた場合は、Server Management Tools 内の「RCA_Clr.bat」を起動すると、パスワードを含む「6.Customization」の変更内容を初期値に戻すことができます。

以下にメニューとその動作を示します。

```

1:Power On
2:Power Off
3:Reset
4:Shut Down
5:NMI
6:Customization
  (Support VT100 Only)
X:Exit
Please Key-In the number of command ...
    
```

メニュー	動作
Power On	サーバ本体の電源を入れます。
Power Off	サーバ本体の電源を切ります。
Reset	サーバ本体のリセットボタンを押します。
Shut Down	サーバ本体の電源ボタンを押します。Windows 2000 Server では、ACPI 機能を使ったシャットダウン操作となります。
NMI	本サーバでは未サポートです。
Customization (Support VT100 Only)	各設定を変更します。
Exit	メニューを終了します。

■ 設定の変更

```

1. Attention Key          1Ch
2. Password Setup
3. Timeout Value(Sec)    60
4. Save
X. Exit

```

Please press <Enter> to execute.

メニュー	内容																																																
Attention Key	<p>メニューに入るためのキーのアサインを変更できます。【Enter】キーで、1つずつ変化します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>キー</th> <th>コード</th> <th>キー</th> <th>コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【Ctrl】 + 【A】</td> <td>0x01</td> <td>【Ctrl】 + 【P】</td> <td>0x10</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【B】</td> <td>0x02</td> <td>【Ctrl】 + 【T】</td> <td>0x14</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【C】</td> <td>0x03</td> <td>【Ctrl】 + 【U】</td> <td>0x15</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【D】</td> <td>0x04</td> <td>【Ctrl】 + 【V】</td> <td>0x16</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【E】</td> <td>0x05</td> <td>【Ctrl】 + 【W】</td> <td>0x17</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【F】</td> <td>0x06</td> <td>【Ctrl】 + 【X】</td> <td>0x18</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【G】</td> <td>0x07</td> <td>【Ctrl】 + 【Y】</td> <td>0x19</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【K】</td> <td>0x0B</td> <td>【Ctrl】 + 【Z】</td> <td>0x1A</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【L】</td> <td>0x0C</td> <td>【Ctrl】 + 【[】</td> <td>0x1B</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【N】</td> <td>0x0E</td> <td>【Ctrl】 + 【\】</td> <td>0x1C</td> </tr> <tr> <td>【Ctrl】 + 【O】</td> <td>0x0F</td> <td>【Ctrl】 + 【]】</td> <td>0x1D</td> </tr> </tbody> </table>	キー	コード	キー	コード	【Ctrl】 + 【A】	0x01	【Ctrl】 + 【P】	0x10	【Ctrl】 + 【B】	0x02	【Ctrl】 + 【T】	0x14	【Ctrl】 + 【C】	0x03	【Ctrl】 + 【U】	0x15	【Ctrl】 + 【D】	0x04	【Ctrl】 + 【V】	0x16	【Ctrl】 + 【E】	0x05	【Ctrl】 + 【W】	0x17	【Ctrl】 + 【F】	0x06	【Ctrl】 + 【X】	0x18	【Ctrl】 + 【G】	0x07	【Ctrl】 + 【Y】	0x19	【Ctrl】 + 【K】	0x0B	【Ctrl】 + 【Z】	0x1A	【Ctrl】 + 【L】	0x0C	【Ctrl】 + 【[】	0x1B	【Ctrl】 + 【N】	0x0E	【Ctrl】 + 【\】	0x1C	【Ctrl】 + 【O】	0x0F	【Ctrl】 + 【]】	0x1D
キー	コード	キー	コード																																														
【Ctrl】 + 【A】	0x01	【Ctrl】 + 【P】	0x10																																														
【Ctrl】 + 【B】	0x02	【Ctrl】 + 【T】	0x14																																														
【Ctrl】 + 【C】	0x03	【Ctrl】 + 【U】	0x15																																														
【Ctrl】 + 【D】	0x04	【Ctrl】 + 【V】	0x16																																														
【Ctrl】 + 【E】	0x05	【Ctrl】 + 【W】	0x17																																														
【Ctrl】 + 【F】	0x06	【Ctrl】 + 【X】	0x18																																														
【Ctrl】 + 【G】	0x07	【Ctrl】 + 【Y】	0x19																																														
【Ctrl】 + 【K】	0x0B	【Ctrl】 + 【Z】	0x1A																																														
【Ctrl】 + 【L】	0x0C	【Ctrl】 + 【[】	0x1B																																														
【Ctrl】 + 【N】	0x0E	【Ctrl】 + 【\】	0x1C																																														
【Ctrl】 + 【O】	0x0F	【Ctrl】 + 【]】	0x1D																																														
Password	パスワードを設定します。																																																
Timeout Value (Sec)	タイムアウト値を 30 秒から 999 まで設定します。【Enter】キーで、1つずつ変化します。																																																
Save	<p>変更を保存します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「Are you save this setting ?」とメッセージが表示されたら、【Y】キーを押してください。 「Next Time Use New Setting To Log Maybe need 10 sec to save setting」とメッセージが表示されますので、10 秒ほどお待ちください。変更内容が反映され、使用できます。 																																																

7.5 リモートインストールを行う場合の準備

ネットワーク起動 (PXE) により ServerStart を起動し、リモートインストールを行う場合、以下のような準備が必要です。

リモートインストールの詳細は、『ソフトウェアガイド 3.5 リモートインストール』を参照してください。

■ ネットワーク起動 (PXE) 設定

ネットワーク起動 (PXE) により ServerStart を起動し、リモートインストールを行う場合は、オンボード LAN を経由して行います。あらかじめネットワーク起動 (PXE) を有効な状態にしておいてください。

- 1** BIOS セットアップユーティリティを起動します。
→ 「5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了」 (P.67)
- 2** Main メニューから【↑】【↓】キーで「Boot Options」を選択して、【Enter】キーを押します。
Boot Options メニューが表示されます。
- 3** 以下の項目を「Enabled」に変更します。
 - ・ LAN コネクタ A を使用する場合：「Boot from LANDesk(R) Service Agent A」
 - ・ LAN コネクタ B を使用する場合：「Boot from LANDesk(R) Service Agent B」
- 4** 設定を有効にするため、サーバを再起動します。
- 5** 再度 BIOS セットアップユーティリティを起動します。
- 6** Boot Options メニューの「Boot Sequence」の設定値を以下のように変更します。
 - 1st. [Intel(R) Boot Agent Version 1.1] (または [Intel(R) Boot Agent Version 4.1])
 - 2nd. [IDE CD-ROM]
 - 3rd. [Floppy Disk A:]
 - 4th. [Hard Disk C:]
- 7** BIOS セットアップユーティリティを終了し、サーバの電源を切ります。

■ オンボード LAN の MAC アドレスの確認

ネットワーク起動によりサーバを起動し、ServerStart を使用してリモートインストールを行う場合は、ターゲットサーバを MAC アドレスで識別し、インストールを行います。MAC アドレスは、LAN カード固有の情報のため、インストールを行うサーバごとに確認してください。

- 1** ネットワーク起動（PXE）の設定後、サーバをネットワーク起動します。
- 2** 画面に以下のように MAC アドレスが表示されます。

```
CLIENT MAC ADDR: XX XX XX XX XX XX
```

7.6 障害連絡シート

モデル名・型名	<input type="checkbox"/> PRIMERGY L100E (PG)	
OS		
設置環境		
LAN・WAN環境		
発生日時		
現象	何をしているときに何が起きたか。 画面にどのようなメッセージが表示されたか。	
	添付資料	有・無

オプション構成および設定内容は、『はじめにお読みください』の
 コンフィグレーションシートを使用してください。

索引

い

イベントログ	129
インレット	13

え

エラーメッセージ	127
----------	-----

お

オンボード LAN	60
-----------	----

か

拡張カードの種類	53
拡張カードの取り付け	54
拡張 RAM モジュール	42
拡張 RAM モジュールの取り付け	43
拡張 RAM モジュールの取り外し	43

き

キーボード	15
キーボードコネクタ	13
キーボードのお手入れ	117

さ

サーバ本体のお手入れ	117
------------	-----

し

システム識別灯	13
システム識別灯ボタン	12
システムファン	14
障害連絡シート	150
シリアルポートコネクタ	13

す

スロットの仕様	53
---------	----

せ

前面保守ランプ	12
---------	----

て

ディスプレイコネクタ	13
電源スイッチ	12
電源ユニット	14
電源ランプ	12
電源を入れる	28
電源を切る	29

と

搭載可能な拡張カード	54
トラブルシューティング (サーバ本体)	123
トラブルシューティング (ディスプレイ)	124
トラブルシューティング (フロッピー ディスクドライブ)	125
トラブルシューティング (SCSI 装置)	126
トラブルシューティング (内蔵ハード ディスクユニット)	125
トラブルシューティング (内蔵 CD-ROM ドライブユニット)	125

な

内蔵オプションの種類	38
内蔵ハードディスクユニットの仕様	141

は

ハードウェアのセキュリティ	20
ハードウェアの設定	65
ハードディスクアクセス表示ランプ	12
背面保守ランプ	13
パスワードの設定	22
バックアップ	121

ふ

フロッピーディスクドライブのクリーニ ング	119
フロッピーディスクドライブユニット	12
フロッピーディスクのセット	33
フロッピーディスクの取り出し	33

へ

ベースボード各部の名称..... 17

ほ

保守員に連絡するとき..... 137
本体仕様..... 140

ま

マウス..... 16
マウスコネクタ..... 13
マウスのお手入れ..... 118

ら

ラックキー..... 26, 20
ラックドアを開ける..... 26

り

リセットスイッチ..... 12
リモートインストール..... 148
リモートコントロール機能..... 144
リモートサービスボード..... 61

ろ

ログの消去..... 135

A

Alt キー..... 15
Application キー..... 15

B

Back space キー..... 15
BIOS 情報の退避..... 108
BIOS 情報の復元..... 110
BIOS セットアップユーティリティ..... 66
BIOS セットアップユーティリティの起動..... 67
BIOS セットアップユーティリティの終了..... 68

C

Caps Lock 英数キー..... 15
CD-ROM ドライブユニット..... 12
CD-ROM のセット..... 35
CD-ROM の取り出し..... 35

CPU..... 14
Ctrl キー..... 15

D

Delete キー..... 15
DIMM スロット..... 14, 42

E

End キー..... 15
Enter キー..... 15
Esc キー..... 15

F

F キー..... 15
FastBuild ユーティリティ..... 95
FastBuild ユーティリティの起動..... 96
FastBuild ユーティリティの終了..... 96

H

Home キー..... 15

I

Insert キー..... 15

L

LAN カード..... 60

N

NMI スイッチ..... 12

P

Page Down キー..... 15
Page Up キー..... 15
Pause キー..... 15
PCI スロット..... 13, 14
POST..... 127
Print Screen キー..... 15

R

Remote Control ユーティリティの操作..... 145
Remote Control Service..... 136
Remote Control Setup ユーティリティ..... 144, 145
RS-232C カード..... 61

S

Scroll Lock キー	15
Server Management Tools	108
Space キー	15

U

USB コネクタ	12, 13
----------------	--------

W

Wakeup On LAN 機能	143
Windows キー	15

その他

10/100/1000BASE-T コネクタ	13
10/100BASE-TX コネクタ	13
3.5 インチストレージベイ	14

PRIMERGY L100E

ハードウェアガイド
B7FH-1151-01-00

発行日 2003年1月
発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

